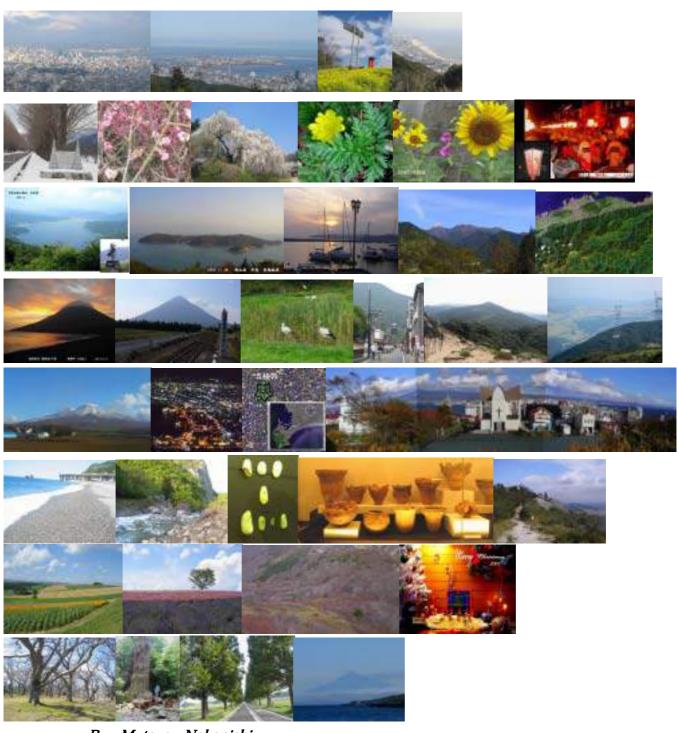
2005 年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・美祢の四季

Mutsu Nakanishi Home Page より http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

2006.1.15.



By Mutsuo Nakanishi



2005年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・美祢の四季

風来坊 Country Walk 里歩き

- 1. 北近江安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk
- 2. 須磨春便り 「早春の須磨 梅見ハイク」 北から南へ 摂播国境 奥須磨の丘陵を旗振山を超えて須磨海岸へ
- 3. 京都と大阪 の境 北摂のポンポン山 福寿草 ハイク 早春の里山 春を呼ぶ福寿草
- 4. 2005 春 桜 アルバム「室生古道に満開の桜の古木を訪ねて」
- 5. 早春と 冬が入り混じる北の大地を風来坊
 - 5.1.狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ
 - 5.2. 一足早い早春の駒ケ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」
 - 5.3.函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて
 - 5.4.「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて
 - 5.5.釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて
 - 5.6.「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ
- 6. 糸魚川・青海に 縄文の交易品 翡翠原石の谷を訪ねて
- 7. 中国道 広島県吉和 緑の高原に世界の名品が揃うウッドワン美術館
- 8. 但馬 天日槍の国とコウノトリ を訪ねて 写真アルバム
- 9. 「風の盆 アルバム」 越中八尾「風の盆」を訪ねて
- 10. 四国北岸近くを東西に貫く大断層帯「中央構造線」Walk 大断層帯にそびえる赤石山系と銅山の山里「別子山村」
- 11. 晩秋から初冬に移り行く函館散策 写真アルバム 函館の街 walk 夜景と美しい教会群
- 12. 写真アルバム 瀬戸内海誕生の歴史を語る岡山県牛窓海岸の黄島・黒島

風来坊 Country Walk 山歩き

- 1. 山岳 宗教の歴史を秘めた九州の霊峰「英彦山」
- 2. 写真アルバム 若狭・北近江国境の赤坂山・三国山 Walk 日本海側から琵琶湖・近江へと続く古代和鉄の道・Iron Road
- 3. 写真アルバム 「薩摩富士 開聞岳」

山口・美祢・長門の四季

- 1. 田中講平さんの「萩」と山口市吉敷の四季とのコラボレーション 田中講平さんの素晴らしい作品展示館 「GALLERY HAZUKI」を訪れて オールカラー鋼板の斬新な建物に感激
- 2. 久しぶりの下関で おもしろい下関唐戸市場



2005 年 風来坊 Country Walk

里歩き

Walk 里歩き

- 1. 北近江安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk
- 2. 須磨春便り 「早春の須磨 梅見ハイク」

北から南へ 摂播国境 奥須磨の丘陵を旗振山を超えて須磨海岸へ

- 3. 京都と大阪 の境 北摂のポンポン山 福寿草 ハイク 早春の里山 春を呼ぶ福寿草
- 4. 2005 春 桜 アルバム「室生古道に満開の桜の古木を訪ねて」
- 5. 早春と 冬が入り混じる北の大地を風来坊
 - 5.1.狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ
 - 5.2. 一足早い早春の駒ケ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」
 - 5.3.函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて
 - 5.4.「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて
 - 5.5.釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて
 - 5.6.「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ
- 6. 糸魚川・青海に 縄文の交易品 翡翠原石の谷を訪ねて
- 7. 中国道 広島県吉和 緑の高原に世界の名品が揃うウッドワン美術館
- 8. 但馬 天日槍の国とコウノトリ を訪ねて 写真アルバム
- 9. 「風の盆 アルバム」 越中八尾「風の盆」を訪ねて
- 10. 四国北岸近くを東西に貫く大断層帯「中央構造線」Walk 大断層帯にそびえる赤石山系と銅山の山里「別子山村」
- 11. 晩秋から初冬に移り行く函館散策 写真アルバム 函館の街 walk 夜景と美しい教会群
- 12. 写真アルバム 瀬戸内海誕生の歴史を語る岡山県牛窓海岸の黄島・黒島

By Mutsuo Nakanishi

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk

古代 和鉄の郷 北近江 2005.1.14.







追坂峠より琵琶湖・マキノ遠望

メタセコイアの並木道

マキノ高原から赤坂山

古代鉄の先進地 北近江 マキノ 2005.1.14.

先日 名神大津で雪化粧したすばらしい比良の峰々を見て、急に比良の雪ならびに雪の山郷を歩いてみたくなって、琵琶湖西岸の湖西線に飛び乗って 北近江のマキノに行ってきました。

この琵琶湖西岸に沿って伸びる比良山系から其の奥に広がる北近江 安曇川・今津・マキノの地は朝鮮半島から日本海を渡って 若狭・近江・大和を結ぶ古代のメインロード 交通路の要衝で古代和鉄の先進地。 鉄鍛冶・精錬を背景に大和に並ぶ豪族・渡来人の根拠地。

暖かくなったらこれら製鉄遺跡を訪ねようとその予備調査も兼ねて・・・・・

鉄に付いてはまた別にまとめますが、本当に風来坊 雪の山郷をぶらぶら歩いて 鉄の話を聞いたり、教えてもらったり、車から声をかけて貰って、駅までおくってもらったり、おまけに路線バスまでのせてもらったり・・・・

北近江は人情深い温かい地。 一日雪の中に遊んで帰りました。

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk

【 内 容 】

- 1.1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上
- 1.2. 近江今津

港で琵琶湖周航の歌にであい、対岸に伊吹山がそびえるのを知ってまたビックリ

- 1.3. 古代鉄の故郷 牧野へ すばらしいメタセコイアの並木道がつづいていました 冬のソナタをイメージして訪ねる人が多いという
- 1.4. 近江高島 鴨稲荷山遺跡と三尾の里 walk 日本誕生にかかわった渡来人の根拠地

参考 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群

1.1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上

今日は出発が遅かったが、どこまでといったあてもなし まあ 気楽な旅。

朝 10 時 JR 長浜行の新快速に乗り込む。京都駅で待ち時間なしで近江舞子行の普通電車。そして後を追いかけて来た近江今津行の新快速に乗り継いで近江今津へ。

比叡から蓬莱・打見 そして金糞峠・正面谷 堂満岳とつぎつぎに現れる比良の山々を眺めながら北近江へ 今日は 晴れているものの雲が多く 雪の頂上部は雲に覆われ、琵琶湖をはさんだ対岸の山々もかすんでい る。 でも 久しぶりに間近に見る比良の山々である。

久しぶりに足をふみいれた琵琶湖西岸 家々がたちならび、高速道路が走り、えらい変わりようであるが、 昔のイメージを探しつつ、ご機嫌で雪をいただく比良をながめました。







雪の比良連峰 蓬莱・打見山 堂満・釈迦岳

湖西線の車窓から 2005.1.14.



近江舞子近傍より 比良正面谷 2005.1.14.

蓬莱駅を過ぎて滋賀。 琵琶湖バレイ ゴンドラの直線路がくっきり打見の頂上へついている。 この駅から は天狗杉を通ってクロトノハゲ・木戸峠と山小屋へ通った道。今は一人でのほれるやろか・・・ 松の浦も浜でよく夜を明かしました。

近江舞子を出て、スケールの大きな正面谷を眺めながら安曇川にかかるともう真っ白な白銀の世界。 京都から約1時間かからず、神戸から2時間ほどで近江今津。

本当に便利になったものである。新快速はここで終点。

ここから北は極端に電車が少なくなって、一時間に一本。電車を待っている間 琵琶湖へ。







雲の中の蓬莱・打見山頂上部 古代 鴨・三尾里を分ける鴨川

安曇川

1.2. 近江今津

港で琵琶湖周航の歌にであい、真向かいが伊吹山であることを知ってまたビックリ







JR 近江今津駅

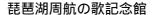
近江今津港から 琵琶湖

近江今津 湖岸の旧街道

駅から出て直ぐのところに「琵琶湖周航の歌」記念館。琵琶湖周航の歌が館内に流れていました。 長いこと歌わぬ「琵琶湖周航の歌」そして同じ節で歌う「琵琶湖哀歌」両方の歌詞と楽譜が印刷物になって いて、貰ってきました。琵琶湖周航の歌の新旧6番までの歌詞 そして 琵琶湖哀歌。

もう忘れかけていた歌詞ひとつひとつに学生時代 比良の山小屋に通った時を思い出していました。 館のお嬢さんとひとしきり話して このマキノ・高島地区の地図をもらう。また、港に琵琶湖周航の歌の歌 碑があというので館をとびだす。







琵琶湖周航の歌が一番づつはめ込まれた道標と港にある歌碑

此の館から港まで約300m ほどの歩道に一番づつ歌詞がかかれた道標が立っていて、其の先が今津港。 竹生島・長浜への船があるのですが、今の時期は休航で桟橋は閉鎖。

向かいには 「くっきりピラミッドの形の伊吹山が見える」と聞いたのですが雲の中で見えず。

「なんで こんなとこで向かいに伊吹山?????? 伊吹山がピラミツドの形????」

うそやと思っていましたが、マキノからの帰り、近江今津から安曇川への車窓からは本当にビラミダルのすばらしい形をした伊吹山 そして 南のほうには鈴鹿の山々が 琵琶湖の向こうに雪をいただいてそびえていました。



琵琶湖の対岸にそびえる伊吹山



伊吹山の南に連なる鈴鹿の峰

こんな伊吹 意識したことはなく、ぼくの感覚からすると、伊吹は大津からづつと東の方の山で、大津から北近江へやってきて、伊吹が真近に見られるなんて頭になし。また、僕の頭にある伊吹山と随分イメージが違う。

東海道線は大津から東へ米原・関が原に抜けてゆくとイメージしているが、実際は琵琶湖東岸を北上 琵琶湖をはさんで、今津からは伊吹山・長浜は対岸である。



近江今津周辺からの琵琶湖

長浜・米原 東海道線から見る伊吹の南側から見る姿 堂々としたその山塊の大きさに圧倒される姿 美濃 垂井・大垣 東からから見る伊吹 幾重にも重なる美濃の山々に囲まれ、其の奥にどっし りと座る姿

琵琶湖北岸 北近江からみる北側からの伊吹 多くの山を眼下に従え 天空にひときわ高く三角錐の いただきを突き上げる

でも こんな周りの山を従えて 聳え立つ伊吹の姿を意識したのは初めてで、改めて伊吹山の大きさにびつくりです。

今津からまた電車で 湖岸を北へ二駅でマキノ。 行方には滋賀と若狭を分ける赤坂・三国山山塊が壁のようにそびえ、そこから湖岸まで、雪原がひろがる。その山裾にへばりつくように古代製鉄の里マキノの集落が見えている。 すっぽりと雪の中である。



追坂峠からみたマキノ・琵琶湖北岸



近江と若狭を隔てる赤坂・三国山山塊 その山裾に広がるマキノ

1.3. 古代鉄の故郷 牧野へ すばらしいメタセコイアの並木道

冬のソナタをイメージして 訪ねる人が多いという





マキノ高原へ続くメタセコイアの並木道

マキノ高原 赤坂山

JR マキノ駅

駅から北へ 赤坂・三国山を越えて若狭へ続く街道筋には 4km 延々とメタセコイアの並木道が続く。 すばらしい並木道。僕は知りませんでしたが、今流行の「冬のソナタ」ブームでこのメタセコイアの並木道 を訪れる人が多いとか・・

この並木道を通って谷筋を約10分ほどさかのぼってゆき、南牧野から赤坂山の上り口にあたるところへ上ったところがマキノ高原。さらに奥に西牧野・北牧野・白沢の集落が広がる。

私たちが学生時代には関西でゆけるスキー場として多いににぎわったところ。

赤坂山・三国山の山麓に広がるこのマキノ高原の山裾に古代の古墳群・製鉄遺跡群があり、今でも鉄滓などが拾えるという。

この道をさらに北に遡ってゆくと、三国山の肩を越えて若狭敦賀へとつながる黒川越の道である。







古代 和鉄の先進地 古墳・製鉄遺跡が山裾に散在するマキノ高原 白谷集落



このあたりは 古代 朝鮮半島から日本海を渡り、若狭から琵琶湖北岸のこの地北近江 そして琵琶湖を渡って大和へいたる古代の通商路のひとつである。

多くの渡来人がこのマキノ周辺に渡ってきて、当時もっとも重要であった鉄の自給へむけた新しい製鉄技術を伝え、大和政権と連携しながら、この地で勢力をのばしたと考えられており、その痕跡が牧野製鉄遺跡群・牧野古墳群として今に残っている。

この牧野をふくめ、琵琶湖周辺の山岳 花崗岩地帯からは古代から鉄鉱石が産出されたとかんがえられている。

その鉄鉱石を使って、鉄自給の試みが新羅・伽耶・高句麗など朝 鮮半島の渡来人たちの技術を使って始まったと考えられている。

このマキノ周辺の数多くの古墳時代後期6世紀からの古墳群・製鉄遺跡群の存在がそれを示している。

また、この北近江の出身である継体天皇が大和政権成立できたの もこの北近江・越・伊吹の製鉄地帯をバックにしたためと考えら れている。

しかし、この地で実際に鉄精錬が行われたという製鉄炉の出土などの直接証拠は8世紀以降であり、確認はとれていない。



高島町 鴨稲荷山古墳からの出土品 密接な朝鮮半島との関係





牧野 赤坂山山麓の斉頼古墳

この赤坂山・三国山へ分け入ってゆく明るい谷筋の道筋 牧野町の役場のところから、牧野高原(西牧野・北牧野の集落)の入り口を通って白谷の集落の入り口まで約4kmの直線道路の両脇にメタセコイヤの樹木が 等間隔で植えられ、すばらしい並木道となっている。

メタセコイアの並木道 韓国の風景を模して作られたわけではないと思いますが、朝鮮半島と関係の深いこのマキノの地に韓国「冬のソナタ」の舞台となつたメタセコイアの並木道をほうふつとさせる並木道があり、今「冬ソナ」ブームに乗って多くの人が訪れるという。

なにか 和鉄の道の持つ因縁めいたものを感じる。

バスで白沢集落を訪ねて

JR マキノ駅の案内所で聞いて、マキノ高原へゆく連絡バスに飛び乗り、製鉄遺跡の散らばる北牧野・白沢集落へ行く。 マキノ駅の西で赤坂山・三国山から流れ下る知内川をわたり、町役場のところで 北に折れ、広い谷間の道にはいっていく。一本道の直線道路の両側にまっすぐ高い樹木が立ち並ぶメタセコイヤの並木道に入ってゆく。

まさに 薄茶の木の回廊をまっすぐ進む感じで、真っ白な雪の田んぼの中を突き進んでゆく。 ちょっと日本離れしたすばらしい風景にしばし、見とれる。







南牧野からマキノ高原を待つ直ぐ貫くメタセコイアの並木道 200501.14.

バスは一 二箇所寄り道しながらこのメタセコイヤの回廊を突き進んで、マキノ高原の集落にはいる。 地図でマキノ高原の一番奥の集落が白沢の集落なのでそこが終点と思っていたら、どうもおかしい。 道が東に曲がって集落をぬけて、バスは下ってゆく。沢山乗っていた人も二人になって、運転手さんに「こ のバスどこまで行くの 白沢集落でおりたい」というと「白沢集落はさっき過ぎた。 バスはこのままマキ ノ駅へ行く」という。

バスはマキノ高原を巡る循環バス。もうマキノ駅まで帰って そこ からタクシーで行くのがよいと教えてくれた。

おかげで マキノ高原から、現在の琵琶湖西岸と敦賀を結ぶ幹線国道にでて、海津大崎の山を越える追坂峠を越えて湖岸の海津へ下り、マキノ駅へ。結局マキノ市街を一周。

追坂峠周辺は古代近江の鉄精錬を支えた鉄鉱石が産出されたところ。 そこからおそらく産出された鉄鉱石は海津から船で琵琶湖を渡り、 瀬田丘陵にあった源内峠など大和政権が管理する湖南の古代製鉄遺 跡群に送られたと考えられている。



追坂峠から琵琶湖北岸を望む

追坂峠から琵琶湖や周辺の山を眺めながら「ラツキー」と。。。程なくマキノ駅。 駅でタクシーに乗り換えて もう一度メタセコイアの林を抜けて 雪に埋まる白沢集落へ 白沢集落 道は除雪されているが、雪に埋まっている。 街で教えてもらつた古老大村さんの古い家を訪ね周辺の製鉄遺跡について教えてもにらう。すばらしい民家 文化財の旧家である。

「こんな雪の中 案内もでけん。

すぐ横の山裾からも滓が出ているが・・・・。

雪がとけたら 出直しといで。案内するから・・・ 」 と簡単に滓が出た製鉄遺跡の山裾を教えてもらって、ひょっと 滓を手渡してもらった。

春 雪が解けて 赤坂山に春の高山植物が咲き出した頃に予定 通り出直すことで、お願いして引き返す。







白メタセコイアの回廊 WAIk 沢集落から古代遺跡周辺に寄り道しつつ

白沢の集落から北牧野の集落への山側の林にいくつもの製鉄遺跡が散在するという。 今はすっぽり雪の中に埋まっていて入ってゆけない。

そんな古代の製鉄遺跡に思いをはせながら、教えてもらったあたりを寄り道しつつ、メタセコイアの回廊を のんびりとマキノの駅へ下ってゆく。













古代の製鉄遺跡 古墳が散在する北牧野・西牧野の赤坂山 山裾 2005.1.14.

この赤坂山周辺の山裾には約250基の古代の古墳が確認されており、その大半は古墳時代後期6世紀頃に集中して、横穴式石室を持つ比較的小さな円墳群である。

ちょうど、この頃は大和政権が統一に向け邁進し、鉄の覇権をめぐって朝鮮半島と活発な交流があった時であり、この流れの中 この地が最も重要な地であった時でもある。

メタセコイアの並木道を歩いている途中で 「斉頼塚古墳」の案内板を見つけて西牧野の集落の中に立ち寄ってみるが、古墳への道も雪の中で立ち入れない。土地の人にこの竹林の向こうがそうだと教えてもらう。 この斉頼古墳は石棚が設けられているのが珍しいという。







西牧野にある斉頼塚古墳と其の内部にある石棚

再度 メタセコイアの並木道にでて 雲からの光が雪原に映えるのを楽しみながら下る。 時折 追い越してゆく車以外に誰もいないので、この景色も独り占めである。











マキノ高原を貫くメタセコイアの並木道 2005.1.14.

雪の田に足を踏み入れたり、座り込んだり、メタセコイアの回廊を楽しんでいたら、車から突然声をかけて もらった。「マキノ駅まで乗ってゆきませんか・・・ さっき 見かけて まだ ここだと大分かかりますよ」 と。 「一人歩いている人見るとほって置けない」という。

「色んな事件があって 載せていただくなど・・やあ 助かります」と近江今津まで行くというお姉さんに 今津までのせていただいた。本当にありがたく山里の人情に感謝でした。

1.4. 近江高島 鴨稲荷山遺跡と三尾の里 walk

日本誕生にかかわった渡来人の根拠地





鴨稲荷山遺跡のある高島町 鴨郷

継体天皇ゆかりの 安曇川町 三尾里

近江今津へ送っていただいたおかげで、もうひとつどうしても行きたかった場所 近江高島町の鴨稲荷山古 墳そしてそれに隣接した三尾の里に行く時間ができた。

古代 この北近江と関係ふかい朝鮮半島からやってきた渡来人の根拠地がこの高島町から安曇川町にあつたという。また、継体天皇の出身地(継体天皇の父彦主人王の領地)が幼少の時をすごした三尾の里もこのあたりという。

いずれも 古代の和鉄と密接に関係する場所で、ここに朝鮮半島新羅の王墓との密接な関係を示す副葬品が そっくりそのまま大出土した鴨稲荷山遺跡がある。JR 安曇川駅から南へ約 1.5km あるいは近江高島駅から北 へ約 3km のところである。







高島町鴨郷 鴨稲荷山古墳と歴史民俗資料館 2005.1.14.

鴨稲荷山古墳は安曇川町と高島町の境を流れる鴨川の右岸に位置する鴨郷にあり、古墳時代後期6世紀前半の前方後円墳で横穴式石室の石棺内からは数々の副葬品が出土した。

それがそっくりそのまま朝鮮半島新羅王陵のものと同じであることが判り、この地の豪族が新羅と密接な関係にあったことを示す貴重な古墳である。

また、この鴨川周辺部から鴨川左岸から北へ安曇川にかけてが古代の三尾郷といわれ、今もこの鴨川左岸に 隣接して三尾里が存在する。





鴨稲荷山古墳概要展示

高島町歴史民俗資料館 & 鴨稲荷山遺跡出土 石棺

夕闇迫る4時過ぎに鴨稲荷山古墳の直ぐそばに建つ高島町立歴史民俗資料館に飛び込む。

ここには鴨稲荷山遺跡で出土した副葬品が複製展示されている。

昨年夏奈良国立博物館「黄金の国・新羅 王陵の至宝」展でみたのとそっくり同じ黄金の「王冠・耳飾・靴」 が展示されている。これは本当に新羅の王陵そのものでないか・・・

もつともこの頃の新羅の王陵は円墳この鴨稲荷山遺跡は前方後円墳である。







鴨稲荷山古墳 石棺からの出土副葬品展示

歴史民俗資料館にて 2005.1.14.

学芸員の人にこの地の古代製鉄についてお聞きして今津浜大供「東谷製鉄遺跡」の資料をコピーしてもらう。 そして、夕闇迫る中 北へ 雪にうずもれた鴨稲荷山古墳へ

この歴史民俗資料館より北へ 200 ばかりで、直ぐ隣が北が鴨川の土手である。 そして、この鴨川にかかる橋に「天皇橋」の名前が付いている。

この川をはさんで南が鴨郷 北が三尾里。西に広く雪の平野部がひろがり、其の向こうに 比良の峰々連なり、比良の最高峰武奈ケ岳も顔を出している。

ここが 古代 日本誕生。大和政権の確立の過程で大きな役割を演じた北近江。

吉備・出雲が脚光をあびるが、忘れてはならない日本誕生の和鉄の道である。

どんどん暗くなってゆく天皇橋に立って、鴨郷、三尾里の雪田をながめていました。



安曇川町 三尾里

高島町 鴨 郷





鴨川 天皇橋

鴨川 天皇橋より 鴨 郷 & 三尾 郷 2005.1.14.夕





高島町 鴨 郷





安曇川町 三尾里

ぶらぶら 15 分ほど歩いて 安曇川の駅に着いたときにはもう 真っ暗。 姫路行の新快速が直ぐ来るというので、ホームをかけあがりました。 電車の窓から、真っ暗な琵琶湖をながめながら、今日一日 次から次への展開を思い出しながら思いつきででかけた風来坊 雪の Country Walk でしたが、楽しい Walk でした。 やつぱり、出かけないとあかんなあ・・というのが実感

暖かくなったら再度北近江に訪ねよう。和鉄そして赤坂山春の高山植物を・・・・ 湖北町から余呉の鉄の山郷へも・・・

ちょつと Country Walk から遠のいてもやもやしていましたが、すばらしい雪の山郷の Country Walk に成りました。雪の中に埋まる古代の古墳・製鉄遺跡にもいくつか出会い、資料ももらって これも興味津々。 古代和鉄の日本での製鉄精錬の始まりにかかわる遺跡 近江・美濃・北九州彩色古墳群とたまってしまいましたが、まだ、頭の整理がつかず。ちょっとづつ、まとめようと思っています。

2005.1.14.タ 湖西線 真っ暗な琵琶湖を眺めながら Mutsu Nakanishi

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk 古代 和鉄の郷 北近江 【完】

- 1.1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上
- 1.2. 近江今津 港で琵琶湖周航の歌にであい、対岸に伊吹山が そびえるのを知ってまたビックリ
- 1.3. 古代鉄の故郷 牧野へ すばらしいメタセコイアの並木道がつづいていました 冬のソナタをイメージして訪ねる人が多いという
- 1.4. 近江高島 鴨稲荷山遺跡と三尾の里 walk 日本誕生にかかわった渡来人の根拠地

参考 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群



須磨春便り 「早春の須磨 梅見ハイク」2005.2.17

北から南へ 摂播国境 奥須磨の丘陵を旗振山を超えて須磨海岸へ





蝸牛 角ふりわけよ 須磨明石 淡路島 通ふ千鳥の 鳴く声に いく夜寝覚めぬ 須磨の関守 小倉百人一首

松尾芭蕉







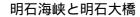
須磨浦公園にある芭蕉の歌碑 須磨浦海岸 ぽかぽか暖かい日もふえて、梅の季節になりました

明石海峡 2005.2.17.

今年 神戸の梅の花は昨年の台風と1月の寒波で大幅に開花が遅れているという。一度やってみたかった「名 谷から摂津・播磨の国境をまっすぐ南へいくつかの丘陵地の谷を越えて 須磨浦海岸に居座る旗振山・鉢伏 山を乗り越して明石海峡を見下ろしながら須磨の海岸までのWalk」。約3時間の気楽なwalk。 こんないい 散歩道があったとは・・・驚きでした。

1. 名谷から摂津播州国境沿いの丘陵地を南へ 谷に降りて 多井畑厄神へ







旗振山 北斜面から 北の下畑・多井畑・名谷の奥須磨丘陵地

日頃そばを通って見下ろしている名谷と多井畑を隔てる丘陵地の下。竹やぶにおおわれ、底がわからなかっ た谷。 一度はストレートにこの丘陵地を横断したい。そしてその先には須磨浦海岸から続く六甲連山の西の 端が連なっている。これものっこして須磨海岸へ。

ぽかぽか陽気 花粉症も一段落 今日は梅見に須磨まで歩こうと思い立って 頭にあった名谷からまっすぐ 北から南に歩くことにして、家をでる。

菅台3丁目の公園のところから谷におりる細いみちがあると聞いてそこから竹薮の山道 を谷に降りてゆく。 丘陵地の上は新興住宅街に様変わりしていますが、谷の中には自動車もまったく通らぬ竹やぶの細い砂利道 が丘の斜面を上り下りし、狭い窪 地に段々畑がぽつほつと連なっている日本の農村の原風景のどかそのもの。 喧騒の丘上とは打って変わって、谷の中にこんな静かなのどかな風景がきっちり残っているとは驚き。





丘陵地の間の谷から見上げた丘の上 左: 東 横尾山 右: 北 菅の台







丘陵地の間の狭い谷の中で

菅ノ台 - 多井畑 の間で





名谷の南の丘陵地の谷の中で 摂津播州国境の守り神 多井畑厄神

ほんと 車社会の喧騒のすぐ隣にこんなとこが残っているのですね 段々畑の幾つかが小さく区切られた市民菜園になっていて、休日には丘の上からこの谷に降りてきて、菜園 ののどかな生活を楽しんでいる人も多いようである

2. 多井畑集落→鉄カイ登山口から旗振山・鉢伏山→須磨浦海岸→網敷天満宮へ







旗振山山上より 須磨浦海岸と明石海峡遠望 2005.2.17.

名谷から約1時間ほどで幾筋かの谷をトラバースして、摂津・播磨の国境の社 田井畑厄神の森に登って、少し住宅地の中を通り抜け、鉄カイ山登山口のところから、まっすぐ旗振山へ北斜面の階段道を登る。正規の鉄カイ山から旗振山へと続く六甲の獣走路の道があるのですが、いつも見上げていた直登路を登る。住宅街を抜けた登山口から30分ほどで摂津・播磨国境の旗振山の頂上に出る。西に明石海峡と明石大橋西に須磨浦海岸が広がる。

この旗振山そして須磨浦からロープウエイのかかる鉢伏山の一帯が山上遊園になっていて、明石海峡を見下 ろす南西斜面に梅林が広がっている。

また、南東側の先には養浜された白砂の須磨海岸が鮮やかに見える。

芭蕉が「蝸牛 角ふりわけよ 須磨・明石」と読んだその光景が眼下に広がっている。

また 百人一首には 「淡路島 通う千鳥の鳴く声に 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守」の歌がある。





須磨浦海岸 遠望

明石海峡 遠望

この須磨浦の旗振山山上の梅林は神戸では名高い梅林なんですが、今年はダメ。

つぼみのついていない枝も多い。ちらほら咲き。もう少し咲いているかと思ったのですが、だめでした。 昨年の秋 次々と襲った台風 神戸では潮風を巻き上げ、昨年の紅葉・銀杏もだめ、一部桜は狂い咲き 梅も例外なし。特にこの旗振山 正面から海からの風をうけただろう。

でも数本ですが、紅梅・白梅の花をつけている。 春の訪れは やっぱり 梅の花











旗振山 山上 梅林で 2005.2.17.

しばらく 梅と明石海峡を眺めながら 展望レストランのある鉢伏山にぶらぶら散策路を歩く。

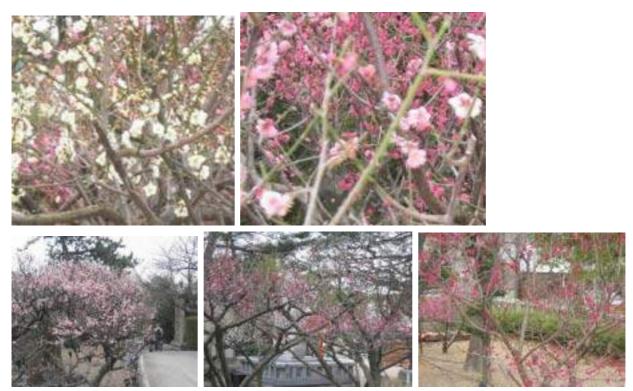
そこから 一気に 須磨浦海岸へ降りて 網敷天満宮へ天神さんの梅を見に行く。

やっぱり まだ 少し 早かったですが、梅の花が咲いていました。

ひさしぶりの明石海峡の風景と梅の花 満足 満足 家から約3時間ほどのハイキング 健康ハイクにはもつてこいの Wakl でした。

まだ満開にはちょっと早かったのですが、須磨網敷天満宮の梅の花の写真添付します。もう 春まじかです。。。。。 暖かくなったら 神戸須磨へも是非お立ち寄りください。

2005.2.17. Mutsu Nakanishi



須磨 天神町 網敷天満宮の梅林で 2005.2.17.







2005.2.17.

京都と大阪の境 北摂のポンポン山 福寿草 ハイク

早春の里山 春を呼ぶ福寿草 2005.3.31. by Mutsu Nakanishi

- 3.1. 善峰寺 からポンポン山へ
- 3.2. 福寿草の 自生地 (大原野森林公園 保護区)へ



ポンポン山 北西尾根 福寿草の自生地で 2005.3.31.

今年は2・3月の寒波で梅・桜だけでなく春の訪れが遅い。

例年 3月の末には山郷で咲く「カタクリ」の花 もまだまだ。

昨年は 「冷たい風に体を揺らすカタクリの花」を見たし、今年は是非「山の斜面で春を告げる福寿草」を 見に行こうと・・・・。

「福寿草」

旧暦の新年(2月)頃 雪が消えた里山の落葉樹林などに生える多年草で、

雪解けとともに顔を出して黄金色の花を咲かせる。

日が当たって黄金色に光り輝く姿はまるで金杯。

華やかな花であるが、日が当たると開 き、日がかげると閉じてしまう 感受性の高い花でもある。

「元日草」(がんじつそう)や「朔日草」「報春花」などたくさんの別名を持つ。

江戸時代からめでたい花として広く栽 培され、街でも鉢植えの福寿草を見かける。

でも、今は自生地が少なく 自然の中に咲く 福寿草はなかなか見られない。

関西での福寿草の自生地は鈴鹿の藤原岳・霊仙岳そして吉野が有名。

でも
今年は雪が深く山の斜面で咲き出すのはこれからと聞く。

そんな折に 京都と大阪の境「ポンポン山」の北の尾根筋に広がる広大な森林公園保護区の谷筋の斜面に知る人ぞ知る「福寿草」の群落がある。「例年 雪の消え始めた2月末より花をつけ、山が低いので、今年も もうぎりぎりだけれとも今も花をつけている」と聞く。また、場所もまだあまり公開されておらず、ぼんやり尾根筋しか判らず。

インターネットで調べると保護区の管理事務所又は自生地にこの時期だけ常駐監視している管理人がおり、 その人に許可届を出して、許可を得ないと自生地に入れないという。

また、いつもの出たとこ勝負ですが、「ポンポン山の北西の尾根 降りていったら判る やろ」と・・・「福寿草の群落」見たさに3月31日 ポンポン山のハイクにでかけました。

3.1. 善峰寺から ポンポン山へ

ポンポン山というと関西人以外ではなじ みがない。

京都から大阪へ流れる淀川の西側 京都 西山から北攝連山へと連なる山々の中に あり、京都と大阪の境の山。 このポン ホン山から南西へ伸びる枝尾根の端に天 王山があり、また、ポンポン山の稜線に 連なる尾根の中腹に西国 20 番の札所善 峰寺がある

関西ではポヒュラーなハイキングコース である。

今日は 善峰寺からポンポン山に登って 頂上から北に伸びる尾根を下って、福寿 草の自生地を探す予定。



向日市小塩の集落からポンポン山・小塩山の山並み (中央 山並みの中腹に西国 20 番札所善峰寺がみえる)

時間短縮のため、善峰寺までバスで行って、久しぶりに善峰寺に寄って、そこから東海道自然歩道となっている山道をポンポン山へ登って行く。気楽な京都の田舎 里山 WAIk。

ゆっくり歩いて 頂上まで 約2時間。 インターネットの書き込みによると頂上から北の亀岡側への尾根を少し下ってこぶを2つほど乗り越した北斜面の東の谷間に福寿草の自生地があるとの情報。

ぽんぽん山のカタクリの自生地の話は聴いたことあるのですが、福寿草の自生地は全く以外で、情報はそれだけで、ゆきあたりばったりのウォークである。

もう 随分昔 頂上から北に下りて 脇道に迷い込んで 交通の便もなくとぼとぼと電車のある淀川沿いまで何時間かいやになるほど歩いた経験がある。どうもそのあたりである。道も交通の便も変わっていると思うが、帰りの道考えておかないとえらいめに会うと思う。

でも 風来坊 どうにかなるやろう・・・・である。 ゆっくり歩いて自生地を探しても3時間ほどのハイキング。







西国 33 5所 20 番札所 善峰寺 2005.3.31.

もう何年ぶりにだるだろうか 有に 15 年を越えている。久しぶりで阪急電車東向日町の駅に降り立つ。 東向日町の駅から見ると南北に並ぶ連山の中腹に善峰寺があり、ポンポン山はこの連山の後ろ側に連なって

いる。 山の中腹うっそうとした杉木立の中に善峰寺。 平日の午前中で、境内には数組のお参りやハイカーの人 だけで、静かなもの。久しぶりに横に 40m も伸びたあの

天然記念物「遊龍の松」 も健在。観音堂横の枝垂 桜が一本だけ満開の花を 咲かし、思いもかけない 落ち着いた花見。

まだ 芽吹いていない鈍い緑の山をバックに花と松と瓦屋根が素晴らしいコントラスト。

静かに咲く寺の桜 絵

がきから出てきたような春の景色でした。





善峰寺 観音堂横の枝垂桜

善峰寺の山門前からつづら折れで山の斜面を登る「東海道自然歩道」(と言っても車が一台通れる舗装道路)を登る。善峰寺の寺域でまっすぐに伸びた杉の大木が立ち並び、その途切れ途切れに竹林が覗く。 山中分け入ったという感じがするのは やっぱり善峰寺の大きさか・・・。







善峰寺からポンポン山登り口へと登って行く東海道自然歩道の道

2003.3.31.

それにしても人っ子ひとり通らぬ「東海道自然歩道」を舗装してどうすねん・・・」と思い始めた峠を越えると不意に人家か数軒ある隠れ里。

ほとんど どの地図にも集落が出ていませんが、「杉谷」集落。 ここから峠を下って尾根の下の谷筋をさらに奥の大原野出灰の集

落に道が続いているので、この道はハイキング道路でなく生活道路である。 集落を出たところがポンポン山の登り口で、出灰への舗装道路と分かれ、整備された谷筋の道がづづく。

このハイキング道も東海 道自然歩道あるがよく整 備された林の中の山道である。



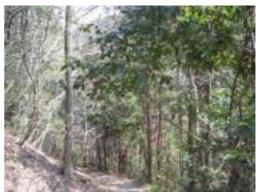
杉谷 ポンポン山の登り口



杉谷の集落







杉谷から ボンボン山の縦走路に登る谷筋の道

2005.3.31.

40 分程木々の中の谷筋をつめると、視界の開ける尾根の上にでる。

ここからポンポン山への尾根道ボンボン山から本山寺へと北摂の山の縦走路がづづく。

また潅木のトンネルが続く尾根道が頂上までつづく。ほとんど視界は開けず、時折、周辺の尾根筋が見えるが、周囲の山はまだ芽吹きしておらず冬色。 何か緑の中に灰色の霞みをかけたようなそれはそれで美しい早春の景色である。



ぽんぽん山縦走路で

2005.3.31.



釈迦岳からの縦走路出会い

縦走路を 15 分ほどで大山崎・天王山から釈迦岳を経てポンポン山へ登ってくる縦走路との分岐点をすぎるともうポンポン山頂もまじかである。 ポツポツとハイキングの人たちに出会う。

縦走路のすぐ北斜面に降りるブッシュに縄が張り巡らしてある。 前に聞いたことのあるポンポン山のカタクリの群生地と教えても らった。

「昨年の今ごろはもう 斜面一面がカタクリの花だった」と話されるのですが、カタクリの花のかけらも見えず。

よく見ると見覚えのあるカタクリの葉っぱがポツポツと枯葉の中から顔を出している。

これでは花をつけるまで、まだ相当時間がかかる。

カタクリの花の咲きようで、今年の寒波の影響が直接的にわかる。地球環境破壊の影響か・・・・直接知っている現実で思い知らされる。 でも 今福寿草が見られるのもこのせいでもあるが・・・





ポンポン山頂上周辺の北斜面 カタクリの自生地とまだ葉だけ顔出しているカタクリ

元の縦走路に戻ってすぐポンポン山のピークへの登り。頂上はちょっとした広場で木々がないが、周りとあまり高低差がなく、ブッシュが広がっているので、あまり展望は利かない。数組の熟年組が弁当を広げている。





679m ポンポン山 頂上と 頂上からの展望 2005.3.31.

握り飯をほうばりながら、地図を広げて、北へ伸びる福寿草が咲く西尾根を調べる。 頂上から北側 出灰への道が見えるが、案内板などない。

歩いてきた道も東海道自然歩道の道の案内板ばかりで、北側の尾根を下った京都大原野森林公園については

不明である。

弁当を食べている中年の山なれた女性に聞くと「尾根筋降りてリョウブの丘を乗り越えたところ。マムシの 看板があるすぐ下で、 道に縄が張ってある。それが目印。福寿草今もみられるでしょう」と教えてもらう が、一般の人にはあまり知られてないようだ。

「そんな花咲いているところこの下にあるのですか・・・」と聞かれるが、「行ってみないと判らん」としかいいようなし。

ハイカーの多くは東西に伸びる尾根を西へ行くと高槻の本山寺 東へ行くと向日町の善峰寺・小塩 北は京都の人しかあまり行かなかったが、北側が大原野森林公園として道が整備され、北へ下る人も多く なったようである。しかし、北の方へ出ると交通の便悪く、昔えらい目にあったことがあるのでおいそれとは誘えなかった。 また、「福寿草」や「カタクリ」 の自生地が頂上周辺の北斜面にあるようですが、大阪・京都からすぐの便利なこの山で、沢山の人で荒らされるのを怖れてか まだ、一般には知らされていない ようだ。

半信半疑で登ってきたのですが、確実に福寿草が咲いているとの情報に北へまっすぐ 尾根を降りることにする。

3.2. 福寿草の自生地 (大原野森林公園 保護区)へ

泰をつげる 「結**為革」** ボンボン山 西尾根 自生地で 2005.3.31.







ボンボン山の福寿草 自生地で 2005.3.31.

早々に頂上を切り上げて、「出灰」への道を下って行く。 少し下ったところで、出灰への道と分岐。標識はないが尾 根筋にしっかりした道がついている。

(急に標識がなくなるので ちょっと不安になるが、もう少し下ると大原野森林公園域にはいり、標識がでてくる) 木々の間から見える山々をながめなからいくつかコブを乗り越えると 15 分ほどでリョウブの丘への標識。

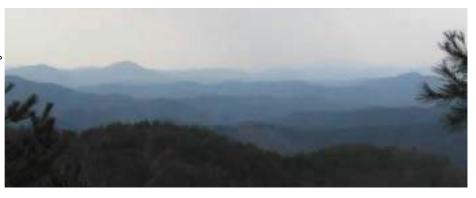
急に木々がきれて、西側が開けると北攝の山並みが幾重に も重なって素晴らしい。

正面にひときわ高く均整の取れた姿が北攝の盟主「剣尾山」 か・・・



西尾根を北へ下る

また、東側奥には深い谷越しに、 小塩山 遠くに愛宕山がみえる。 このリョウビの丘を乗り越えた 北側東斜面が谷に落ち込むあた りが、福寿草の自生地。 目印 を見落とさないようにと気を配 りながら進むが、中々見つから ない。



ポンポン山 西尾根より 北攝の山々 2005.3.31.

リョウビの丘から 10 分ほどと聞きましたが、目印見つけられず。どんどん下って行くうちに大原野森林公園保護区の標識もでてくる。

「ツツジの丘・森の案内所」への標識も出てきた。 見落とした事判ったが、とにかくツツジの丘まで行っ て引き返すことにする。 30 分ほどのロス。

下まで降りてもバスの便悪いので引き返しても同じで あるし、下の森の案内所で福寿草の自生地を教えても らって再度登るのも癪である。



小塩山 背後遠くに愛宕山がかすんでいた

もう一度 目印を見落とさないように左右を注意しながら登り直す。

頂上で出会った人が降りてきたが、福寿草自生地への入り口 やっぱりよう見つけなかったと。

リョウビの丘が見え出したあたりから、東の谷への脇道がないか注意しながら歩く。

全くそれらしき標識がないが、一本東の谷への道がある。

ふっと 道の反対側の脇の木に「マムシ注意」の紙がくくられている。 立て札と違ってこれだ。







ブッシュの中 福寿草自生地への道 2005.3.31.

ここに違いないとブッシュの中へ入って 50m ほど、元の道が見えなくなったあたりで、前方に縄を張った 遊歩道が谷筋へ降りているのが見える。

これは すぐ近くに、尾根筋の道があるが、教えてもらわないと全く判らない。

自生地が荒らされるのを防ぐ方法はこれか・・・・と。

少し下ると赤いヤッケを着た監視員が二人。ここで保護区立ち入り許可の書類をもらって、其の場で届けを書いて、すぐ下の自生地へ降りる。 誰もいない。 独り占めである。



ポンポン山 西尾根 北東斜面の福寿草自生地 2005.3.31.

枯葉に覆われた急斜面にへばりつくように緑の葉と黄色い花が咲いていました。 厳しい山の北斜面で長い冬を耐えて耐えて 一気に喜びをあらわしている 黄色と緑が本当に鮮やかで美しい。

この時期

「カタクリ」 が 「北風に体を張って立ち向かって咲いている」一途な姿、 「福寿草」 は 「太陽の恵みを眼一杯 手を広げて 受けている」そんな元気一杯の姿

そんな感じを昨年見に行った「カタクリ」の花と対比しながら見入っていました。 鉢植えでひとつだけ見ていてはこんなイメージの広がりは出てこない。自然の姿に引かれるところ。 本当に明るい花

でも 福寿草も日がかげるとすぐ 花びらを閉じる強い感受性ももちあわせているという。

残念ながら、時期的には遅いので、写真などて見る残雪から顔を出す光景は見られませんでしたが、深い谷筋の斜面にモノトーンの枯葉の山肌に黄色の花が緑の葉っぱと共に点々と散って、谷筋一杯に明るさが満ちて 春到来を告げていました。

これが 福寿草と云われる所以かも知れません。

春をつげる 「**福寿革」** ボンボン山 西尾根 自生地で 2005.3.31.











小さな自生地で広く知られると確かにいっぺんに消えてしまいそう。

無理からぬが、口コミだけで、知った人たちだけが入れる事にちょっと後ろめたさも感じています。

関西では 鈴鹿か吉野に行かないと見られないと思っていましたが、こんなに近くの山に自生地があったとは 本当にびっくりでした。

半信半疑で出かけましたが、まっ黄色の花びらを精一杯に広げ、春を告げていました。

おそらくこの自生地 シーズンが終わると、自生地への道も取り払って、大原野森林公園保護区として山の中に埋没させる。自生地を守るためには仕方がないのでしょうが、自然を保護するむつかしさ 厳しさをも見たように思います。

訪れる人の制限はやむなしでしょうが、うしろめたさもちょっぴり。

誰もいない自生地 もうシーズンも終わりの花が見れる最後でしたが、ゆっくりと楽しむ事が出来また。

いつまで こんな Goo な環境で見られるのか心配ですが、できるだけさわらずに残してほしい。 虫のいい注文です。

元の尾根道へ戻って 再度ポンポン山頂上から杉谷・善峰寺を経て向日町へと 戻る。山の中腹 善峰寺・三鈷寺の境内からは朝かすんでよく見えなかった京都・淀川流域の市街地が眼下に広がって素晴らしい眺めでした。

春の訪れを告げる福寿草 その自生地を訪れる事ができて 満足のボンボン 山ハイクでした。



向日町より ポンポン山の山並

2005.3.31.夕 京都・淀川流域の市街地を眺めながら Mutsu Nakanishi





三鈷寺境内から 京都・淀川流域 市街地の眺め 2005.3.31. 夕 善峰寺・三鈷寺境内より、

4.

「室生古道に満開の桜古木を訪ねて」 2005 春 桜 アルバム

2005.4.15. by Mutsu Nakanishi



4月15日晴れ

遅れていた神戸の桜もほぼ終わって、大阪造幣局の花見も始まろうとしています。

関西では大阪の造幣局の花見が始まると桜もおわり。

街の川沿いの堤や 公園に群れ咲く桜もいいですが、周りの緑を圧して豪快に満開の枝を広げる一本の巨樹もいい。 桜を見ると福島三春で木の周りに座り込んで呆気にとられて眺めたあの豪快なお滝さん「滝桜」を思い出す。

無性に花満開の桜の巨樹を見たくなって、関西では桜の巨樹があると聞く室生寺の山里を訪ねました。

大阪から東へ 生駒・葛城・金剛の山並みを越えて大和平野に入り、大和平野の東の壁にあたるのが 室生 山群。大和川が大和盆地に流れ出る桜井からこの山の中に入り、榛原から大宇陀・室生の山里を越えて松阪・

伊勢への道が続く。今は名古屋・伊勢への近鉄電車がこの山を越えてゆく。古代から開けた街道筋であるが、 山中である。この山中室生の山郷には役行者が開いた「女人高野」室生寺があり、の古くから賑わった参詣

道が大和から通じていて今も古道として残る。

桜の吉野山と言われるごとく役行者と桜とは深い関係があり、この室生寺への参詣道の山郷でも桜の古木が大事に守られ、今も満開の花を咲かせるという。

榛原から伊勢街道は北の大野・三本松・名張を 抜けて松阪にでる阿保越の道と南側の伊勢本街 道に分かれ、ちょうどその真ん中に室生の郷が ある。

北側から室生寺にいたる街道の入り口 大野には室生寺の西門と呼ばれる大野寺そして南の伊勢街道から室生寺にいたる室生古道と呼ばれる参詣道の入り口 高井には室生寺の南門と呼ばれる仏生寺があり、それぞれ桜の古木が大事に守られ、春には満開の花をつけるという。また、峠越えに室生の郷に入ると室生寺・室生の郷には桜の花が咲き乱れているという。

そんな話をイメージしながら大阪から伊勢・名



東海道自然歩道から室生古道へ

古屋方面 名張行の近鉄電車に乗って約1時間大和平野を通り抜け、宇陀・室生の山中に入るとすぐ宇陀・室生の中心榛原。 そして次の駅が室生口大野駅。山に囲まれた郷であるが、満開の桜が迎えてくれる。









二つの伊勢街道を結ぶ室生寺への古道

東海道自然步道 室生 室生古道

ここから 室生寺へは川沿いにバスが走っているが、同時に山道を門森峠越 6km の東海自然歩道が室生の里へと通じている。

今日のコースは大野寺から東海自然歩道を門森峠を越えて室生の里に入って、室生寺から室生の里の西光寺から室生古道 唐戸峠を越えて仏隆寺に出て伊勢本街道の高井の集落に出る。

全長約 15km の桜と新緑の古道ウォークの桜を訪ねてのハイキング コース。古代から多くの人たちが室生寺 へ歩いた参詣道である。

スタートの大野寺そして石畳が残る山の古道のを登り下った室生の里で、また 室生から室生古道を峠越え した南の仏隆寺で満開の花をつける素晴らしい桜の古木に出会え、しばし見とれていました。

桜の下で酒を酌み交わす街の花見もさることながら、山の斜面をバックに大地にしっかりと寝を下ろし、大空に大きく枝を広げる満開の桜とゆったりと寝転んで対峙できる山里の桜は最高でした。

室生寺が「女人高野」と慕われるのも 「こんな素晴らしい自然の中の山郷にあって 清楚な美しさの五重塔などに惹かれるから」などと自分勝手な憶測をしています。



門森峠を下ったところで眼下に室生の里がみえる

今年は春が遅くて 桜ももうひとつ と思っていましたが、素晴らしい桜探訪が出来ました。 北側 室生口大野駅をスタートに古い参詣道を大野寺から門森峠 室生寺 そして 室生の里の西光寺から 南側へ室生古道を唐戸峠を越えて仏隆寺への桜探訪のウォークの写真アルバムを区分して収録しました。 ことばなしの桜の写真アルバム どんな風に映るでしょうか・・・・

2005 年春 桜アルバム 「室生古道に満開の桜古木を訪ねて」

1. 室生寺の西門 大野寺 の 枝垂桜

花の豪華さでは大野寺の枝垂れが一番。

もっとも駅近く交通の便がいいので人多く ゆったりとした風情は味わえず。

- 2. 古い参詣道 東海自然歩道を室生寺へ
- 3. 満開の桜咲く桃源郷「室生の里」と室生寺

山中を抜けて パッと眼前に広がる室生の里は山桜が点々と風景の中に溶け込む桃源郷。 訪れた室生寺の五重塔。これも唖然とするほど美しい。本当に清楚で見飽きない。

4. 室生の里 西光寺の枝垂桜 と 室生古道

街道脇で里のはずれの古びた小さな堂をひっそりと見守る枝垂桜 西光寺の桜はそんな風情。 村の人が道の反対の田圃の畦に座って、仕事やすめに桜を見入っていました。

5. 室生寺の南門 仏隆寺の山桜「千年桜」

室生の里から峠越えの山道をまだかまだかと上り詰めて峠を越えて、下を見ると山の斜面に しっかりと根をおろし、これでもかと精一杯枝を広げて満開の花をつけている山桜の古木。 三春の滝桜で味わった驚きとその生命力を再度味わいました。

枝垂桜には風情がありますが、ヤッパリ堂々とした山桜が山の斜面には似合う。 よく知られた桜の古木のようですが、交通の便が悪いのか 人も少なくゆっくりと木の傍で 寝転んで見ておれる。今日一番の桜でした。

1. 室生寺の西門 大野寺 の 枝垂桜





樹齢 300 年を越える大野寺の枝垂桜 2005.4.15.

2. 古い参詣道 東海自然歩道 を 室生の里へ

峠に近づくと石畳の道が残る美しい杉と桧林が続く古道







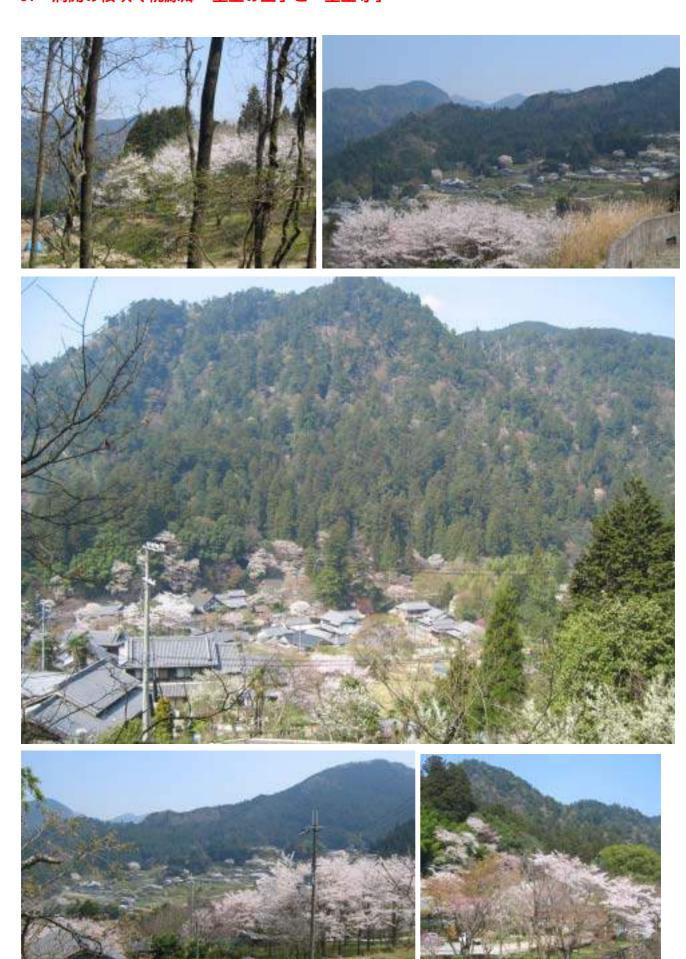








3. 満開の桜咲く桃源郷「室生の里」と「室生寺」



桜満開の桃源郷「室生の里」 里の東背後に室生山群の山々が見える 2005.4.15.

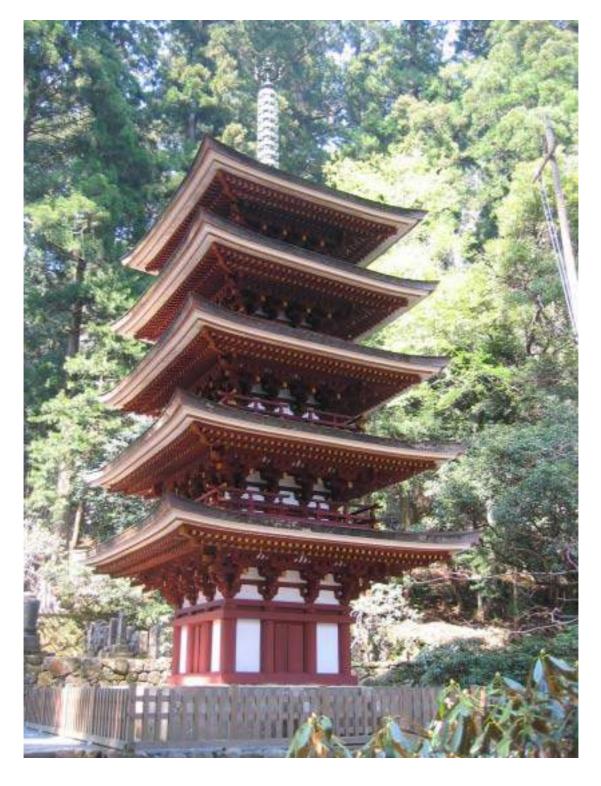
【 女人高野 室生寺 】











女人高野 室生寺 五重塔 2005.4.15.

4. 室生の里 西光寺の枝垂桜 と 室生古道











室生寺から南へ 勾配のきつい斜面に段々の室生の集落が続く 2005.4.15.



室生の集落 西光寺の桜 2005.4.15.













5. 室生寺の南門 仏隆寺の山桜「千年桜」



室生古道を仏隆寺へ 2005.4.15.



室生古道 唐戸峠の直ぐ下 仏隆寺の集落の上に出る 2005.4.15.



仏隆寺の千年桜 2005.4.15.







室生寺の南門 仏隆寺 の 千年桜 2005.4.15.

4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

2005.4.24.-27.



道東 釧路・知床 釧網線に乗って まだ冬の中 丹頂鶴・知床の山



渡島半島・駒ケ岳周辺で、早春の栗林・函館の鉄山・南茅部に北の縄文を訪ねて



千歳・小樽・余市へ 北の縄文「ストーンサークル」を訪ねて

5.1.	狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ	2005.4.24.
5.2	一足早11早春の駒ケ岳山麓、栗の巨樹群、森町「茅部の栗林」	2005 4 24

2005.4.24.

2005.4.24.

2005.4.25.

2005.4.26.& 27.

5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて

5.4.「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて

5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて

5.6.「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ

● 千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて

小樽恋路・余市のストーンサークルを訪ねて

● ブゴツペ洞窟 岩刻画

4月20日から、3月末に生まれた孫の顔を見に札幌へ 孫の顔を見た後は早春の北海道Walkを楽しもうと。 関西ではもう桜も終わって 山は新緑が始まっているのに、千歳空港に着くとみぞれが舞い 周辺は雪がいっぱい。今年は春の訪れが遅れているが、完全に雪の世界 冬の季節に逆戻りである。

二人目の孫であるが、うれしいものである。 家内が抱けというが、怖くて手が出ない。4 つになる上の孫娘がうれしそうに手馴れた仕草で誕生した弟を抱くのにはビックリ。

もう 先のほうへ 頭は行って 「元気に早くかけまわらんかなあ・・・・」と。

家内はまだせっせと世話を焼いているが、こっちはもう 顔を見ると後は足手まとい。1 週間は完全フリーである。北海道 JR の均一周遊券を買って北海道の地図を広げ、天気予報を聞きながら 何処へ行こうかと。。。。











北海道の山々 南から北へ 恵山 駒ケ岳 樽前山 斜里岳 知床海岸

札幌を起点に 南の函館 北の稚内 東の網走・釧路へ 東西南北夜行特急や早朝日帰特急があって何処へでも行ける。 どうも北の稚内方面は雪深く天候も悪く今回はあきらめる。

冬の北海道となれば、まだ見たことがない雪原を舞う鶴を見に行こう。そして 雪の狩勝峠に知床の雪山も見たい。もう一つは 雪が消えた渡島半島へ 来る前から頭にあった函館の地図にある「鉄山」の探訪と直ぐ近くの「北の縄文」南茅場へ。 また 縄文の掘立て柱などに使われた栗の巨樹 そんな巨樹の林が残る 駒ケ岳山麓森町の天然記念物の栗林群へ

そして札幌は野幌の開拓記念館へいって「北海道のたたら」の疑問を確かめてこよう・・・と。

開拓記念館は「北海道の歴史民俗博物館」で ここの学芸員平川氏に「北の縄文のストーンサークルと土の サークル」が千歳と小樽ほかにあると教えてもらって そこへも出かけました。

夜行特急に乗ったり 早朝特急に乗ったりしながら一週間 東へ西へ車窓から見る景色も含めて冬と早春が 交錯する北海道を楽しんできました。

雪原に舞う鶴の舞 本当に神秘的。 また、雪を戴いた北海道の山々の素晴らしい姿 北の縄文の林の中で そこを守る番兵のようにひっそりと咲く春の訪れ「福寿草」そして春の妖精「カタクリ」も印象的でした。 雪が消えて ライラックの春が一番とよく聞きますが、この残雪と春とが交錯する季節も本当に素晴らしい 北海道でした。



ついでながら 札幌には野菜として花の咲いた「カタクリ」がスーパーで売られており、おしたしにして食べました。これもビックリでした。行き当たりばったりの北海道 風来坊の写真アルバムにまとめました で ご覧ください。



また 「北の縄文」については たたら遺跡探訪 で別途整理しています。



4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ



雪の狩勝峠から十勝平野へ

4月22日 早朝 札幌発釧路行の特急「おおぞら」に飛び乗り、狩勝峠を超えてび帯広から釧路へ 一度越えたかった雪の狩勝峠 札幌 千歳の平地から夕張の山岳地帯には雪がびっしり。

北海道一の鉄道の難所と言われた狩勝峠。鉄道地図を眺めながら一度は越えたかった場所に窓にはりついて 眺めていました。今は根室線経由から千歳線経由に変わり、トマムからトンネルの中で根室線と合流して狩 勝峠を超える。峠を越えると眼下に新得の街がみえ、ループを描きながら雪の山中を下ってゆく。

これか、狩勝峠のループか・・・・

新得から さらに山を下って帯広へ。

十勝平野に入るとうそのようにほとんど雪はなく、広大な野原が広がっている。



雪の狩勝峠 新得周辺



狩勝峠を越えて 大雪の山並みを眺めながら十勝平野へ

十勝平野を横切り、太平洋の海が見えてくると釧路は近い。真っ青だった空が、霧で覆われ、また平原が雪で覆われる。 札幌から釧路まで約4時間 車窓から眺めた景色や気候のダイナミックな変化に北海道の広さを今更感じながら釧路の駅に立つ。午前11時近いものである。

釧路市丹頂鶴自然公園





釧路市街 2005.4.22.

観光案内所へ行って 「飛んでる丹頂鶴を見たい」と言うとみんな「もう時期が遅い。益してや、昨日 は

大雪。 吹雪いて釧路湿原で過ごす鶴も難しい。」という。 札幌のインターネットカフェで調べた鶴情報も今は北へ帰 る鶴は道北のサロベツ・クツチャロ湖など・・・・。

釧路市の丹頂鶴自然園へ行って、雪の釧路湿原歩いて帰る つもりでバスに乗り、丹頂鶴自然公園へ

釧路の北へ広大に広がる釧路湿原の西側に添って 20 分ほ

ど北へ上がった丘陵地 釧路空港にほぼ隣接して丹頂鶴自然公園がありました。

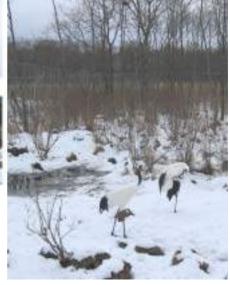






雪の釧路湿原 釧路市展望台より 2005.4.22.





釧路市丹頂鶴自然園で

2005.4.22.

まったく人影なし。 ここでは雑木林の中に網の塀で囲って 餌場として丹頂が網の中で飼育されている。 憧れの丹頂が目の前にいる。網で隔てられていると言え、始めて見る自然の中にいる丹頂に感激。 じっと眺めていると欲が出てくるもので、「舞を踊ってくれ 空とんでくれ・・」と。







釧路市丹頂鶴自然園で 2005.4.22.

でも網の中のつがいはえさをつついているか、片足立って羽の中に顔をうずめているかで 実に静かなものである。

「時々 網の塀の外の雑木林に遊びに行ったり、雑木林の中にも丹頂が子育てしている」と教えてもらった のですが、そんな姿みられず。

1時間ちょっといましたが、数組が訪れていただけでゆったりと雪原の丹頂を見られたことでもう満足満足。

タクシーの運転手さんに聞いて 「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」へ

タクシーを呼んでもらって、釧路湿原の展望台へ

タクシーの運転手さんに「雪原で舞う丹頂が見られず 残念・・・ 」というと彼いわく。「やっぱり 自然でないと・・・ 昨日 吹雪いて 一面雪になったから 保証はでけんが、 釧路湿原に沿って もうちょつと北に入った鶴居村に 今日は鶴いるかも知れん」と。

「それ 鶴居村で飼育している丹頂でしょう」というと「違う。 自然に林にいる丹頂で 群れている」という。丹頂自然公園で聞いても 「自然に舞う鶴はもう 残念ながら見れない」という丹頂が群れて「舞っている」 ここまできたらヤッパリみたい。交通機関はなし。 早速 タクシーの値下げ交渉して釧路湿原を見ながら雪の丘陵地を約20分ほど走って鶴居村へ。 運転手さんも段々心配になってきていた頃 突然「丹頂 飛んでる 居る居る」と。前方の雪原に数百の丹頂が群れている。

「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」である。もう 舞い上がる気持で運転手さんと握手である。 本当に現地にいってみなわからんものである。

後で聞くと ほんとラッキー 昨日はゼロ その前も 声は聞こえてみほとんど原にでてこなかったと・・・







雪原に群れ舞う丹頂鶴 鶴居村 丹頂の里 鶴見台 2005.4.22.

丹頂自然園で見た鶴と動きが全然違う。

丹頂の鳴声がする。 羽を広げて オスの鶴がメスを追い駆ける。 舞を踊っている。あっちでも こっちでも羽を広げてダンスをやっている・・・・・。

テレビなどで見たのと同じで実にゆっくりとスローモーションでも見るかのように羽を広げて舞う これが 自然の中の丹頂鶴 本当にラツキーでした。

この丹頂鶴が群れている雪原が餌が少なくなる雪原の冬の餌場 そして 雪原の後ろに広がる林や国道の反対側の林が住処の様である。

突然 2 羽の丹頂鶴が舞い上がって 道路を挟んで 反対側の雑木林に飛んでゆく。見とれて シャッター チャンスを失う。 やっぱり 羽をひろげて飛ぶと大きい。

今 丹頂は繁殖期 オスが一声挙げると二声メスが答える このメスの答えを求めて鳴く。

そして つがいとなった丹頂は2羽一緒に飛んで 雑木林に消えて行く

さっき 丹頂鶴自然園で教えてもらったのを思い出しながら眺める。







雪原に群れ舞う丹頂鶴 鶴居村 丹頂の里 鶴見台 2005.4.22.





空を飛んでねぐらに向かう丹頂鶴

デジカメ もう少しズームが効けば、もっと大きく取れるのですが、残念。 丹頂の舞に歯軋りするが、仕方なし。

でも、自然の中で舞う丹頂の優雅な姿の動画が取れました。小さいですが、動画の画像を組み込みました。



4月下旬 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.2. 一足早い早春の駒ケ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」 2005.4.24.



北海道 駒ケ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005.4.24.

今から 5000 年前 日本列島の森には栗の巨樹が林をつくり、豊かな縄文文化を作った。

青森三内丸山縄文遺跡にはあの巨大な栗の6本柱が聳え、北陸では栗の巨木のウツドサークルが建っていた という。そんな栗の巨樹の群れ、今の里山で見る栗林では想像もつかない。

山内丸山遺跡の6本柱は日本にそんな巨木がなく、モニュメントとして 栗の巨木をロシアから輸入して建てたという。



【栗林が育んだ縄文文化】青森 三内丸山遺跡 6本柱(上)と北陸のウッドサークル

「もう 縄文文化をそだてたような巨樹群は日本にないのか・・・・」以前インターネットで調べると北海道 駒ケ岳の山麓 海岸に近い丘陵の上に天然記念物の栗林「茅部の栗林群」があると言う。

北海道にいったら、是非見に行こうと今回 函館・南茅部を訪ねるのとあ わせていってきました。



森町の駅からすこし登った街の中央の丘の公園に残雪を抱いた駒ケ岳を背

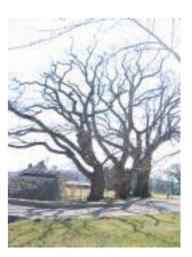
景に元気な栗の巨樹が立ち並んでいました。

まだ 雪が消えたところで、木々には全く葉がなく、太い幹ががっしりと大手を広げ、一層たくましく見えました。

この栗林は北海道指定天然記念物(昭和43年指定)「茅部(かやべ)の栗林」と呼ばれ、天然の山栗。自分で数えたわけではありませんが、幹周(cm)が480、471、460、415、365、335、・・・、その他3mを越える栗の大木が全部で147本林立しているという。森町の海岸に沿ったこの丘陵には、太古の昔から延長20kmに渡って続く栗の密林であったという。

明治 5 年(1872) 森港桟橋の脚材に大量の伐採があり、その後も鉄道枕木等の利用が続いてほとんど絶滅し、馬つなぎ場であった公園地帯の栗のみが伐採をまぬがれて現存したという。

よくぞ 残ってくれた。栗の巨樹 確かに日本にありました。







栗の巨木群 北海道 駒ケ岳山麓 森町の北海道天然記念物「茅部の栗林」 2005.4.24. 幹周(cm)が480、471、460、415、365、335、・・・、その他3mを越える栗の大木が全部で147本あるといい 雪を戴いた駒ケ岳 噴火湾の海を背景に林立していました





「茅部の栗林」周辺から見る 駒ケ岳と函館本線森町駅 2005.4.24.

縄文の文化は森の文化。 栗の巨木の森が食・住を提供し、集落を支え、文化を育んだという。 今 何処を見ても、そんな大きな栗の巨木 想像も出来ませんでした。 茅部の栗林は縄文の巨樹ではありませんが、太古の昔 縄文の文化を育んだような栗の巨樹群 よくぞ 残ってくれた。確かに日本に栗の巨木群がありました。



茅部の栗林の丘とその周辺から見る駒ケ岳 2005.4.24.

「茅部の栗林」を見た後 駒ケ岳を見ながら大沼へ。40年ぶりの大沼の散策してきました。 函館本線は幹線でもっと汽車の本数多いと思っていましたが、本当に少ない。駅で待つのもいやで、森町から駒ケ岳の麓を越える国道を峠へ向かって歩きだす。 車も少なく、国道ではあるが駒ケ岳を見ながらのwalk。

不意に峠に路線バスが現われたので、手を挙げる。大沼へ行くというと近くを通るというので、乗せてもらう。乗客もすくないので、北海道はどこのバスも本当に親切である。

森町から大沼まで近いと思っていましたが、随分遠い。歩いていると数時間かかったところラツキーでした。



函館への国道をはずれ、駒ケ岳山麓を大沼公園へ 2005.4.24.

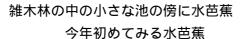
10 分ちょっとで 大 沼への標識の別れでお るしてもらって、駒ケ 岳を見ながらの駒ケ岳 山麓の雑木林を walk。

道にはもう雪はないが、 ブッシュの中にはまだ 残雪がいっぱい。 道 端にはふきのとうが群 生して 春を告げてい る。

30分ほどで、大沼の周辺道路へ出る。湖面と向こうに見えるモノトーンの林と残雪の山のコントラストが美しい。



40 年ぶりの大沼は すっかり 雪が消え 残雪の駒ケ岳と大沼の湖面と雑木林 畦にはふきのとう 水芭蕉が春を告げる 素晴らしい風景でした。





森町から バスも含めて大沼公園まで約2時間ほど 大沼駅周辺はさすがに車と人の群れ 春を待ちかねた 人たちで華やいでいました。

昼時 大沼駅到着にあわせたようにやってきた特急に飛び乗って函館へ 私のような風来坊には本当にフリー切符は便利。



40 年ぶりの大沼公園

2005.4.24.

早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて 2005.4.24.



南茅部より眺めた噴火湾側に沿って続く恵山と亀田半島の山並み 2005.4.24. この山並みの右端を越えて行くと「鉄山」から函館に至る

EIRA



北海道南端の函館・渡島半島の地図をみるとその噴火湾側の海岸に沿って 南端の恵山から駒ケ岳へ 亀田半島の山並みが続く。 その中に函館の町に隣接して「鉄山」の地名がある。

この地名に気づいてもう何年にもなり、「どんなところだろう。 鉄の山に違いない」と。。。。。。

恵山は北海道南端の活火山で、この恵山から駒ケ岳そして長万部に至る海岸沿いは縄文の時代から開けた地であり、また 海岸には砂鉄が堆積する砂鉄海岸。もっとも 北海道ではたたら製鉄の痕跡は未だなく、もっぱら本州から鉄製品が古くから持ち込まれてきたと札幌の開拓記念館で聞きました。

そして 恵山の南西の津軽海峡に面した海岸 古武井では幕末に北海道ではじめて溶鉱炉が築かれ、周辺の砂鉄を利用して製鉄生産が試みられたところ。これはわが国初の高炉操業の試みの一つでもあり、 開拓記念館にはそのパネルがありました。 しかし、実際には鉄生産はうまく行かず、数年で終わったようです。でも、上記したようにこの恵山を中心とした亀田半島の山並みは鉄を産し、また北海道ではじめて鉄生産がスタートした所と考えられる。



北海道 砂鉄の分布と古武井 溶鉱炉の絵図

4月24日 昼 函館の駅の案内所に飛び 込んで 鉄山から縄文遺跡の密集地南茅 部の海岸へ出るルートを教えてもらう。

「「鉄山」のバス停で下りて 次ぎのバス 待って南茅部へ行きたい。 夕方 函館 に帰れるよね??? または大沼の方面へ も出れるし・・・」と聞くと「 鉄山で おりて どうするの??? ほとんど 何も通らぬ山の中。

タクシーも迎えなにいってくれないよ 南茅部もほぼ 同じ」と呆れ顔でいわれ た。

南茅部も函館に合併して函館市。ところが 交通の便はすこぶる悪く1日数本のバス路線。

まあ どうにかなると 出発が 迫っていた鉄山を通って南茅部 行のバスに乗る。

函館から 15 分ほどで五稜郭・湯の川温泉の函館市街を抜けて トラビスチヌス修道院のところから、いよいよ山越え。幾つか集落が点在する丘陵地を過ぎるといよいよ山が近くなり、30 分程で山の中に入り込み、人







家がなくなり、対向車もなく、バスだけが山間の曲がりくねった道を登って行く。 バスの中ももう数人。 眼前に山を大きく切り崩しているのが見えてくる。

「あそこが 鉄山。 バスも2分ほど休むよ」と運転手さんが 教えてくれる。



山の斜面に沿った道を大きく山を切り崩している砕石場を見ながら下っていって反対側に回りこんだところでバスが止まる。「鉄山」のバス停である。バス停の向こうにも同じようにやまを切り崩している砕石工場が見える。













赤茶けた山肌に黒く柱状節理状に縞模様のはいった部分が見え、一瞬 これが鉄の鉱脈と思いましたが、この黒い部分が粗粒玄武岩の岩脈で、きれいな平滑面に区切られた大きな石が採取されている。 いずれにしる 地下でのマグマが上がってきて、他の岩の層に貫入凝固した半深成岩である。 深成岩にはマグマには大量の鉄分があり、このあたりに鉄の鉱脈があっても不思議でない。 バスの運転手さんによると昔 このあたりに鉱山があったと言うがさだかでない。 「鉄山」の名もそこから北のかもしれない。

しかし、現在ではここで採取されるのは粗粒玄武岩の砕石。バラスとして最適な石の様である。

周辺には砕石工場以外になにもなし。日曜日の昼だったからかも知れないが、人も車も全くとおらず、静まり返っている。山の真っ只中である。 案内所の人が言った意味がやつとわかった。







「鉄山」周辺 2005.4.24.

ただ、ここでまっすぐ南茅部へ山越えするルートと南の恵山の方へ山越えするルートが分岐する。 昔から、ここは茅部や恵山の海岸と函館を結ぶ山越えの道でこのあたりでも鉄がとれ、海岸に運ばれたのか もしれぬ。運転手さんのアドバイスもあり、そのまま また バスに乗って、山を越えて「北の縄文」遺跡 が並ぶ南茅部の海岸へ下っていきました。





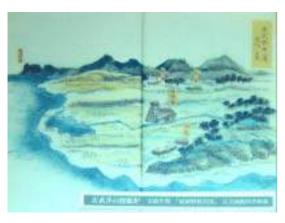
「鉄山」から亀田半島の山並みを越えて 噴火湾側の海岸へ そこは「北の縄文」の密集地 南茅部



恵山から駒ケ岳へ続く山並み 「鉄山」周辺 2005.4.24.

函館の「鉄山」は火山帯に属する「鉄の山」か 火山帯の禿山と思っていましたが、 雑木林が生茂る山中。 その中で 今はバラストの原料粗粒玄武岩を産する山中の採石場でした。

でもこの恵山から駒ケ岳へと続く亀田半島の山並みは火山帯の中にあり、この海岸では豊富な砂鉄が取れる場所。 「鉄の山」であっても不思議でない。



「たたら製鉄」との関連 鉄鉱脈などについてはよく判らなかったが、鉄との関連が

ありそうな場所でした。 武井では この周辺の砂鉄を使って、 幕末に日本最初の溶鉱炉が建てられ、洋式の鉄製錬が試みられ たところである。

「鉄山」の地名もこの幕末の鉄精錬と関連した動きの中でつい たのかもしれない。

地図で見つけた「鉄山」 函館の「鉄山」も面白い場所でした。

2005.4.24.午後 鉄山から南茅部へ越えながら

早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.4. 「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて 2005.4.24.





大舟川から背後の高台 大船縄文遺跡を眺める

2005.4.25.



南茅部 大船縄文遺跡

2005.4.25.

函館から鉄山・亀田半島を横切って噴火湾沿いの海岸に出ると海岸にそった段地の上にはおおよそ4KMごとに縄文の集落が並ぶ縄文遺跡の大集積地。

そんな海岸のほぼ真ん中 大船縄文遺跡は青森山内丸山遺跡と同じ 5000 年前ここには 1000 軒を越える竪穴住居群の大集落があったという。特に 2m もの深さの竪穴住居詳細はわかりませんが、寒さをしのぐ工夫かもしれません。

また このすぐ南の垣の島遺跡からは6500年前の赤ちゃんの足型土版や9000年前の日本最古の漆製品が墓の副葬品から出土 磨光 B 遺跡からは縄文後期のアスファルト工房が出土。本当に華々しい縄文遺跡群である。海流に乗れば山内丸山の青森に渡ることが出来るとして実験航海をした南茅部の人たちに4,5年前三内丸山遺跡で出会ったことがあり、一度は出かけたいところでした。



南茅部 大船集落と噴火湾の向こうに羊蹄山・有珠・樽前山の山並み 2005.4.22.

4月22日午後 バスで鉄山・亀田半島を越えて 南茅部の海岸沿いの中心地川汲の集落に入り、ここから海岸沿いに北へ噴火湾の海を見ながら大船の海岸へ

後ろには海に突き出た恵山の山並み 前方には噴火湾の向こうに室蘭・樽前山から有珠山・羊蹄山の真っ白な山並みが見える。 また、海には南茅部の特産 昆布漁の舟が沢山出ている。本当に穏やかな海の景色である。

直ぐ右手は海 左手には山の崖が迫り狭い集落が一本の道に沿ってポツポツと並ぶ。 川汲から 10 分ほど 函館から 1 時間 30 分ほどで大船の集落に到着。 ここも海沿いの崖にへばりついた集落で海岸沿いには耕地がない







南茅部 大船の集落から 噴火湾南の恵山方面 & 集落の南 垣の島遺跡のある海岸丘陵 2005.4.22.



南茅部 大船縄文遺跡

2005.4.25.

バス停のすぐ横が小学校で、その南側に大船川が噴火湾に流れ込み、川の両側に海岸段丘がづっとつづいている。 案内板にしたがって、小学校の北側から段地の上に上ってゆくと上はなだらかで上に集落があり、そのはずれの墓地に隣接して大船遺跡がある。

崖の上の高台 この山の裾野一帯が大船遺跡で、舟形竪穴住居と竪穴住居の一つづつを残して 埋め戻されている。大船遺跡からは前に噴火湾が広がり、後ろの山のなだらかなスロープは雑木林。 おそらく、この雑木林一帯に縄文の集落がひろがっていたのだろう。



大船縄文遺跡 2005.4.22.

この海岸丘陵地に 5000 年前 青森三内丸山遺跡と同じ時代 1000 軒を越える大集落 その住居は深さ 2m にも及ぶ竪穴住居群 舟形の竪穴も見つかった この集落を支えたのは栗などの森の実とクジラなどの海。

遺跡はほとんど埋め戻されているが、直ぐ横に立派な大船C遺跡速報展示室があり、大船C遺跡はじめ、南茅部の縄文遺跡について出土品ふくめて、レビュー展示されていた。

北の縄文遺跡というと青森三内丸山遺跡の大集落を考えるが、同じ文化圏の大集落が津軽海峡を挟んでこの南茅部にあり、素晴らしい文化を育んでいたことを知る。

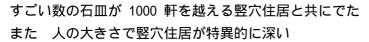
北の大地 北の縄文 というが はるか縄文の時代には この地が中心地のひとつであったこと実感する。



【大船 C 遺跡速報展示室】













【北の縄文を紹介するパネル展示】

函館市街地から東に約30キロ 鉄山・亀田半島を横切って噴火湾沿いの海岸に出た南茅部は縄文の草創期から縄文後期まで、縄文時代を通じてことが生活していた華々しい縄文遺跡群の集積地。

北海道内でもっとも温暖な地域に入り、縄文の最盛期(中期)は非常に住み易い場所であったと思われ、海岸にそった約30キロの段地の上にはおおよそ4KMごとに縄文の集落が並ぶ縄文遺跡の大集積地。











そんな海岸のほぼ真ん中に大船縄文遺跡があり、青森山内丸山遺跡と同じ 5000 年前の縄文中期 ここには 1000 軒を越える竪穴住居群の大集落があった。また このすぐ南の垣の島遺跡からは 6500 年前の赤ちゃん の足型土版や 9000 年前の墓の副葬品から日 本最古の漆製品が出土 磨光 B 遺跡からは縄文後期のアスファルト工房が出土。海流に乗れば山内丸山の青森に渡ることが出来るとして実験航海をした南茅部の 人たちに 4,5 年前三内丸山遺跡で出会ったことがあり、一度は出かけたいところでした。

「北の縄文」 南茅部に三内丸山遺跡に引けをとらぬ縄文文化が津軽海峡を共有して花開いていた



早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて 2005.4.25.

【札幌 北海道中央脊梁山脈をループする鉄道 Walk 】 札幌 千歳・石勝線 釧網線 石北線 函館本線 札幌







釧路湿原

阿寒の山々

知床連山

1. 釧路湿原

細岡駅周辺 釧路川に沿って

2. 釧網線の車窓から

釧路湿原&阿寒・知床の山

4.24.夜 函館から札幌に帰って、そのまま 23 時発の釧路行の夜行特急「まりも」に乗る。

どうしても 釧路湿原を歩いてみたかったのと釧網線に乗って、阿寒・知床の山々をながめたかつた。そして帰りは網走から昼の北見峠を越えて 時間があれば黒曜石の白滝に下車してみたい。 雪の山の車窓見物である。

午前2時過ぎ、汽車は真っ暗な狩勝峠を越えて行く。狩勝のトンネルをぬけると大きな満月が真っ暗な山の背後に出て、汽車を追いかける。

汽車の走る音しかない真っ暗な山の端に浮かぶ月 いつからそうなつたのか知らないが、美しいというより、 怖いというか 不気味な印象 でも 眼を そらすことできず、じっと眺めていました。 (網走で知っ たのですが、4.25.朝 尼崎での JR 福知山線の脱線事故でした)

朝 6 時前に釧路着。3 日前と違って雪が消えているが、やっぱり霧の中。 厚岸・根室の方へ足をのばすかそれとも 霧の釧路湿原に行くか迷うが、いずれにせよ便が悪い。 釧網線も予想以上に汽車がない。何処もそうですが、山を越えるのは他国異郷の地である。

汽車の運転手さんに聞いて釧網線 細岡駅で下りて釧路湿原を少し歩いて、 それから再度釧網線に乗って 車窓から釧路湿原を見ることにする。

1. 釧路湿原 細岡駅周辺 釧路川に沿って



細岡駅に降り立つと そこはもう 釧路湿原の中。釧路湿原の東端の高台を汽車が走り、ここから先 カーブして釧路湿原の中へ入って行く鉄路と無人の駅舎があるのみで、まったく人っ子一人居ない。 目の前には 湿原を流れる釧路川 そしてその向こうに潅木が生茂る釧路湿原が霧の中にありました。

釧路へ戻る時間を確認してぶらぶらと釧路川沿いを歩く。釧路川は雪解けの水を集めて堂々と流れるが、時 折鋭い鳥の声以外まったくの静けさの別世界である。

霧の間から 時折ぼやっと観光展望台の姿が見える。鳥の声を聞きながら 霧の中を釧路川沿いに早朝の散 策を楽しみました。 まだ 春遠からじ の釧路を感じました。



霧の中の釧網線 細岡駅 2005.4.25. 早朝





釧路湿原 細岡駅周辺 釧路川に沿って

2005.4.25. 早朝

2. 釧網線の車窓から 釧路湿原&阿寒・知床の山

細岡駅から一端 釧路に引き返して、9時05分発の快速「しれとこ」網走行に乗って阿寒・知床へと続く山を越えて網走へ。

車窓からの釧路湿原そして移り変わる阿寒・知床の山々を眺める気楽な walk?である。

まだ、釧路を出るときには朝霧が立ち込めていましたが、見込みどおり釧路湿原に差し掛かる時には霧が晴れ、つい3日前の雪原がうそのような何処までも続く葦原の海が広がっていました。

車窓からは、朝歩いた湿原とは見る高さが違うので、景色がまったく違う。

一昨日がうそのように一面の雪原が消えの何処までも続く。潅木と葦原の海。

今行く釧路湿原を挟んではるか反対側の丘のあたりが、雪原に舞う丹頂を見た鶴居村のあたりか。

湿原は釧路川がとうとうと流れ、おそらく網目のように細い水路がひろがるのでしょうが、一面に葦や 潅木の原がどこまでも続いている。

尾瀬や昨夏訪れたサロベツ原野のような池が点在する草原とは違って、栃木の渡良瀬川遊水地のあの葦原群のイメージである。

僕みたいなひまな風来坊は居ないだろう????と思っていましたが、わずか乗客 20 名足らずの車内 先頭へ行ってカメラやビデオを構える人 湿原側 の座席に慌てて変わる人 すれ違い列車待ちで駅に停まると降りて 駅の先頭に走る人など約半分ぐらいは 鉄道の旅を楽しむ人たち。

釧路湿原が過ぎると 今度は雪に覆われた林の中 知床の付け根と 阿寒の山の間を越えてゆく山岳列車。 すばらしい雪どけの冬と春とが交差する景色にみんな汽車の旅を楽しんでいる。

【釧網線 車窓から 【1】 釧路湿原 2005.4.25.】







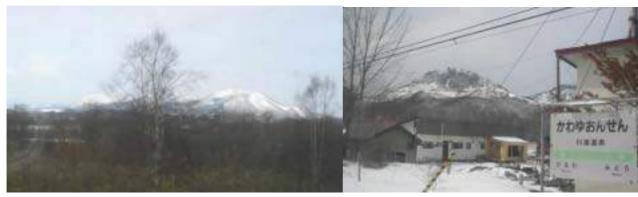


釧網線より

釧路湿原

205.4.25.

【釧網線 車窓から 【2】 阿寒の山々 2005.4.25】





釧網線より 阿寒の山々

2005.4.25.

【釧網線 車窓から 【3】 知床連山 2005.4.25】











釧網線より 知床の山々

2005.4.25.

先頭に戻る

【 札幌 北海道中央脊梁山脈をループする鉄道 Walk が完成 】

札幌 千歳・石勝線 釧網線 石北線 函館本線 札幌

釧路から網走まで約3時間 釧網線は鉄道マニア憧れと聞きましたが、ほんとうに風来坊には飽きない路線同じような風来坊に何人か出会いました。

網走で13時30分発石北線特急「オホーツク」に乗り込む。

朝釧路から乗った人が数人 おたがい ニャーと笑って乗り込み。

北見からループ状に延々と豪雪の北見の山を上って遠軽へ。スイッチバックではないのですが、遠軽で汽車は反対方向へむきを変え、また豪雪の山の中に入ってゆく。遠軽からは北見峠を越えて大雪の山中を上川・旭川へ下って行く。 豪雪の名前が本当にそっくり 当てはまる深い雪の山中。 黒曜石の白滝も雪の中。下車せずそのまま旭川・札幌へ

一度やりたかった北海道 脊梁の山を鉄道ループでめぐる旅 「札幌を出て 石勝線 狩勝峠を越えて釧路へ 釧路から釧網線 釧路湿原・阿寒知床の山を見ながら網走へそして石北本線で豪雪の北見・大雪の山々を眺めながら北見峠を越えて旭川から札幌へ帰る」実現できました。

豪雪の白滝駅を見ながら 今日一日回った鉄道の道をありかえっていました。

一日のループ完成を祝って 黒ビールを飲んで帰ろうと

豪雪の大雪山 縄文黒曜石の産地 白滝周辺を眺めながら 2005.4.25.夕

早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.6.「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽忍路・余市へ 2005.4.26.& 27.

「リンゴの実るところ 縄文のサークルあり」



- 1 千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて
- 2. 小樽忍路・余市のストーンサークルを訪ねて
- 3. フゴッペ 洞窟 岩面刻画



「北の縄文」 今から 5000 年前青森山内丸山縄文遺跡が栄えた頃、渡島半島から道央にかけての南北海道に もほぼ同じ文化圏を構成する縄文文化が栄えていた。

「リンゴのなるところにストーンサークルあり」

「北海道にも縄文のストーンサークルがあり、墓に土の土手を築く土のサークル周堤墓がある。北海道では 是非見にいかれたら・・」と開拓記念館の平川学芸員さんに色々教えてもらって 地図なども書いてもらっ てストーンサークルのある小樽・余市の海岸へ また周堤墓のある千歳の原野を訪ねました。

静かにねむるこれらの遺跡にはまるでそれらを守っているかのように早春の草花がひっそりと咲いていました。

北海道に北海道の砂鉄を使った「たたら製鉄」があつたのか???? 北海道 縄文の栗林の文化圏何処まで????などと勝手なイメージ 持って訪れた北海道開拓記念館。

館内には太古からの北海道の歴史が展示されていました。



鉄もそして「北の縄文」も。

学芸員の平川さんに色々教えてもらい「北海道での鉄生産は幕末まで行われなかったらしい」「北海道の栗林 は道央 小樽近辺まで」などと教えてもらう。 また、北海道の縄文のストーンサークルについても。 北海道開拓記念館





北海道縄文のサークル(中央) 函館古武井 日本初の溶鉱炉 (右)のパネル

「北海道にも沢山のストーンサークルがある。また、土の縄文サークルも。 雪が消えた今がはっきりサークルが見える絶好の時期 今 見に行かないと・・・・ 行くなら小樽の恋路のストーン サークル が行きやすい ほかはまだ雪 見つけられないだろう。

小樽に行くなら直ぐ近くのフコッペの洞窟縄文の素晴らしい線刻画 これも是非に・・ また、千歳の土のサークル

千歳駅から勇払の原野の方に入った林の中のか一番いい・・・是非是非に・・・」

平川さんの熱弁にあおられ、地図も書いてもらって どんどんイメージ膨らませて 行ってきました。 「忍路海岸」の言葉にも魅せられて・・・

「リンゴのなるところにストーンサークルあり」 とどこかで聞きましたが、思いもかけず、「北の縄文」 ストーンサークル・土のサークル (縄文の周堤墓)の現地に立てて感激でした。

林の中に静かにねむるこれらの遺跡には まるでそれらを守っているかのように早春の草花がひっそり それも一層印象的でした。



1. 千歳市の土のサークル キウス周堤墓群を訪ねて

2005.4.26.





国道 377 号線の両側に広がるキウス周堤墓群 千歳市中央 2005.4.26.

4.26. 野幌の開拓記念館を訪ねた後、そのまま新札幌から千歳へ。

夕方になるが、「土の縄文サークル」がどんなものか???訪ねました。

「縄文の土のサークル キウス周堤墓」 私はまったく知らず、初めて聞く名前。

千葉市の巨大な縄文貝塚「加曾利貝塚」も貝塚が巨大な環状になっているが、縄文後期の墓で地面を丸く環状に掘り下げ、掘った土を周囲に堤として環状に積む。

この環状に積み上げたつつみの内部を集団の墓としたもので、最大の周堤墓では直径が75mもあるという。



千歳駅に降り立ったのは午後3時過ぎ。

市街地から国道 337 号線を長沼町に向かって 8km、道東自動車道の千歳東インターチェンジを越すとすぐに道路の両側にせまる林が目印。 ただし、交通機関なく道路沿い歩くかタクシーしかなしと聞いている。

詳細な地図を書いてもらったので楽勝である。一応 行きはタ クシーで行き、帰りは歩くことにする。

タクシ-に乗って地図を見せる。「場所は判るが 何か看板があったなあ・・・ なんにもないし、人気もない場所だよ」と教えてくれる。

千歳の市街地を抜けて 広い勇払原野の名残の丘陵地を北東方向の長沼へと続く国道 377 号線。10 分ほど走ると田園地帯の中に高速道路が見える。追分から夕張への道東自動車道路。

これをくぐくるとまっすぐ続く国道の両側に雑木林が立ちふさがる。 あの林が「キウス周堤墓遺跡」だという。

小さな起伏のある雑木林が続いているだけで、良くわからない。 道端にある「キウス周堤墓遺跡群」の案内板でそれと判る。



勇払原野の名残の千歳市中央周辺原野と キウス遺跡の森 2005.4.26.





キウス 周堤墓群

2005.4.26.

案内板の解説を読んで 雑木林の中に入ると、なんでもない起伏の雑木林と思っていたところが、傾斜のゆるいすり鉢状に環状に取り囲んでいる。

一つの環はセンターの国道を越えて向こうの雑木林の環とで一つの円を作っている。 そんな環が雑木林の中に数個見える。すり鉢の中は平らな広場で 木々がまばらで、落ち葉のじゅうたん。 ここが縄文後期 今から 3000 年前の集団墓。人っ子ひとりいない雑木林の中であるが、国道にはひっきりなしに自 動車が通る。全体が落ち葉に覆われていて、まったく墓には見えないが、縄文の墓がそのまま地表に現われている場所である。

おそらくは 相互に関係深い一つの集落・集団がここに集団墓地をもち、相互の絆を強めていたのだろう。 キウス周堤墓群 現地案内板には次のように解説が書かれていた。

千歳市キウス 周堤墓 (しゅうていぼ) 群は、千歳市の中心から東方 9 km の千歳市中央地区、石狩低地帯を望む 馬追(まおい(丘陵南西麓のゆるやかな斜面にあり、約 3000 年前の縄文時代後期につくら れた集団墓。

地面を丸く環状に掘り、掘った土を周囲に土手状に積み上げ、内側を墓地にしている。

周囲に堤があることから「周堤墓」と呼ばれる。

国史跡指定地のキウス周堤墓群には全部でこのような墓が8基あり、一番大きなものは直径が75mもある。 土手の上から竪穴の床までの深さは5.4m、最も小さな墓の直径は20m。

仮に一人が一日 $1m \times 1m \times 1m$ の穴を掘ったとすると、25 人でおよそ $4 \times 1m$ かかることになる。

縄文時代のお墓が現在の地表面で見ることができるまれな例で、約4万 m2 の範囲が国の史跡に指定された。 現在、国史跡のキウス周堤墓群とその周辺で24 基の墓が見つかっている。

(キウス周堤墓群 現地案内板解説等より抜粋アレンジ)

このような大きな円環を持つストーンサークルが現われるのも縄文後期 同じ時代である。

なぜ周堤墓なのか この集団はストーンサークルを作らなかったのか???

疑問はひろがりますが、良くわからない。もっとも 縄文のストーンサークルは集団墓というより、集団の祭祀の場所の性格が強いが・・・



この周堤墓の土手には春を告げる福寿草や名前は知らないが、敷き詰められた枯葉のじゅうたんの中で黄色 の小さな花が咲き、静かに墓を見守っていた。

また この周堤墓の雑木林に入る国道の道端にはこれもふきのとうが隊列を組んで並んでいた。 ヤッパリ、札幌で教えてもらったとおり、今でないと見られない「北の縄文 土のストーンサークル」でした。

30 分程 この雑木林の中を歩き回って、国道を今度は歩いて帰路。

ちょうど 夕日の陰影の強い時間で、周辺の雑木林や原野の草が 本当に燃えるように鮮やかで、この「縄文の土のサークル」を訪れたことにまるで礼を言ってくれているようで素晴らしい原野の夕。 心うきうきの Walk でした。

途中で長沼から千歳へ行くクルーザーが止まってくれて 「千歳までのってけ・・・・」と本当にありがたい。これもラッキーでした。

2005.4.26. 千歳の夕景を眺めながら Mutsu Nakanishi



小樽忍路・余市のストーンサークルを訪ねて 2005.4.27. 2.





ストーンサークルの残る小樽・余市の海岸 小樽 忍路のストーンサークル

2005.4027.

小樽忍路 忍 路 環状列石 a. b. 小樽忍路 地鎮山 環状列石 余市 西崎山 環状列石 C.

4.27.朝 札幌から函館本線の特急で小樽へ 今日は小樽・余市にある縄文のストーンサークルを訪ねる。 小樽から余市の海岸段斤の斤には縄文時代から開けた地。また 本州の縄文と北方の縄文が出会う接点でも ある。本州の縄文を育んだ栗の森もこのあたりが北限という。

そんな縄文文化の節点の地に「縄文のストーンサークル」があり、また、北方文化の流れといわれる洞窟に 描かれた線刻画があるという。

「東北のストーンサークルとは ちょっと違うところもみてほしい」

「小樽からバスが峠を越えて崖が続く美しい海岸沿いに出ると忍路海岸。少し行って岬のトンネルをく ぐって海岸から離れると直ぐ忍路のバス停。 そこから 忍路の集落を抜け、山の方へ上ったところが忍 路のストーンサークル。 さらに西へまた海岸沿いに出て、余市に入る岬のトンネル抜けたとこでバスを 降りて山に入ったら、西崎山のストーンサークル。 その海岸にフコッペ洞窟がある。

素晴らしい海岸だから 縄文といっしょに景色を楽しんできて・・・・」 と開拓記念館で聞いた。







西崎山ストンサークルからフコツペ海岸 2005.4.27.

小樽の駅前から余市を通って積丹半島へ行くバスに乗って恋路海岸へ向かう。

ここは札幌から小樽を通って函館へ向かう幹線道路で道も広く交通量も多い。小樽から 15 分ほどで市街地を 出て崖が続く海岸にでる。真っ青な海と白 い山が続く積丹の岬が実に美しい。「恋路」の名前がロマンチッ クでこの名前に惹かれてこの海岸を訪れる観光客も多いのだろう。

「正面の岬をトンルネでくぐったら 恋路だよ」と運転手さんが教えてくれる。

岬を抜けると海岸の裏側の小さな丘が続く丘陵地。 ぽつんと一人丘の上の道路脇に下ろされる。 道路の 反対側に小学校があるが、集落は丘の下に見え、 バイパス道路が通り抜け、その向こうに小さな雑木林の丘 が続いている。あの丘のどれかに恋路のストーンサークルがあるのだろう。

イメージ的には恋路の海が見下ろせるストーンサークルを勝手にイメージしましたが、当て外れです。







忍路の集落に続く丘 この丘の斜面に忍路ストーンサークル

集落を通り抜け、バイパス道路に出たところに「右 忍路環状列石 左 地鎮山環状列石」の標識。忍路環 状列石だけでなく、直ぐ隣の丘にも環状列石がありました。

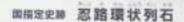
バイパスの直ぐ南から丘へ入ってゆく道にはまだ雪が残っていました。

「丘の上は雪でストーンサークル見られませんか・・」と農道の入り口で雪を集めているおばさんに聞く と「ストーンサークルはやっと雪が消えて見られるよ」と。

少し入るといきなり道の右手に案内板「忍路環状列石」が見えました。



忍路環状列石



所長地 非實工工作 BOUNESCOUND DAYER **製 日 日 日 日**

BREWEG SHOW BUTCH BARBOOTS OF THE BREEF ODVVINENTABLISM NEW YORK SENSON DESCRIPTION OF THE STATE TETT, WAY ORKEWS MCCOMBING, MICHIGARMAC COCCOSAN

SOMORDERS, GREEKSCOOLD, RAVERSWICKELLAND

ANGELT-1 TOTAL ANGELT A





忍路環状列石 約3500年前の縄文後期の遺跡。

緩やかな丘の斜面を平らな面に造成し、南北33m東西22mの楕円形に石を配している。

サークルは $2 \sim 3$ m の幅に高さ $10 \sim 20$ cm の小石を環状に重ね置き、その内側に高さ $100 \sim 200$ cm の大石を配置されている。

明治 19 年の報告(渡瀬 1886)には、小高い山は「三笠山」と呼ばれており、その為古くは三笠山環状石籬 (現在は忍路環状列石)と呼ばれた。近代になって一部手が加えられ、作られた時と異なっているところが ある。

縄文時代の生活や精神を知る重要な遺跡。

恋路のストーンサークルも 他のと同じく日常生活空間と区別された墓地・弔いの儀式を行った場所と考えられ、北海道のストーンサークルでは 東日本で造られたストーンサークルがその後 北海道に入ってその 後独自の変化を遂げたという。

この環状列石の北側に隣接する同じ時代の忍路土場遺跡からは発掘調査で巨大木柱が発見されており、環状 列石と関連する祭祀的な遺物と考えられ、古代のシャマニズムを考える上で貴重な資料となっている。

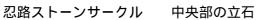
(忍路環状列石 現地案内板 解説 小樽市教育委員会資料 より)





忍路ストーンサークル 環状の列石 外に小さな石が敷かれ 内に大きな石が立ち並ぶ 2005.4.27.







一つでなく数箇所に石がたっている

環状部の列石この忍路のストーンサークルでは環状の列石の内側に大きな石が立ち並んでいる。

雰囲気的には青森小牧野のストーンサークルに近い感じがするが、小牧野のように環状の列石が組み込まれてはいないが、環状の列石の内側に 1m を越える石がたっている。 また、サークルの中央には数箇所 配石の真ん中に立石が立っている。

この立石には三角状の割り石や長方形の石もあり、今まで見たストーンサークルとは異なっている。





忍路ストーンサークルのある傾斜地に隣接して 生活の場である忍路土場遺跡が出土したという

この忍路ストーンサークルは明るい丘の麓でこのストーンサークルに隣接して忍路土場遺跡があり、こちらは生活の場であったという。

忍路ストーンサークルに隣接する傾斜地が沢に接した畑になつていて、ここが土場遺跡かもしれないが、よくわからなかつた。

しかし、この忍路土場遺跡は縄文後期(約3500年前)の湿地遺跡で大量の木製品を始め漆工芸品、繊維製品などと共に木の実の四点セットとよばれるオニグルミ、ドングリ、クリ、トチノキの木の実が出土し、河川に接した場所には水場遺構があり、木の実のあく抜きさらし加工が行われていたらしい。

このように、縄文後期のストーンサークルが生活の場に隣接してあるというのは初めてあるが、それがどんな意味を持つのか興味のあるところ。

地鎮山環状列石(小樽市)







忍路 地鎮山環状列石 2005.4.27.

忍路ストーンサークルから 西へ約1キロメートル程の小高い山が地鎮山でこの山の頂上にも同じ縄文後期のストーンサークルではあるが、ほかのとは少し違った形態の小さなストーンサークルが在りました。 現地に行くまでまったく知らなかった遺跡。

バイパスを少し西へこの地鎮山を回りこんだところにこの山への良く整備された登り道があり、のぼりつめた狭い頂上部に鎖で囲まれた 10m 径ほどの 広場に大きな立石が数個 点在し コンクリートで保護された 四角い穴があるのみで、案内板の解説を読まないととてもストーンサークルとは思えない。

地鎮山環状列石

3500年前の縄文後期の遺跡で、地鎮山頂上の平らな地点に高さ1mほどの立石を12個使い 長径10m 短

径8mの楕円形に配している。

昭和24年の発掘調査で中央部の石を敷き詰めた部分の下から縦横2m深さ1mの四角い墓穴が見つかった。 (地鎮山環状列石 案内板より)

この遺跡では土壙墓が一個しか発見 されなかったことから集団の墓ではなく首長墓としての性格を持つものとされている。 現在、墓壙の壁はコンクリートで土留めされています。



四角い墓穴のまわりに円石が敷き詰められているのが見えるが、円石は土と落ち葉にほとんど隠れている。 大きな立石とクサリでサークルをイメージする。

かえつて、インターネット調べると調査時の円石を敷き詰められている様子を示す写真がありました。(上の右端写真)

また この山の斜面の所々にカタクリの花や白い花が春をつけていました。





余市 西崎山 ストーンサークル



フコッペの海岸から余市 2005.4.27. 西崎山ストーンサークルからフコッペの岸 積丹半島の眺望





西崎山ストーンサークル 2005.4.27.



中央 奥が西崎山 ストーンサークルの丘の上

忍路からバイパスを行かずに元の国道に 戻って、余市に向かって歩くと30分程で 蘭島の市街地を抜ける。

蘭島の街を出るところで、海岸に近い岬にぶつかり、トンネルでこの岬を抜けると、パツと海が開け、余市へ続く浜と積 丹半島が見える。

真っ青な日本海と浜が美しい。

このトンネルが小樽と余市の境でトンネルの上の岬が西崎山の尾根である。

この崖が海岸と直角に陸の奥に伸び、

前方には右に日本海に沿って砂浜のある

平地が余市の市街地へ続いている。 ちょうどコの字型の平地の海岸フコッペ海岸である。 縄文の頃には もっと奥まで海が入っていたとおもわれる。

トンネルをでた崖の直ぐ横にコンビニがあり、崖に沿って奥の丘陵地に登って行く道が在る。これが判り

にくいと教えてもらった西崎山への道。

のぼって行くとサクランボの木が立ち並ぶ果樹園の中を道は通り抜けて登って行く。 フコッペの海岸が素晴らしい。さらに登りながらこの丘陵を巻くとバイパスのトンネルのところに出て、西崎山ストーンサークルの標識が見える。







フゴッペ海岸から西崎山へののぼり道 & パイパス西崎山トンネルの上の階段 ストーンサークルの入り口

このトンネルの上への階段を上がると雑木林に包まれた西崎山ストーンサークル。

下を通ってきた果樹園の上の狭い丘の先端部にあたる。

階段を上がって、丘の上の雑木林の中を良く整備された遊歩道を進むと西崎山ストーンサークル。道の脇にはここでもカタクリの花が出迎えてくれる。

スト変サークルには それこそ 直径 10m ほどの赤茶けた円形グランドに沢山の自然石の小石が散らばり、 所々に立石が立っている。







西崎山 ストーンサークル

2005.4.27.





西崎山 ストーンサークルの配石墓群

2005.4.27.

良くみると直径 1m 弱のサークルの真ん中に立石が立っている。そんなのが 案内板によるとこの円形グランドに 7 箇所。 そして その配石の下には穴があって穴の中からリンが検出されたことから、この立石一つ

一つが配石墓の様である。

また この配石墓の間から縄文後期の土器が出土したという。

ストーンサークルというと 周囲に環状の環をイメージするが、この円形グランドには環が見られないが、7 つの配石墓の集合体全体でみると 100 余りの自然石が配され、それが長径 1 7 m(南北) 短径 11 m(東西)の精円をなしている。 こんなストーンサークルがこの場所をふくめ、この尾根筋に 4 ケ所あり、それぞれに 3 ~ 5 基の配石墓があるという。

また 一つ 知らなかった縄文のストーンサークルをみました。









一つ一つの配石墓の傍らや尾根の道の傍らにはカタクリの花が咲き、いかにもこれらの墓を守っている風である。 また、この丘の上からは眼下にフコッペ海岸から積丹半島へと続く日本海がみわたせる素晴らしい場所。 おそらく集落はこの下の海岸の高台にあったのだろう。

素晴らしい場所での縄文の光景が目に浮かぶ。

今日一日 それぞれタイプの異なる縄文のストーンサークルを見ました。

「ストーンサークルは 縄文の心を映す」と言いますが、東北本州のストーンサークルだけでは縄文を語れない

縄文中期 隆盛を極めた縄文が寒冷化など森の恵みが変化して 大きな集落が維持できず、住み慣れた場所を離れ、新しい場所をめざす。

そんな縄文の後期この北の大地でもストーンサークルが形成される。

東北のストーンサークルが大型で集団の絆を確かめる祭祀の場所のイメージが濃いのに対し、

今日見た北海道のストーンサークルは集団の共同墓の 色彩が強い。

このストーンサークルが縄文の生活・精神にどんな意味をもつのかわかりませんが、集団を大事にせねば生

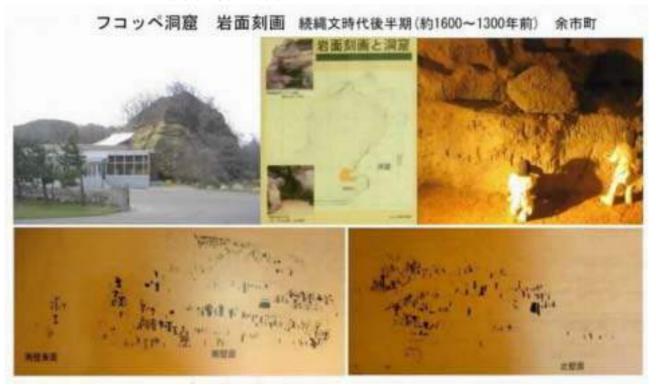
きていけない社会であったろう。

そんな心の絆がストーンサークル 自然石の配石に込めた思いを傍らに咲く春の妖精「カタクリ」の花はずっと見守って来たに違いない。

はるか遠く見下ろす日本海に縄文の海を想像しながら山を下りました。

2005.4.27. 西崎山ストーンサークルで余市・積丹の海をながめながら

3. フゴッペ 洞窟 岩面刻画 2005.4.27.



昭和25年発見の洞窟遺跡。

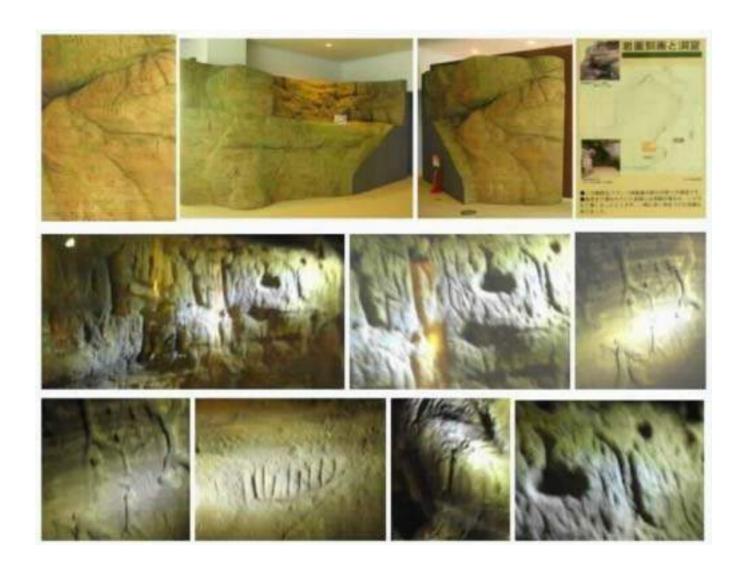
洞窟の大きさは間口・奥行きとも7mあり、高さ8.2mで内部には貝・灰・砂が層を作って堆積していました。 発掘調査の結果 続縄文時代の土器や石器・骨角器が多量に発見され、 同時に内部の壁画に仮装した人物、動物等200以上の続縄文時代(約1500年前)の刻画が発見された。

岩壁に刻画を残す洞窟遺跡は小樽市手宮洞窟と共に現在日本国内において対比されるものがないが、北東アジアには広く岩面刻画を描く文化があり、関連が考えられているが、今のところ良くわかっていない。 縄文時代前期初頭(約6000年前)には海水面が現在より2~3m高く、現在フゴッペ洞窟のある丸山は岬になっており、波による浸食によって洞窟が出来た。

そしてそのの中に小さな石や砂が堆積し、人が出入りの出来る環境になりました。

続縄文時代の人々によって、この洞窟の岩面にさまざまな恵が描かれたと考えられている。

人が仮装したようなものから舟、魚、海獣、4本足の動物のようなものがあります。角や翼で仮装した人像が多くシャーマンを表したものと考えられ、何らかの宗教的儀礼の場であったのではないかと考えられています。



早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

6. 早春と冬が入り混じる北の大地を風来坊

5.1. 狩勝峠を越えて「雪の釧路湿原に舞う丹頂鶴 鶴居町 丹頂の里」へ 2005.4.24.

2005.4.24.

2005.4.24.

2005.4.24.

2005.4.26.& 27.

2005.4.25.

- 1. 雪の狩勝峠から十勝平野へ
- 2. 釧路市丹頂鶴自然公園
- 3. 丹頂が群れ舞う「丹頂の里 鶴居村 鶴見台」
- 5.2. 一足早い早春の駒ケ岳山麓 栗の巨樹群 森町「茅部の栗林」

5.3. 函館郊外の地図にある「鉄山」の地名を訪ねて

5.4.「北の縄文」を訪ねて【1】 南茅部の縄文遺跡を訪ねて

5.5. 釧網線の車窓から 釧路湿原・知床の山々を眺めて

5.6.「北の縄文」を訪ねて【2】 千歳・小樽恋路・余市へ

千歳市の土のサークル 周堤墓を訪ねて

小樽恋路・余市のストーンサークルを訪ねて

ブゴツペ洞窟 岩刻画

【完】

5. **| 糸魚川・青海に縄文の交易品 翡翠の谷を訪ねて** 2005.5.17.&18.







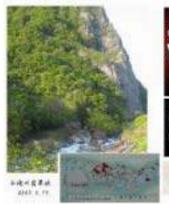
糸魚川海岸

小滝川ヒスイ峡

姫川と妙高・頚城山塊 2005.5.17.

是非行きたかった糸魚川・青梅のヒスイ峡 縄文 日本海沿岸交易圏の最大の交易品「翡翠」

その原産地 糸魚川・青海の V 字渓谷に眠る翡翠の原石を見てきました この越後の海岸段丘には素晴らしい渦巻き紋様の平底土器の文化が同時にありました そして親不知・ヒスイ海岸の海と早春の妙高・後立山連峰の姿 どれもこれも絵になるすばらしい景色











青海 橋立ヒスイ峡







小滝川ヒスイ峡







翡翠原石が流れ着く海岸 ヒスイ海岸







富山県 境 A 遺跡

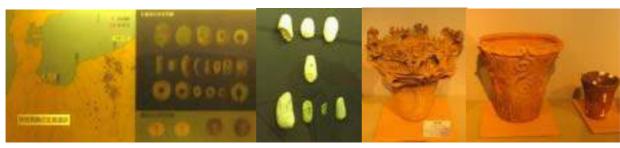
新潟県青海 親不知ヒスイ海岸 新潟県糸魚川 姫川河口より親不知の海岸線

ヒスイ工房を持つ縄文の大集落【1】 長者が原遺跡









ヒスイ工房を持つ縄文の大集落【2】 境 A 縄文遺跡 2005.5.17.







境 A 遺跡から出土した重要文化財 平底渦巻き紋様の縄文土器 富山県文化財センター



【写真アルバム】縄文の海を渡って 各地に運ばれた「翡翠」

翡翠の大原産地 糸魚川 小滝川・青海川のヒスイ峡を訪ねて 2005.5.17-18.



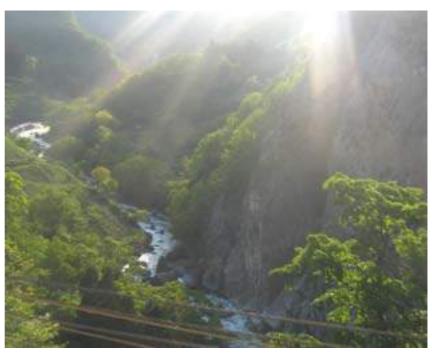






日本の大地溝帯「ホッサマグナ」が太 平洋から日本海へ伸び、日本列島を東 西に分けて、日本海に落ちこむ。青海・ 糸魚川地区は日本の屋根を形成したそ の大地殻変動帯の北の端にあたる。こ こでは地溝帯に沿って流れる姫川とそ の西側の壁となって北アルプス後立山 連峰がそびえ、日本海に落ち込んでい る。

この青梅・糸魚川周辺の後立山連峰から姫川に流れ込む青海川や小滝川は深いと字の峡谷を形成し、この谷には地殻の奥底の大地殻変動で形成された「翡翠」が顔を出す翡翠の大原産地青海川「橋立ヒスイ峡」小滝川「小滝川ヒスイ峡」。 そして 川で砕かれ、磨かれたヒスイの原石は 姫川河口周



ヒスイ峡へいたる小滝川の深い V 字谷 2005.5.17.

辺の日本海海岸「親不知・ヒスイ海岸」にも顔を出す。

この「ヒスイの美しさ」は今も太古の昔も変わらず、日本では「玉」と呼ばれて宝石として珍重され、縄文の時代から日本海の海の荒波を越えてやってきた人たちによって、日本各地はては朝鮮半島???までも運ばれて行く。

縄文のロマンを乗せ、さらに弥生・古墳・飛鳥・奈良へと時代を越えて 受け継がれ、現代にいたる。

青海地域の ヒスイは、 大洋底にあ ったアルビ タイトや変





斑レイ岩岩・変玄武岩などが、大陸プレートの縁で地下の高い圧力の下で、蛇紋岩に貫入、取り込まれた後、 ナトリウムやカリウムに富んだ溶液と反応して、ヒスイに変化したと考えられます。

この「ヒスイ」がおよそ2億3千万年前、大地殻変動を受けて「ヒスイ」や変成岩を取り込んだ蛇紋岩が大 地溝帯の表面にあがってきたと考えられている。

注 アルビタイト 半変成岩 地球マントルの上辺部で橄欖岩が風化変成して出来た蛇紋岩類に 密接に伴って産出する長石質岩であり、石英と長石の比率は3:7程度である。 長石は曹長石を主とする。

私がこの「翡翠」を意識したのは、三内丸山縄文遺跡で出土した「翡翠の大珠」をひょつと手に持たせてもらって、唇にちょと触れた時から。日本海の荒波を越えて 遠く越の国からやってきたと聞く。

そのなんともいえぬ緑の穏やかな色合いの変化とひんやりとした手触りに感激。

そして、この日本の宝石といえるこの「翡翠」の「玉」がその後の日本誕生の過程で常に絆の象徴として珍重されてゆく。そんな「翡翠」を一手に供給してきた原産地が糸魚川・青海地区の深い V 字の谷。

でも、この翡翠は遠く大陸から運ばれてきたと長く信じられ、原産地が日本の国内 糸魚川地区とわかったのはほんの 100 年程前の事。

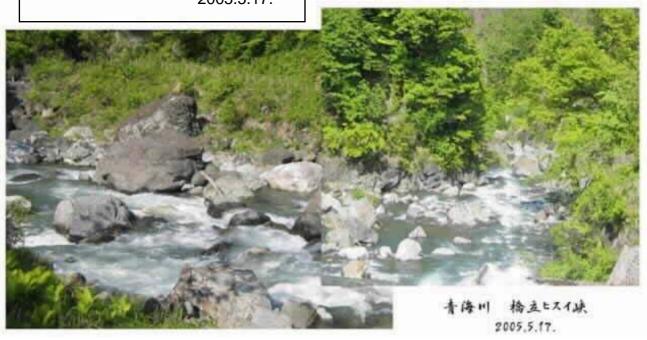
今も本当に神秘的な色合いの変化にふさわしい謎とロマンを秘めた宝石である。





小滝川 ヒスイ峡 2005.5.17.

参考 翡翠峡 Walk 写真アルバム 2005.5.17.





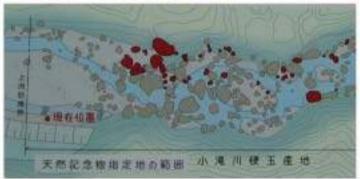






青海川 橋立ヒスイ峡 2005.5.17.

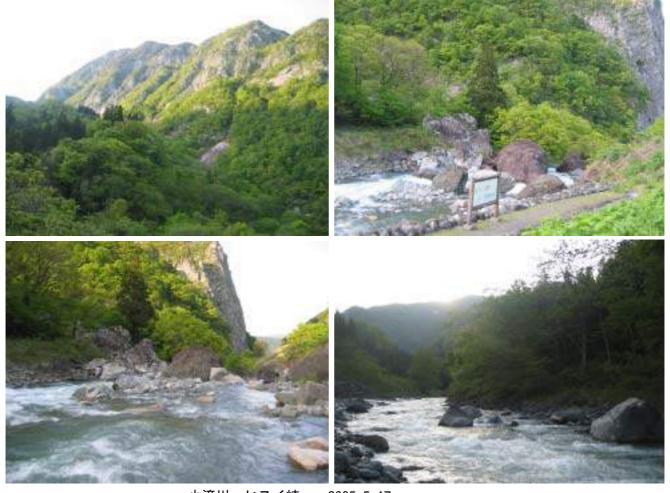




小滝川ヒスイ峡

2005.5.17.





小滝川 ヒスイ峡 2005.5.17.











親不知 ヒスイ海岸

ヒスイふるさと館で 日本最大のヒスイ原石など

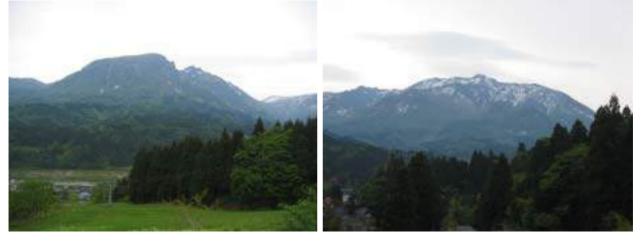
2005.5.17.



北アルプス 立山・剣連峰 富山 - 親不知車窓より



妙高火山群 頚城三山「焼山」 駒ケ岳・雨飾山 糸魚川 姫川の土手より



駒ケ岳 & 雨飾山 根知渓谷 山口 シーサイドバレースキー場より



ヒスイ原産地に近いヒスイ加工工房を持つ縄文集落 長者ケ原 縄文遺跡 2005.5.18. 糸魚川市









▲ ヒスイの玉を作る







(青森県三内丸山遺跡) ▲ 多量に出土したヒスイ大味



(茨城県坪井上遺跡)



▲ 磨製石斧を作る





2005.5.17.



境 A 縄文遺跡

北陸自動車道現「境パーキングエリア」の 地より、ヒスイ工房を伴う縄文遺跡が出土 素晴らしい縄文遺跡の数々が出土 富山県埋蔵文化財センターの

「土器 土器 土器」展でそれらをみるこ とが出来た

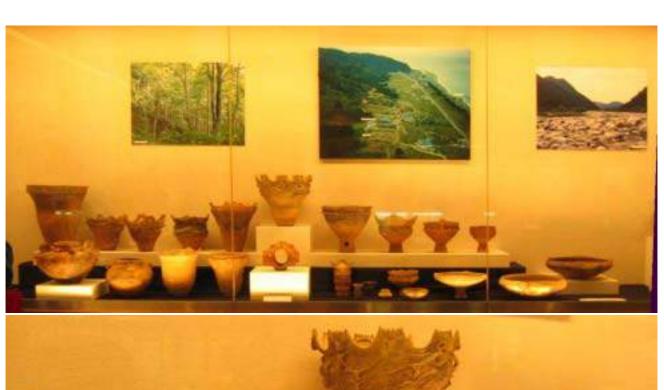
2005.5.18.







富山県埋蔵文化財センター「土器 土器 土器」展で 2005.5.18.









富山県朝日町 不動堂縄文遺跡 復元された縄文の竪穴式大型住宅 2005.5.18. 背後に朝日・白馬岳が顔を見せていた



帰りに立寄った白川郷 荻町 合掌造り集落 2005.5.18.

中国道 広島県吉和 緑の高原に世界の名品が揃うウッドワン美術館 話題となったルノワールの名画 2 点の搬入を見る





中国道 緑の中国山地 広島県吉和 IC ウッドワン美術館 2005.6.15.



6月初頭 TV が絵画のオークションでルノワールの婦人像2点が3 億1千万円で落札されたことを伝えている。

広島の建材メーカーの美術館 ウッドワン美術館。

以前にもゴッホの「農婦」を落札。洋画・日本画の大コレクション を有している。そして 家内が見たがっているアールデコ「ガレの ガラス工芸」のコレクションも素晴らしい。

家内が TV を見ていて是非一度行きたいという。

「山口へ行く時に 中国道で行ったら すぐや」と俄然その気にな って、6月15日朝 山口美祢への途中で立ち寄ってきました。

それも 思いがけず 6月初頭東京のオークションで落札されたルノワールの絵の搬入に出合え、搬入・荷 解きから仮展示をもう眼をこらしてみてきました。もう二度とこんなことないでしょう。

ほんとビックリ。また 緑の中に建つ美術館 ほんとうにゆったりお茶しながらの名品鑑賞でした。

中国道 吉和 2005.6.15. ウッドワン美術館で



ルノワール 婦人習作と花かごを持つ女























ウッドワン美術館 パンフレットより 世界の名品

上段 ゴッホ「農婦」岸田劉生「麗子像」中島千波「桜」

下段 ガレ&ドーム兄弟のガラス工芸品

神戸から山陽自動車道を3時間ちょっとで広島。いつもは宮島の方へ行くが、広島 IC から北へ中国道に向か

って山の中に入って行く。トンネルを抜け、15分ほど山また山の中で中国道と合流する。東へ行くと千代田ICであるが、西へ山口方面へ。 中国山地の奥深い山中 緑の中 ほとんど交通量がなく、緑を独り占めの感じで目的の吉和ICへ向かう。

戸河内・加計 IC の標識が見える。 このあたりは 広島の太田川の源流近く芸北の最高峰恐羅漢山や冠山の聳える中国山地有数のたら製鉄地帯で緑の山間を縫って道がつづく。広島から 30 分ほどで吉和 IC。 IC の北側に頂上付近からゲレンデが広がる大きななだらかな山が見え、その麓の緑の中に吉和の集落が埋もれていて、車も人影もほとんどなし。

こんな山中に美術館と思うが、材木の集 散地 昔この吉和近隣の山から大量の木が 切り出され、加計・戸河内のたたらに使わ れたという。多分 建材会社ウツドワンの 古里なのだろう。

高原別荘の街 吉和の PR 看板に混じって ウツドワン美術館の標識が北の大きな山の スロープを示す。

女鹿平山というそうであるが、この山のスロープの一角にスキー場・温泉・リゾートホテルと共にウツドワン美術館がありました。



正面には樹齢 1000 年を越えるとてつもなく大きなオーストラリアの樹木の切り株が置かれ、建物がすべて緑の中に埋もれ、人が居ないせいもあって 落ち着いた自然の中 ぽけっと一日山を眺めていたい場所でした。







女鹿平高原とウッドワン美術館

2005.6.15.

美術館には平日であったこともあって、ほんの数人。

びっくりしたのですが、すごい名画が沢山あり、広々とした空間に展示され、名画の前にすわって鑑賞できるようになっていました。

別棟にはガレのガラス工芸品・マイセンの陶芸品が集められ、こっちも素晴らしい。

家内はガレのガラス工芸とゴッホそして中島千波の絵に 私は数々の明治の洋画と日本画にもう満足。





ウッドワン美術館 パンフレットより 世界の名品 (詳細は http://www.woodone-museum.jp/home.html でどうぞ)



ルノワール「婦人習作」と 「籠を持つ女」

(写真はインターネツトより採取)

入口にさりげなく、今日 東京で落札したルノワールの婦人像 2 点(「婦人習作」と「籠を持つ女」)が到着。4 時には公開できるとの張り紙。

名品の搬入に出会えるなんてまたとないチャンス。それも この場にいるのは 多くても 10 人たらず。

隣のレストランで遅い昼食とお茶をしながら待つ。

四時少し前に品川ナンバーのワゴン車が来て、細長い箱が2個運び込まれる。 あっけないほど静かに美術館に搬入され、2階の廊下の奥の狭い部屋の壁に2 枚の絵が立てかけられ、「随時 見ても良い」という。

「ええ もう いいの・・・」という感じで 一番先に絵の前へ。

「ルノワールのあの明るい光の「婦人のほっぺ」がこの絵では少し暗いなあ 習作やからか・・・」と思っていると「壁に立て掛けただけで、光線の当て方 など調整していないので、ちょっと印象ちがうでしょう」という。

「なるほど なるぼど」である。

本当に無造作というほどあっけなく壁に立て掛けられた名画何の演出もない名 画を見られるとは二度とないだろう。

その場に居たのは約10名ほど かわるがわる黙って絵にみいる。

「立て掛けられた絵の証拠写真撮っといたら良かった」と思う気持とゆったりと生の名品を我が物で見られた満足の気分と半々。こんな機会許してくれた美術館 素晴らしいですね。

絵を待つ間 周りを散歩していると温泉の泉源に「この女 鹿平温泉は奈良時代 8 世紀初めからの温泉で、直ぐ下の お社にこの湯を出したと伝えられる大己貴命 (大国主命) が祭られている」との案内板。

「やっぱり ここは古代の製鉄地帯の一角では・・・・」と。

鉄とのかかわりにもうれしくなってしまいました。

緑一杯の山を眺めながら いろんな世界の名品を鑑賞できた喜びをもう一度かみしめ、中国道を山口へ



ちょっと遠く不便なところですが、一日かけて行くにたる素晴らしい美術館でした。

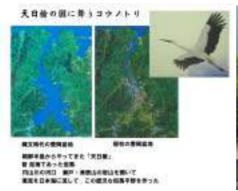
2005.6.15. Mutsu Nakanishi

但馬 Country Walk アルバム

但馬 天日槍の国とコウノトリ 2005.6.23.

大陸から幸せ運ぶ「コウノトリ」と「鉄の技術を持ってやってきた天日槍」

2005.7.10. by Mutsu Nakanishi







兵庫県北部 但馬

城下町 出石

天日槍を祭る但馬一宮 出石神社がある

2005.6.23.

6月23日 古代史の仲間に誘われて、兵庫県北部日本海側 街中を大河円山側流れ下る豊岡 「天日槍の国 但 馬」へバスツアー。

出石そば食べて、「伝説の天日槍の国」 を訪ねて そして コウノトリを見るという企画。 父の国が丹後なので、よく知っている場所であるが、長いこと歩いてないのと「出石そば」「天日槍」「コウノトリ」 この3つを同時に歩ける魅力に引かれて出かけました。

先日も「6月の最高気温 35度超 の記録」を出した「暑い暑い」豊岡である。

絶滅した「コウノトリ」を飼育して増やして現在100羽を超え 今年の秋から自然に帰すとてつもない延々のプロジェクトを進めている。

今 ヒョンなことから、一羽野生のコウノトリが大陸からやってきて一緒に住み着いているという。

「天日槍」は記紀や播磨風土記に登場する「朝鮮半島 新羅から日本にやってきた伝説のひと」 幸せを運ぶコウノトリと日本に鉄の技術を持ってきた天日槍が頭の中で一つになっています。







絶滅したコウノトリの繁殖に取組む豊岡コウノトリ公園

フェン現象でもないのに何で日本海の豊岡がそんなに暑いんや・・・・?? と不思議でしたが、今回豊岡へ行って その謎とけました。 それも 土地の人によれば、「天日槍」伝説に関係して・・・・・

「天日槍の伝説のあるところ鉄・金属加工の産地あり」で私の頭の中では隣国播磨風土記に書かれた「産鉄の神」 どうやら この天日槍がやってきたのは3世紀卑弥呼の時代に近いらしい。

その天日槍の本拠地が豊岡盆地の南端にあたるのが出石である。

出石の街は「出石そば」の一大テーマパークにすっかり変身 一大観光地。

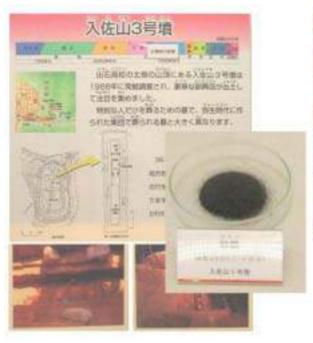
その町のはずれに天日槍を祭る出石神社があり、資料館には 4世紀出石の丘の古墳から出土した「砂鉄」が展示

されていました。もう ビックリです。

製鉄が日本で始まったとされる5世紀半ばの100年も前の4世紀「砂鉄」が「鉄」として古墳に副葬されている。 本当ですか・・・・と思わず聞いていました。

「天日槍の国」に4世紀「砂鉄」があった。しかも すぐ隣の丹後国では日本で最も古い製鉄地 t(遠所遺跡)で他国から持って来たと思われる「謎の砂鉄」で製鉄を始めている。

日本の鉄のルーツにつながる面白い話の展開。これはもう一度ゆっくり訪れて そして 天日槍が歩いたとされる 播磨・近江・若狭をも含め、しらぺねばと思っている。 益々 プレたたらが面白くなってきました。







縄文時代の豊岡盆地

現在の豊岡盆地

朝鮮半島からやってきた「天日檎」

昔 泥海であった但馬

円山川の河口 瀬戸・津居山の岩山を開いて

濁流を日本海に流して この肥沃な但馬平野を作った

冒頭の豊岡がなぜ暑いのか・・・

地図をよく開いてみれば判るのですが、豊岡は円山川河口と思っていたのですが、違うのです。円山川の河口に近い盆地であつたというのが答え。縄文の海進の時代には奥へ深く入った海だったという。

そんな大昔 南から円山川が流れ込む泥海であつた豊岡盆地。朝鮮半島からやってきた天日槍が河口近くの瀬戸と津居山の間の岩山を取り去り、濁流を日本海に流し落して、この肥沃な豊岡盆地(平野)を作ったという。

このため 豊岡・出石では この肥沃な地 但馬を開いた開拓の神として 土地に根付いている。

鉄 たたら といってもほとんど判らない。でも 鉄の国である伯耆・播磨・丹後と接し、この但馬に流れ込む川からは円山川を含め、砂鉄が多く取れたとも伝わっている。

また、人工繁殖させているコウノトリの公園も見てきました。

そら飛ぶコウノトリ想像したのですが、羽を切って園の中。 今は自然への放鳥にそなえて 特訓中とか。

えさとなるドジョウなどが住む田圃・池など周囲の環境整備がやっと整ってきて 今年秋 試験放鳥。 羽は切っても2ヶ月ではえそろい空へ飛べるそうです。 その日が待ち遠しい。



大陸から幸せ運ぶ「コウノトリ」と「鉄の技術を持ってやってきた天日槍」が重なって 好きな歌 小林旭「熱き心に」の「大空の 旅の空 夢追いびと いずこ ・・・・・」のイメージが膨らんで いました。

[参考] 写真アルバム 天日槍の里 但馬(出石・豊岡・日高) 205.6.23.

古代朝鮮半島からやって来て 但馬・播磨・近江・若狭などに鉄の足跡を残した「天日槍」。但馬では湖であった豊岡の日本海出口を開いて平野を造った伝説の開拓神として深く郷に根付いていました



「出石城」と但馬国一宮「出石神社」







出石城下と辰鼓櫓と出石城からの出石の町並

2005.6.23.





祭神 天日槍命

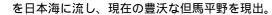


但馬国一宮 出



古事記、日本書紀によれば、天日槍は新羅の王子だったという。彼は赤い玉の化身として日本から来た女性と結婚したが、ある時、夫婦喧嘩の果てにこの女性は日本へ帰ってしまう。彼女を忘れられない天日槍は七種(書紀)とも八種(古事記)とも言われる神宝とともに、日本へ渡り、妻の故郷難波に向かうが、海の神に妨害されて果たせず、結局、但馬で土地の娘を娶り農耕を伝えて、但馬の開拓神として崇められる。

天日槍命は泥海であった但馬を円山川河口の瀬戸・津居山の間の岩山を開いて濁流



円山川の治水に、また殖産興業に功績を遺された神として尊崇を集めている。

出石古代学習館 2005.6.23. 袴狭遺跡ほか古墳時代の展示

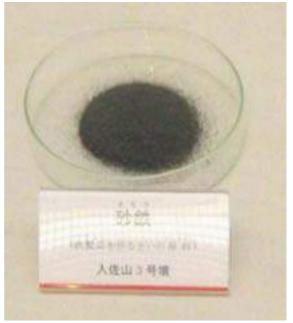
古墳時代4世紀後半の古墳から副葬「砂鉄」この時期 もう砂鉄は鉄として意識されていたのか???











古墳時代4世紀後半の古墳から副葬「砂鉄」





天日槍 伝 承

天日槍命は、新羅国王の王子であり、日本に渡来されたとし、その事蹟は記紀のほか『播磨国風土記』『筑前国風土記』逸文等にうかがうことができます。

天日槍命のご子孫には、田道間守命 (たじまのもりのみこと)や、神功皇后がいる。

出石神社社伝の『一宮縁起』には、谿羽道主命と多遅麻比那良岐と相謀り、天日槍命を祀ったと伝え、諸書によると遅くとも八世紀のはじめ頃にはすでにこの地で祭祀がおこなわれていたことがうかがわれる。

天日槍命は泥海であった但馬を、丸山川河口の瀬戸・津居山の間の岩山を開いて濁流を日本海に流し、現在の豊 沃な但馬平野を現出され、円山川の治水に、また殖産興業に功績を遺された神として尊崇を集めている。また、 鉄の文化を大陸から持って来られた神ともいわれている。

出石神社由緒より

古事記、

新羅の王子であった天日槍は赤い玉の化身として日本から来た女性と結婚したが、だんだん高慢になった王子が妻をののしるようになり、この女性はこつそり日本へ帰ってしまう。彼女を忘れられない天日槍は海を渡って、妻の故郷難波に向かうが、海の神に妨害されて果たせず、迂回して但馬国に停泊。結局、但馬の地の娘を娶った。 天日槍が持ってきた神宝を玉津宝といい、八種であった

日本書紀

新羅の王子天日槍が7種の神宝を持って日本にやってきて、但馬国におさめた。

初め天日槍は舟に乗り播磨国にやってきて穴栗邑にいた。

天皇に「お前は誰か 何処の国の人か」と尋ねられ、「新羅の王子です 日本に聖王がおられると聞いて国を弟に譲り、やってきました」と答え、天皇から「播磨国の穴栗邑と淡路島の出浅邑の二つに自由に住むように」といわれた。

「自分の住む所は許してもらえるなら、諸国を巡り歩いて 自分で選びたい」と許しを貰う。

そして 宇治川を遡って 近江の国 次に若狭を経て但馬国に居を定め、土地の娘を娶る。

そして、曾孫が田道間守である。

播磨風土記

大国主命はここでは別名の葦原志許男 (あしはらしこお)命として登場する。

御方の里

天日槍と葦原志許男は、勝負がつかないので、山の上から三本の矢を射て、落ちた所を支配地にしようということになった。

天日槍の矢はすべて但馬に落ち、葦原志許男の矢は、養父郡と気多郡に落ちた。

そこで、天日槍は但馬の出石を本拠とし、葦原志許男は養父神社と気多神社に大己貴命(おおなむちのみこと) として祀られたという。

このほか、播磨風土記には天日槍が数多くの里の項に登場する。いずれも鉄と関係深い里である。

【揖保の里 奪谷 伊奈加川 波賀の村 糠岡 の 項など】

「筑前国風土記 挽文」「古語拾遺」にも記述がある

御菓子の祖 田道間守(天日槍の曾孫) の 中嶋神社

常世の国から橘の実を持ち帰ったとされる田道間守命をお菓子の神様として祀る神社。

本殿は二間社流造という建物構造で国の重要文化財に指定され、室町中期の特色をよく示している。正長元年(1428) に再建された建物です。 側面から見た造りが、後ろが短く、前に長くなった「流造」の技法です。













岡市コウノトリの郷公園

平成 17 年自然放鳥を目指して訓練とともコウノトリの食 一日ドジョウ 60 匹 餌確保の環境作りが続いている















但馬国府

但馬国府は延暦23年(西暦804年)に気多郡高田郷に遷したことが『日本 後紀』によってわかっています。遷された原因や、どこから遷したのかについ ては記述がないためわかりませんが、移転後の国府の所在については、博物館 に隣接する祢布ケ森遺跡(にょうがもりいせき)であると考えられます。

その理由は、塀で囲まれた中に大きな建物群が規則性を持って配置されてい たこと、高級な食器である青磁や白磁、三彩などの他、但馬の各郡の役所で作 成されたと思われる戸籍や税に関する木簡も見つかったことによります。



但馬国分寺跡 但馬国府 祢布ケ森遺跡

天平13年(西暦741年) 聖武天皇は国家の安寧を願って諸国に国分寺(国分僧寺と国分 尼寺)の建立の詔(みことのり)を出しました。国分寺建立の詔を受けて、諸国に派遣され た国司が中心になって建設を進めました。但馬国分寺(僧寺)は豊岡市日高町国分寺に、国 分尼寺は同市日高町水上から山本にかけて地域に造られました。

但馬国分寺跡は、昭和48年(1973年)から発掘調査を開始、金堂、塔、中門、回廊な どの主要伽藍と東南隅を区画する築地跡、井戸などの跡も見つかりました。金堂の中心線と 東南隅の築地跡からお寺の範囲はおそよ160m四方であったと考えられます。 但馬国分寺



跡からは、国分寺では全国ではじめて木簡が見つかり、8世紀の但馬国分寺の様子がわかりました。











国府跡 塔礎石 金堂基壇礎石など











国分寺跡の井戸

国府跡の井戸

全国に作られた国分寺



「風の盆 アルバム」 越中八尾「風の盆」を訪ねて

2005.9.2.夜 富山県 越中八尾 by mutsu Nakanishi







町並みを吹き抜ける二百十日の大風をおさめ、 五穀豊穣と永世の繁栄を祈るため、 叙情豊かに、気品高く 唱い踊り継がれる 風の盆



毎年、お盆が過ぎ、台風のニュースが聞かれるようになると「越中おわら 風の盆」 夜明かしで静かに踊る風の盆 哀調をおびて静かに流れる胡弓の音とおわらの節をゆっくり聞きたくて 9月2日越中八尾で夜明かししました。 そのアルバムです なにを言っているのか良く判らないが、その節回しと哀調をおびた胡弓の音にひきつけられたのが、「越中オワラ節」との最初の出会い。

そして、高橋治氏の小説「風の盆恋歌」を読んで 益々増幅。

毎年9月1日から3日間越中八尾の街の辻々でこの「おわら」が唄い踊られ続けられ、その深夜 ひっそり 静まり返った街に流して歩く下駄の音と共に胡弓に載せた「おわら」がまるで 時間が止まったように静か に流れて行く。

話の筋よりもそんなイメージに魅せられ、9月1日には是非 越中八尾へ・・・・と。

そして、4.5年前に一度家内とでかけ、その雰囲気の素晴らしさに魅了されました。

でももうその時にも人が街にあふれていて、残念ながらイメージした静かな「おわら」は味わえず。

街では朝まで、辻々で静かに踊り継ぎ 流して歩くと聞いたのですが、街に未練を残しながら帰りました。 夜中八尾の駐車場に帰る暗い道すがら、遠くから聞こえてくる「おわら」に耳をそばだて、次は八尾で夜明 かししようと・・・・

「越中八尾」は富山を流れる神通川に沿って高山線を南へ 田園の中を約20分 飛騨の山群に分け入る所にあるひっそりと静かな街。

八尾の駅から福島の家並 みを抜け、井田川を渡る と旧八尾の町並み。

まっすぐ奥に伸びる細い

坂道と脇そして路地。そこに古ぼけた家並 みがぎっしりと立ち並び、「風の盆」の時を のぞいては喧騒のない田舎の落ち着いた街 である。

飛騨の山裾の一角 神通川に流れ込む支流 井田川の標高 100 メートル前後の河岸段丘 に位置し、北東から南西に上り坂が続く。 浄土真宗の古刹・聞名寺の門前町として成 立し、藩政時代から地場産の蚕種や和紙の 取引を中心に商人町として栄えた。そして、





10 町内に分かれ、各町内におわら保存会の支部があり、現在では川向こうにあたる福島にも支部があるという。

2005年9.2. 久しぶりに「風の盆」にでかける。

どんよりとした晴れ 今年は湿気が多いのか 立山連峰も全く見えず、蒸し暑い。

昼過ぎに富山の駅に着くと「越中八尾」行の臨時列車がピストン運転並に出ており、乗車する列車の整理券を配っている。駅はごった返し、「おわら」のメロディーが流れ、スピーカーの案内がひつきりなしに流れている。富山で「風の盆」があるのではなく、また まだ 昼なのにすごい。

八尾で「風の盆」町流しが始まるのは7時 八尾から富山へ帰る臨時の最終が11時過ぎと聞く。 以前にも増して八尾の街は観光客であふれ、深夜でないと静かな「風の盆」は味わえそうにない。 どうせ夜明かし夜遅く八尾へ・・・・・と。 魚津の埋没林や「発掘された日本列島 2005」展をやっている富山埋蔵文化財センターに行って、7 時過ぎに満員の臨時列車に乗り、薄暗くなった八尾駅に降り立つ。

駅から八尾の街に至る道筋には ぎっしり、屋台が立ち並び、人 の並がつづく。 井田川の橋を 渡ると奥へと延びる坂道の両側 に家並みが続く八尾の街。益々 人並みが多くなって、もう お 祭りの雑踏を神社へ上って行く 感じ。とても 街流しの踊りの 列が動けるとは思えない。





以前 来た時には 一番奥の広場に舞台が組まれ、舞台での出演が済んだ組から町流しが始まっていたので、 とにかくそのあたりまで・・・・と。

1. 聞名寺 風の盆

坂道の続く街の中心部の左手に「聞名寺」があり、大きな本 堂を舞台にして「聞名寺 風の盆」が始まる所。

「風の盆」と書かれた提灯が左右に掲げられ、まず 念仏と 仏様のライハイがあって、胡弓の音と越中おわら節の囃子に 乗って 淡い光の中で、静かに踊りが始まった。

「越中で立山 加賀では白山 駿河の富士山 三国一だよ 歌われよ~ わしゃ囃す~ 」 久しぶりの「おわら節」に聞き惚れる。



幕開けにはぴったりのこんな「風の盆」が催されていたとは まったく知りませんでしたかが、「仏壇の上での庶民的な舞い」といった感じで、街流しの「風の盆」とは又違ったあじわい。



薄暗い本堂の正面で無言で踊る人 を通して 背後のご本尊が見え、 哀調を奏でる胡弓と唄の節回しが 時空を止める。

「八尾はもともとこの聞名寺の門 前町。寺の信者によって念仏踊り が踊られた。それが、「風の盆 越 中おわら」踊りのルーツの一つ」 と浴衣姿で眺めていた隣の御仁が 教えてくれる。

あっというまに、周囲は人でぎっ しりになりました。

おわらの歴史

おわらの歴史は古く、元禄のころ。

生活の中から見いだした喜びを面白おかしく表現しながら、町を練り歩いたことが町流しの始まりという。しかしその多くの表現は、当時の庶民生活の実態をそのまま露骨に唄ったものだったため「このままでは伝えるより先に滅んでしまう」。 そう感じた芸達者な人々は、歌詞を改め、新しい詞の間に「おおわらい (大笑い)」の言葉を挟んで踊った。これが、おわらの語源といわれる。

また一説によれば、農作物の収穫の時期に豊年を祈り、おおわら(大藁)とも。

かつて風の盆は、お盆の8月中旬に行われていたらしいが、当時暦の主流だった太陰暦から、太陽暦へ統一されたことを 機会に、旧暦のお盆にあたる9月初旬に改められたといわれている。

越中八尾観光協会「越中八尾 風の盆」ホームページより

http://www.city.toyama.toyama.jp/yatsuo/nourin/owara/

「おわら」が「おお笑い」からきていると聞くとあの独特の笠・男踊りのメリハリついたポーズ そして、無数にある歌詞 かえうたもどきの面白さなど実に楽しい。

ほかの民謡にもそんな傾向がある。

そういえば、青森の「ねぶた」も 「暑い「ねむい」夏」がルーツとか.......

風の盆も 「街を流す静かな踊りだけでは 若い人はついてゆかないだろうなあ・・・・」と思っていたのですが、劇場・舞台用の華やかなポース[®] をつけた男女組みの踊りがあって、若い人が中心に朝まで神社や特設舞台で自由に踊っていました。

この哀調を帯びた静かな型の踊りの中に自由奔放にポーズを付けて踊る仲間の面白さ 隠れた中にある自由奔放さが若い人をひきつけるのかも知れない。

それはまた、「風の盆」の良さに吸い寄せられて見物する我々にもあるのかもしれません。



2. 町流し・輪踊り

30分程聞名寺の風の盆を見て 街の通りをさらに登る。もう 人・人・人。

また 家並みに沿って夜店が並ぶ。祭りの雑踏を歩いているようなもの。

もうとっっくに「町流し」が始まっていないといけないのに・・・・・。

あっちの路地 こっちの路地と貰った地図にある踊り場のある各町を巡るが踊りに行き当たらない。



やっと西町周辺で街流しの踊りが始まった。でも あふれる人並みをかき分けての「街流し」である。 ざわついているが、ぼんぼりが立ち並ぶ通りをおわらの囃子に合わせて 笠で顔を隠した女踊りの一団が優雅な手さばきを見せ、男踊りがポーズを決めながら進んで行く。 耳には心地よい三味線と胡弓とおわらの節。 こんな雑踏の中でと思うのですが、見ている人と踊り手が一体になっている。頭の入らぬアングルで写真をとろうとするのですが、ダメ。 先回りして 先頭から・・・と人を掻き分けるのですが、ダメ。 本当に雑踏の中の街流し。

ひとしきり 踊りが進んでストップすると我に帰って拍手が起こる。人並で前へ進まなくなったらしい。 ほかの町でも街流しが始まっていると路地を巡ってゆくのですが、いっこうに出会えず。 どうやら余りの人並みに各町の街を巡る街流しが進まず、それぞれの街の踊り場での踊りに切り替わったようだとの声えが聞こえてくる。

前回来た時には 家の前に床几を出して、そこで気楽に胡弓を引いたり、街角で小さな輪になって踊っている人たちがいたりで、それを取り囲んで じっくり聞くという風情だったのですが、人並みにもう消されてしまった様である。

街角の踊り場のあちこちで少人数の踊りの輪が出来、おおぜいの人がそれを取り囲んでいる。

また、西新町では長い通りいっぱいに一つの輪になって、観光客も輪の中に入っての踊りが始まった。 衣装の揃った一団の踊りを見るのとはまた違った街の取り組みである。

でも、やっぱり、おわらの囃子にあわせて揃った衣装をつけて、整然と踊る姿がやっぱり美しい。整然とそろって 街を流してゆく姿を見たいと思うのですが、中々出会えず。

八尾では各町それぞれで、その街の踊りを取り仕切っているので、どんな場所でどんな風に踊るのか その 場に言ってみないと判らないという。





通りいっぱいに町の人も観光客もみんな一つの輪になって踊る西新町で

3. 町流し 諏訪町・東町で

石畳の道の両側にうだ つのある家並みが整然 と建ち並ぶ八尾の観光 スポツト 諏訪本町に やってきた。

道の両側に並ぶぼんぼ りが坂道の奥まで続く 家並みを一層美しいも のとしている。





諏訪本町の家並み

2005.9.2. 夜

やつぱり、人でごった返していて、両側の道には諏訪本町の「街流し」を見ようと座って待っている人たちが並んでいる。

「もう、1 時間半以上待っているが、まだ街流しが始まらない。この街で見るのが一番素晴らしいと聞いてずっとここで待っている。 バスの集合まであと1時間 何とかみれないか・・」と。

私も隙間に入れてもらって、話をしながら 30 分程休憩して待つが、始まらない。町の入り口の方でお囃子がかすかに聞こえるのですが、近づいて来ない。

10 時をまわって、人並みも落ち着いてきたようである。様子を見るのも兼ねてまた、街の中を歩く。

鏡町の階段のところにも、沢山の人が座って踊りの始まるのを待っている。諏訪町に戻る途中で 踊りに参加する若い女の子に「諏訪町の街流し この辺まで来ますか・・・・」と聞くと「遅れて参加するので、様子は良く判らないが、入り口のあたりだけで、奥まで来れないだろう。」という。町筋の奥でずっと座って待っている人たちに声をかけたほうが良いのか??? 迷うところ。昨日は奥まで「町流し」があったという。



諏訪神社での諏訪町の踊り

諏訪神社のところに もどると境内の踊り 場での踊りが丁度終 わるところで、隊列 を整えた諏訪町の街 流しが始まり、坂を 踊りながら登ってゆ く。

随分 人の数が減って まじかでやっと 街流しを見られた。



諏訪町から少し坂を下ったところで、東町へ帰る東町の街流しにも出会う。



4. 街流しを終えて 深夜 街で 自由に

午前1時をまわると八尾の街の交通規制が解かれて 自動車が入るので、通りでの街流しや輪踊りも一旦終わるという。もう 夜店も閉まってあれだけ多かった人並も少なくなって、さすがに坂を下る人が多くなるが、まだ、これからと坂を登ってゆく人も多い。12時をまわって、踊っていた人や囃子方も一区切りなのか、挨拶が交わされ、積所や家に休みを取りに行く。

さすがに歩きつかれて、川原か駅に一度戻ろうと静かになった街をきょろきょろ眺めながら坂を下る。 今町では通りを舞台にして 若い踊り手が待ち流しとは違った舞台型の少人数の踊りを披露している。 街流しでは一瞬ストップのポーズをとって踊るのは男踊りであるが、女踊りでもポーズをとって 本当に優 雅に踊っている。観客は街の人中心になった気軽さもあるのか、すげがさも脱いで、自由に仲間の踊りを楽 しんでいる。 囃子方のおわらも静かな街に一層良く響く。

路地の端に腰をおろして、眼を閉じて耳をそばだてる。あのおわら節独特の哀調を帯びた節まわしが本当に 心地よい。踊り手の優雅な手さばきにもついつい見とれてしまう。



下新町の坂を車がどんどん上がってくる。もう ひとしきりは街では流せない。でも それぞれの町では路地の角や神社の境内などで朝まで踊り継ぐと聞く。



下新町の八幡様にはお囃子方が大勢集まり、また 若者を中心に踊り手も集まって、おわらの踊りがはじまった。 街流しの大勢の人の揃った踊りとは別の若者らしい感情がそのまま胡弓の音に乗って、薄暗い境内の舞台にぼっと浮かび上がって美しい。

おわらに乗った踊り手のひとつひとつのしぐさの美しさがたまらない。

おわらがもともと芸者衆の唄踊りの即興的な組み合わせから始まったと聞くが、その「やらしさ」が取り除かれて、実に優美な踊りに見える。踊り手の若者が活き活きして 踊りを楽しんでいるのが判る。

もう 自己陶酔の世界のように見えて、うらやましい。



井田川の橋より、深夜の八尾の街 坂道のぼんぼりが美しい

午前2時前 さすがに疲れて、八尾駅へ行けば 夜明かしできるだろうと橋のたもとまで戻る。 めっきり人通りも少なくなって ぼんやりとしたヤマノシルエツトを背景に点々とぼんぼりのあかりが坂道 を登っている。もう 福島の街はひっそりして誰も通っていない。

駅の中では、大勢が仮眠をすでにとっていて、暑苦しい。駅の外の方がまし。

駅前の駅舎の横で足をのばして、うつらうつらしていると、大きな声で唄を歌いながら若者達が駅前を走り抜けて行く。 15 分ほど置いて また別の集団が走り抜けていく。この街の若者達が自分達の風の盆やつて、エネルギーを発散している。 やっぱり川渡らんと自由にでけへんのかなあ。。。。 などと納得。

しばらくすると北の方からかすかにおわらのメロディが聞こえてくる。

起き上がって、駅の直ぐ北の特設舞台の処にゆくと、30名ほどの若者達が中心に深夜の風の盆を楽しんでいる。舞台の前では寝転んだり、すわったり、思い思いのスタイルで夜明かしする人たちが、一緒にこのおわらを楽しんでいる。



さっきはどうも、八尾の街に町流しに行っていた若者が走って、この舞台に帰ってきたようだ。 お酒もだいぶ入って、おわらの囃子に舞台に上がった 若者達が男女ベアーになったり、男ばっかりだった り、女ばっかりだったり、次々とおわらを披露して、ポーズを決めている。拍手が起こり、自由奔放である。 舞台で踊った連中が終わると囃子方にきっちり頭をさげて 礼を言っているのもすがすがしい。 自由奔放とはいいながら、この舞台でも福島の町の統制が取れている。

こんな深夜の楽しみがあるから、きっちり形の決まった町単位の町流しにも若者達もついてゆけるのか・・・ 夜がうっすらと明ける 5 時前まで踊りは続き、若者の一人が終わりの挨拶をして、2 日目の舞台風は終わり、 おわらを唄いながら それぞれタクシーに分乗して、帰っていった。 終わりまで きれいだった。

春風吹こうが 秋風吹こうが おわらの恋歌 みについてならない 富山あたりか あのともしびは 飛んで行きたや 灯とり虫 見送りましょうか 峠の茶屋まで 人目がなければ あなたのへやまで

5. 見送り

6時7分初 富山行始発にあわせて、駅に戻るともう駅 には行列が出来ていてる。

どうも、始発列車に乗るひとばかりではなさそうである。 駅員の人が教えてくれたのですが、始発の列車が入って くると若者達がホームで「おわら」を踊って、見送って くれるという。それがまた人気となって、多くの人が見 に来るのだという。

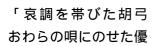
私は富山行の列者に乗る列に並ぶ。 どんな趣向か 興味 深深。



インターネットで見つけた見送り風景

始発列車が入ってきて、 列車にみんな乗り込み おわると、「おわら」の 若者達が駅のホームに 立ち 「おわら」を踊 りだす。ホームの外の 柵にはカメラの放列。 そんな中をゆっくりと 列車は動き出して、八 尾を離れた。

趣向といえば趣向なのですが、これとても自然発生的に生まれたものが、そのまま受け継がれてきたという。





雅な踊 静かさを味わい踊る。 それが風の盆」

キャッチフレーズ そして 観光客もそれにあこがれるが、この人の並はそれを打ち消してしまうほど。 段々静けさが損なわれつつあるが、なんといっても、その事を街の人たちが意識して、観客を余り意識せず、 自分達の祭りを街ぐるみで楽しんでいるのがいい。

時間をはずせば、いっしょにそんな静かな風の盆をたのしめるのがいい。

今後どうなつてゆくか判りませんが、このブームとなった「静」の部分を大事にしてほしいものである。 また、若者の参加が多く、それぞれの町が独自性を持っていることこれも魅力の一つ。

いろんな場所で色々な形で「風の盆」が共有されているのがいい。

そんなことを考えながら、昨日の夜から今朝まで八尾で過ごした「風の盆」を思い返していました。 やっと「風の盆」の面白さが見えてきたように思う。

次回は是非、 諏訪町や鏡町のひと気のない深夜をひつそりと流す胡弓や囃子方 そして深夜の町流しをじつくり、街角に座って、味わいたいと思っている。

始発富山への列車で 居眠りしながら 2005.9.3.朝 Mutsu Nakanishi

四国 旧別子銅山の郷「別子山村」 2005.11.9.



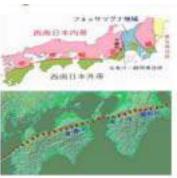
四国を東西に一直線で貫く大断層「中央構造線」そそり立つ山並みの裏に消えてゆく銅山の村

最近 日本を写した人工衛星写真の地形図がインターネツトで自由に見ることができるようになって楽 しんでいる。

そんな中に 紀伊半島から四国を一直線 に貫く大断層帯「中央構造線」が見える。

四国の北よりを真っ直ぐに東西に貫き、 その南側には平行して東西に幾重にも重な る四国の山々が連なり、太平洋に面する高 知の海岸部にまで、大きな町はなく、この 山々を横切ってゆく道もほとんど限られ、 険しい山塊である。 ストレートー直線に





並んだ山々が並行して幾重にも連なり、今も之を横切る事を寄せ付けずにいるすごい断層である。山の谷間を平行して抜けてゆく道はあっても、山を南北に抜けて 高知・太平洋側に出る道はわずかに四国中央部の山の切れ目を大歩危の難所を吉野川と共に南へさかのぼって行く谷筋があるのみである。





四国の北東半分では 幾重にも重なる山々か ら流れ出した吉野川が この大断層に沿って谷 を東に流れくだり、北

西半分では中央構造線を境として北側に平坦な平野部 南側には急峻な山がそそり立って西へ伸びている。

以前 仕事でよく行った東予から いつも眺めた 山々である。





新居浜の南 中央構造線に沿ってそそり立つ赤石山山系 20055.11.29.







中央構造線上 伊予三島の山上から見た東予の平野部

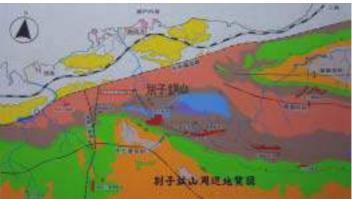
新居浜の街

そんな東伊予の中心に新居浜があり、新居浜の南の壁を越えた向こう側には江戸時代世界一の出銅量を誇った別子銅山があり、「住友」発祥の地である。

東予・新居浜に行っても 別子銅山の銅の話は聞いても 銅山のある別子山村への道などあまり聞いたこと もなく、閉ざされた場所それが「別子銅山の郷 別子山村」のぼくの印象でした。

材料屋の原点の一つとして 一度は是非足を踏み入れたいと思いながら、忘れかけていました。





昨年 ある知人が「別子山村へ入って 別子銅山遺跡を見てきた。 機会あれば・・・・」と教えてくれた。 ちょうど 人工衛星写真で四国の中央構造線に引かれていたこともあって、「眠っていた赤子を起こされたようなもの」でした。

調べてみると 別子山村は平成15年4月に新居浜市と合併。

当時人口は277人と激減。前年には一人も赤ちゃんが生まれなかったという。

今 どうなっているのか・・・・

「たたら 和鉄の郷」と同様 材料屋の原点の一つ 山に生きた人たちの痕跡がある間に行きたくなりました。 また、住友の街 新居浜の別子銅山博物館にも行ってみたい。

11月 ちょうど 松山に行く機会があり、その用件半分 別子山村を訪ねるのが半分で別子山村を訪ねました。 それも、神戸から明石大橋を通って鳴門へ出て、そこからこの四国を東西に真っ直ぐに貫く大断層地帯「中央構造線」沿いに沿って 真っ直ぐ松山まで伸びる高速道路を走る神戸発松山行の高速バスに乗って。行けばなんとかなるだろうとのいつもの風来坊。 たかをくくって出掛けましたが、全く山の中で交通の便悪く タクシーと交渉して 素晴らしい紅葉の別子山村をタクシーで駆け抜けるだけの旅になってしまいました。

(新居浜からは車でないと別子山村へ行く道はなく、タクシーも迷惑顔。伊予三島からは赤石山をトンネルでぶち抜いたダム 道路が観光兼生活道路としてついており、日に3本バスが走っている。 僕も朝 このバスに飛び乗ったのですが、運転手さ んにどこに泊まるの。このバスの折り返しに帰ってこないともう バスないよ・・・・・と。

あわてて 飛び降りました)

赤石山系の山々によって 市街地から隔てられた谷底 銅山川に沿う一本道だけが頼りで、 もう村の中心 部もなく、ぽつぽつと家が散在するだけの全く山中の別子山村が紅葉の中に埋もれていました。







赤石山系の谷間 銅山川に沿う別子山村 2005.11.9.

別子山村の中心部を抜け、別子ダムにかかる手前に旧別子銅山跡入口の標識があり、階段の登山道が山腹に

向かってついている。

旧別子銅山はこの谷間 赤石山の山腹に坑口や諸施設が眠っており、見上げる赤石山を越える「銅山越」の険しい山道を越えて 銅が新居浜側に運ばれた。明治になると反対側の新居浜側の山腹をぶち抜いて掘られた隧道が鉱脈に伸び、そして 軌道が新居浜にまで粗銅を運ぶようになる。





今もこの銅山越の山道沿いに旧別子銅山遺跡が残っているのですが、タクシーを放すと身動きが取れなくなるので、残念ながら、今回はあきらめ。

そのまま別子ダムからトンネルで赤石山系の山々を抜けて 新居浜側の端出場かつての別子銅山の銅集積場 にある別子銅山の観光モニュメント別子トピアに出てきました。

紅葉の中 見上げる赤石山 銅山峰はごつごつした岩肌で 銅の露頭を見せていました。

これ 見れただけで 満足。

でも、やっぱり、次回は銅山越をせねば・・・・もう一度赤石山登山を兼ねて行こうと思っている。

幸い 来年には 新居浜側から別子山村への道も改修され バスが走り出すという。

新居浜からは ほんと 山を乗り越えた直ぐそこなんですが、車がないとどんどん不便になってゆく僻地を まざまざと経験。早く道が改修され、交通の便が良くなれば、本当にすばらしい場所なんですが・・・

銅の露頭が見える赤石山系の谷底 銅山川に沿って東西に伸びる別子山村 概 要 別子山村を貫く一本道 別子・翠波 はな街道





















別子山村愛媛県のほぼ中央に位置し、四方を標高1,500m~1,700m級の山々で囲まれており、雄大で優美な自然の魅力を満喫することができる。瀬戸内の海岸との壁として北側から村を見下ろすように聳え立つ赤石の山々は、西で石鎚連峰からの稜線に連なる。

現在、別子山村は平成の大合併により、2003(平成 15)年4月隣接の「新居浜市」と合併「新居浜市別子山」となった。旧別子山村は2000(平成 12)年国勢調査時の人口で277人という状況にあり、また、2002(平成 14)年の人口動態統計によると、全国の市町村で 1人も赤ちゃんの生まれなかった村が一つでもあった。東西に伸びる赤石山系の谷間を流れる吉野川の分流 銅山川が西から東に流れ、この川に沿って延びる県道が唯一海岸部の川之江・新居浜との連絡路。

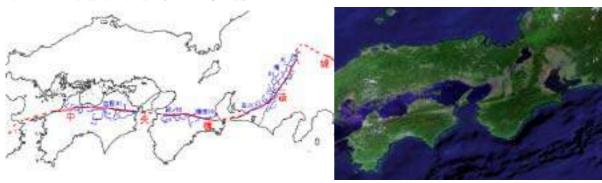
特にこの銅山川沿いの短い区間に3つものダム湖があり、川之江・伊予三島からの立派な道が村の中心部まで伸びている。 一方 村の東側の新居浜側には別子ダムがあり、赤石山を貫くトンネルで繋がっているが新居浜まで険しい山を下ってゆかねばならず、道幅も狭く、今 道路改修が進んでいる途中である。

車であれば、約1時間ちょっとで 川之江から別子山村の山間部を通って新居浜まで下ることが出来るが、 過疎の地 日に3本のバスが川之江・伊予三島からあるだけである。

(来年には 新居浜へもバスが開通すると聞く)

村の中心を占める別子銅山はもともと銅山越 そして 鉱山トンネルを通じて 新居浜との結びつきが強かったため、新居浜との結びつきが強く、平成の大合併により、2003(平成15)年4月隣接の「新居浜市」と合併「新居浜市別子山」となった。

【参考】 四国・紀伊半島の中央構造線

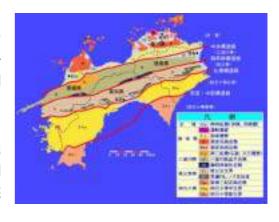


構造線とは地質帯の境目をなす大きな断層のことで、中央構造線は日本を代表する大構造線。

西南日本内帯・外帯の境界にあたり、徳島市から吉野川北岸を走って阿波池田に達し、川之江・新居浜のすぐ南側を通り、砥部町から双海町を通り、佐田岬半島北側の沖合を通り豊予海峡に入る。

豊予海峡では、佐賀関半島と佐田岬半島の北岸の沖合いを通って、伊予市上灘で上陸。砥部(とべ)町から西条(さいじょう)市の丹原(たんばら)へ続く。そして、石鎚山地のふもとを新居浜から川之江へ続き、阿波池田から吉野川の少し北側を徳島市と鳴門の間へ続く。

四国と紀伊半島の間では、淡路島南岸と沼島(ぬしま)の間を通って紀伊半島に上陸し、紀ノ川や紀ノ川上流の吉野川の少し北側を、和歌山市~奈良県の五条~東吉野~三重県境の高見峠へと続く。



四国中央構造線の基本的な姿は三波川変成岩と和泉層群の境界断層である。

愛媛県新居浜市国領大橋付近の平野部より南東を見ると遠方の山並みの麓を中央構造線が東西(左右)に走

り、それより南側では三波川変成帯が大きく隆起して 険しい山脈になっている。

三波川変成岩は広く露出し、徳島の城山、祖谷地方から大歩危、別子、佐田岬半島などでよく見られる。 ただし石鎚山は新第三紀の火山岩である。

四国山地北縁ではナイフで切ったように直線状に山が 並び(断層崖) その航空写真が活断層の見本として各 種書籍に取り上げられている。



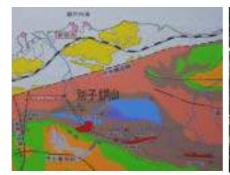




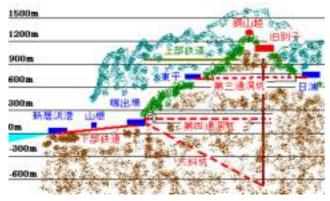
2. 別子山村 旧別子銅山遺跡 概要



人跡未踏の赤石山 銅山峰南 斜面で、元禄3年(1690 年)露頭が発見され、翌年住 友により採掘が開始されたの が始まり。







海抜1145mの地帯から斜めに深く、長く掘られた 大斜坑は非常に珍しく銅鉱脈は世界でも類のない大鉱 床だった。

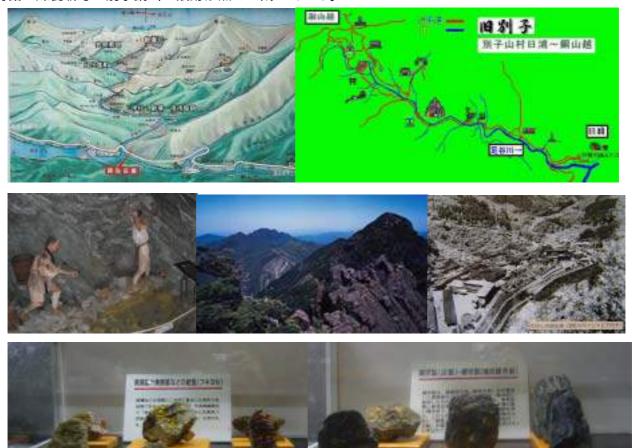
元禄時代幕府の長崎貿易の代金支払いが銀から銅に代わり、銅が最大の輸出品になると、幕府は銅山開発に力を注ぎ始め、別子銅山も開抗からわずか8年の元禄11年に年間産銅量1.500トン以上を記録するなど、当時世界最高の産銅量を誇る銅山となった。

別子銅山の模式

その後、明治26年には日本初の山岳鉄道を導入、産銅量は一挙に5.000トンに達し、別子の山中には12.000人もの鉱山関係者が住んだと言われている。

坑道の総延長約700km、採鉱場所が海面下1.000mに達し、浸透水と地圧による坑道崩壊の危険などにより、昭和48年最後の筏津坑の閉鎖により栄光の歴史に幕を閉じました。

現在では、それらの施設はほとんど残っていないが、銅山越への山道を歩くと坑口跡や高く積まれた石垣・接待館の煉瓦塀等 別子銅山の痕跡が点々と残っている。



露頭が発見されたのは、人跡未踏の赤石山 銅山峰南斜面(1690年)。最初の坑口歓喜坑は海抜1145mの地帯であり、そこから斜めにこの山体の奥深く下へ下へと長く掘り進められた。

1691年-1973年の283年間の長きにわたって、高度1145mから順次 地下マイナス600mを越える深さまで、 地中の底へ底へと掘られたきわめて珍しい大鉱脈。

採掘された銅鉱石は銅約 80% 粗銅(荒銅)に製錬されて 海岸地に運ばれたが、この場所は人跡未踏の地であり、人力で運ばねばならぬ時代 銅の輸送路はきわめて重要であり、しかも銅山そのものも、時代と共に山体の奥深いところで、採掘場所が下へ下へと下ってくる。 鉱山内での採取された銅鉱石の坑道内部からの運び出し、そして この険しい山を越えて荒銅・銅鉱石を海岸部まで運ぶ輸送路の確保が江戸期から・明治・昭和にいたるまで、世界的な大銅山別子銅山の近代化の重要な柱であった。

江戸期の延々35kmにわたってまで山越え道が続く小箱峠越の泉屋道から8kmの短経路 悲願の輸送路銅山越の道への転換 そして 明治の近代化策として時代と共に数度にわたり、新居浜側から3体をぶち抜いて下方に作られた鉱脈への通洞ならびに大斜坑の建設 そして 上部・下部の鉱山鉄道の建設などである。

今回 別子銅山の山中に分け入り、それら産業遺産を見ることはできなかったが、山岳地図にそれらの位置を書き込むとそのすごさがわかる。

逆に言それだけ重要な鉱山であり、明治以降 日本の近代化の源泉であったことがふつふつと浮かび上がってくる。

別子銅山の歴史

【江戸期】

江戸期 別子銅山開坑時 この銅山のある足谷山から一番近いのは銅山峰を越えて北側の新居浜へ至る道が直線距離約8kmと最も近いのであるが、西条藩領でそこにすでに立川銅山が開鉱されており、別子銅山と鉱脈が近接・通じていることもあって、この道を開くことが出来ず、銅山峰南側を銅山側沿いに西へ進み 芋野から北進して赤石山を小箱峠で越えて 浦山川沿いを現在の土居町天満浦へ出る延々約35km道が輸送路であり、人馬によって延々運ばれた。 この道はこの地域に住む人々を潤し、「泉屋道」と呼ばれた。

現在の別子山村の中心部を西へ銅山川沿いの渓谷を縫い、村の端で北へ小箱峠で山を越えてゆく道である。

一方 輸送効率のよい銅山峰を越えて 立川から新居浜へ結ぶいわゆる「銅山越」の道が幕府より認められ 建設されたのは別子銅山開鉱後10年後であり、その後この道が輸送路の本道となつて、別子銅山を支える。

泉屋道 足谷山 芋野中宿 小箱峠

勘場中宿 浦山 天満浦

銅山越道 足谷山 銅山越 角石原

馬の背 東平 立川渡瀬 新居浜浦

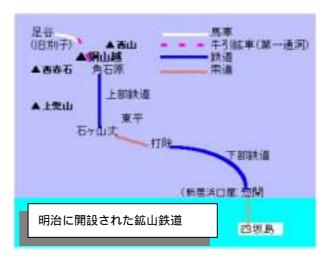


江戸期の別子銅山 銅の輸送路 仲持道

【明治以降】

明治になると大量生産を効率的に進める別子銅山は採鉱・輸送・製錬・労働などあらゆる面で時代の流れの中で近代化の変革をする。

いわゆる近代化産業遺産と呼ばれる諸設備・鉱山鉄道が導入される。



1880年 足谷川に面する高橋製錬所の建設と東延斜坑の開削と別子から立川までの運搬車道の整備

1886 年 第一通洞の開削 東延から角石原

1888 年 石炭を木炭代替とする新居浜臨海部の惣開・山根製錬所の建設

1893年 別子鉱山鉄道 下部鉄道:端出場 惣開 上部鉄道: 角石原 石ケ山丈

石ケ山丈 端出場の索道の開通

1895年 東延斜坑の完成

1899年 第三通洞の完成と東平開発 東平の時代

第三通洞の開削(東平坑口 東延斜坑底の水平坑道)と209年にわたる別子山での製錬に終止符。

1895 年煙害問題での山根製錬所の廃止 1899 年別子大水害よる高橋製錬所の廃止で 209 年にわたる別子山での製錬が終止符。

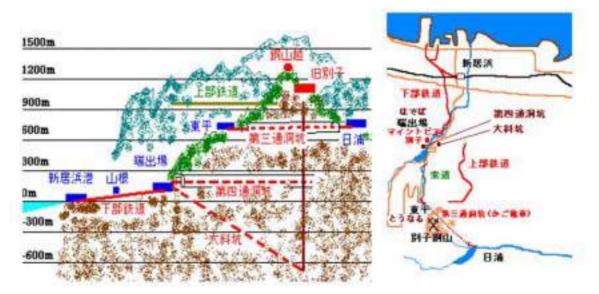
四阪島での製錬がはじまるまで、新居浜(惣開)での製錬に頼る。

1904年 四阪島製錬所の完成と別子・角医師原での焼鉱 新居浜での粗銅・精銅生産の中止と四阪島での生産集中

1911年 第三通洞東延斜坑底と日浦洞を結ぶ日浦通洞完成

すべての輸送が東延斜坑 第三通洞 日浦通洞 経由で行われ、上部鉄道が廃止

- 1915年 第四通洞の完成と端出場の時代
- 1968 年 戦後 別子銅山再生を賭けた深部開発と大斜坑の完成
- 1973年 別子銅山休山 1691年-1973年の283年間の歴史に終止符





3. 紅葉の別子山村 写真アルバム 2005.11.9. 紅葉の別子山村 別子銅山の郷をタクシーで駆け抜ける



11.8. 夜遅遅く駅前の飯屋でビールやりながら、色々教えてもらったのですが、

「新居浜からは現在、道が悪く、車・タクシー以外に別子山村へのアクセスなし。

でも 川之江・伊予三島からはダム建設でよい道がついていてバスの便がある。

なんせ 人口 277 人しかいないところだから そのつもりで」

と言われる。まだ その時は飲みながらたかをくくっていたのですが・・・・

朝 新居浜から川之江行のバスに乗り、道中 運転手さんに別子山へのバスの便など聞く。

「川之江からのバスも一日 3 本しかなく 乗っていった午前中のバスが折り返す午後の便で戻ってこないと帰れない。山へ入るなら タクシーもなにもみんな伊予三島の方から行く。

宿とらないと・・・ でも 今紅葉が本当に素晴らしい」という。

このまま断念するのもいや。

「伊予三島から山を越えて せめて銅の露頭を見せる赤石の山々を眺めながら 別子山村を駆け抜けて 新居浜側へ出て 端出場にある別子銅山の観光モニュメント施設「別子トピア」・山根にある和銅博物館を訪ねる」アイデアが頭に浮かぶ。

伊予三島駅前で降りて タクシーとディスカウント交渉して、スタート。 ラッキーだったが、やっぱり ちゃんと計画していかないとあかんとつくづく思う。

でも これも旅。

ところどころで ストップしてもらいながら 約1.5時間ちょっとで 端出場までのドライブ。

「 平野から突如 急峻な山々が建ち並ぶ。それも東西に伸びる断層の段差そのままに直線的に並んで。 その山のむこうにはもう 集落のない山また山。そんな山中に世界的な大銅山 別子銅山が眠っている。 山の向こうの別子山村って どんなとこ ????」、興味深々のドライブ。

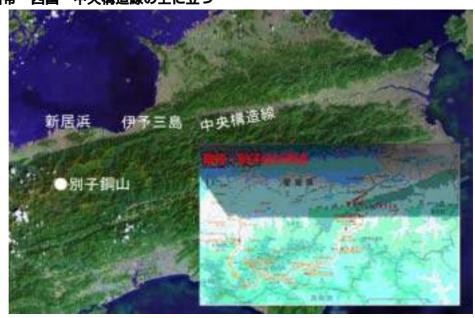
荒々しい岩肌の赤石山の狭い渓谷の紅葉の中に人影のない別子山村はうずもれていました。

- 3.1. 伊予三島からまっすぐ南へ 中央構造線上の赤石山脈をトンネルで抜けて銅山川の渓谷へ 大段層帯 四国中央構造線の上に立つ
- 3.2. 紅葉の銅山川 別子山村
- 3.3. 別子ダムから大永山トンネルを抜けて 別子渓谷を新居浜側の端出場へ
- 3.4. 別子トピア 端出場
- 3.5. 新居浜 山根の和銅記念館

3.1. 伊予三島からまっすぐ南へ 中央構造線上の赤石山脈をトンネルで抜けて銅山川の渓谷へ 大段層帯 四国 中央構造線の上に立つ

愛媛県東部の瀬戸内側海岸の平野部から南に壁のように東西にそそり立つ標高 1,500~1700mクラスの山々赤石山系・法皇山脈。中央構造線の大段層帯の上の山である。

伊予三島からトンネルでこの山 系を抜けた南側の奥深い山中を 東西に流れる銅山川沿いの渓谷 を楽しみながら東に進みまたト ンネルで北に山を抜けて、国領 川沿いに新居浜に至る全長 6.5km の観光ドライブコースが、



「翠波・別子はな街道」 として整備されている。この銅山川沿いの東半分の渓谷が旧別子山村で 荒々しい 岩肌を見せる赤石山系の一番東の端に銅の露頭を見せる銅山峰がそびえ、人跡未踏のその周辺が別子銅山で ある。タクシーに乗ってこの街道筋を走る。

伊予三島の駅から南へまっすぐ山に向かい平野部からいきなり急峻 なつづら折れの道をぐんぐん登る。

人工衛星の地形図で見ると中 国山地の山々が垂直に平野部 に切れ落ちた境界が延々東西 に続く中央構造線の境。

伊予三島・川之江の市街地が 見る間に下のほうになってゆ





く。 遠望する川之江市街地と赤石山系の山並みへ上ってゆくドライブウエイ この急峻なつづら俺の道が断層の下から上へ上がる道。

10 ほどのところ 赤石山系の山並みを抜ける手前の展望台から東西に沿ってひろがる平野部が見渡せ、東西にストレートに伸びる中央構造線の断層の先端に立っていることを実感する。





中央構造線の上にある具定展望台から見る四国中央構造線沿いの平野部 2005.11.9.

本当にこのストレートのライン「どんなところか???」と興味深々で想像をめぐらしていましたが、やつぱり急峻な崖が平野部から垂直に立ち上がり、山並みを形成していました。



法皇トンネルを抜け、金砂湖を経て 富郷ダムへ

2005.11.9.

東西に伸びる赤石山系の山腹をまっすぐ突き抜ける法皇トンネルを抜けると奥深い山中。ぱつと紅葉が眼に飛び込み、水を貯めた金砂湖が見え、渓谷を西から東へ渓谷を流れ下る銅山川水系の谷あいに入ったことがわかる。銅山川に沿う曲がりくねった谷間の道を走る行く手に岩峰の東赤石山が見えてくる。 運転手さんによると「この銅山川の短い区間に3つもダムがあり、そのダム建設でこのいい道がついた。 別子山村はこの富郷のダムを越えて もっと奥で ポツポツと家があるだけ・・」と。



銅山川沿いの渓谷

2005.11.9.3

富郷の集落を抜けると 渓谷はますます狭くなり、人家が全くなくなる。銅山川の石がどんどん大きく多く なり、この川が急進な山に囲まれた狭い ∨ 字谷を駆け下る暴れ川であることが想像できる。 登るにつれ 益々紅葉の色が濃くなり、狭い渓谷・富郷ダムを抜けると知らぬ間に別子山村に入る。

車も人影もまったくない紅葉した渓谷 銅山川に沿って、枝道のない一本道がどんどん登ってゆく。

3.2.





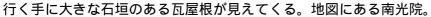
銅山川沿いの∨字渓谷にへばりつく別子山村 2005.11.9.

紅葉した銅山川沿いの渓谷にぽつり ぽつりと一軒家が現れるが、まとまった家並みはない。伊予三島から車で40分ほどであるが、山に閉ざされた狭い渓谷でこの渓谷沿い以外に逃げ道はない。

ゆらぎの森への別れのところで、谷が少し広くなっていて、幾つかまとまった人家が見える。あとから考えるとここが別子山村の中心地。ここから先は車がすれ違える程度の道幅になって さらに渓谷を登ってゆく。



地図で見た東西にえんえんと続く V 字の谷である。 川にへばりついた新居浜市支所をすぎるとまた自然の中に帰る。この右手 山並みの中に別子銅山のある岩峰の続く赤石山系であるが、谷が狭く、両側から山が迫って、頂上部の山並みは道がカーブする前方銅山川越しにチラッと見えるのみでよくわからない。







別子山村 余慶 南光院 2005.11.9.

山を登っていた道が下七番トンネルをくぐる。このあたりから別子銅山への道がついていた場所のように思えて、みす眼をこらして銅山への登り道を探す。

トンネルを抜けて直ぐ 旧別子銅山跡登山口の看板があり、おそらく駐車場確保整備の工事が進められていた。 車を止めてもらって、登り口へ







別子山村の西の端 別子ダムへの登り道で 2005.11.9.





旧別子銅山登山口で 2005.11.9.

紅葉した山への階段がまっすぐ上へ続いているのみで 銅山山は見えない。

ここから旧別子銅山跡に入り、赤石山 銅山峰を越えて国領川水系の谷を下って新居浜への道が続いている。 今はハイキング コースとして整備されている。その時には銅山越をしてさらに新居浜へのハイキングコースが整備されているのを知らず 一瞬 車捨てて歩こうか・・・・と思ったのですが、あきらめて別子ダムへとまた上ってゆく。

別子ダムからは荒々しい岩峰を連ねる赤石山が東西に峰を連ねていました。

この岩峰が銅の露頭。山そのものが銅山。また 足元には別子ダム湖の向こうに今さかのぼってきた別子山村の谷が赤石の峰々に沿って、紅葉の中に埋もれていました。

「これは すごいわ 別子銅山の山とはこんなとこか・・・」と感慨ひとしお。 しばし 連なる岩峰を眺めていました。



別子ダムからみた赤石山系 銅山越 別子山の峰々 2005.11.9.





別子ダムからみた赤石山系別子山の峰々 2005.11.9.







別子ダム周辺で 2005.11.9.

別子ダムから少し上って大永山トンネルで赤石山脈を越える。眼前まじかに荒々しい岩肌をみせる赤石の山 並みが飛び込んでくる。非常に高い山の上にいることがわかる。

今度は北側から赤石山の急峻な峰峰を眺めながら 狭い国領川の谷筋へ降りてゆく。

紅葉が本当に素晴らしいつづら折れの狭いドライブウエイを下ってゆく。15 分ほど下って銅山の里の標識 東平への道と分かれると端出場の別子トピアは近い。











新居浜側 別子ラインからの赤いし山の峰々 2005.11.9.

伊予三島から約1.5 時間 東西に走る大断層帯 中央構造線の山襞 赤石山系銅山川の V 谷を東西に駆け抜けて新居浜の端出場まで 紅葉の渓谷のドライブ

どんなとこか・・・と好奇心・興味津々で出掛けたドライブでしたが、大断層中央構造線を実感し、荒々 しい岩肌を見せて延々と東西に続く赤石の峰々とその下の紅葉の∨字谷銅山川の素晴らしい秋 そして別子 銅山のすごさにもふれられました。

銅山越は果たせませんでしたが、素晴らしい紅葉の秋が体験できて満足。 様子もわかったので、もう一度 今度は銅山越 是非果たしたい。



背後に別子山がそびえる端出場 2005.11.9.

3.4. マイントピア別子 端出場





マイントピア別子は別子銅山開坑300年を記念して旧別子銅山昭和期の一大拠点であった端出場に作られた鉱山観光施設で、端出場に残る第四通銅や鉱山鉄道などの産業遺産に観光坑道や記念館や温泉施設が併設されている。マインは鉱山を意味する言葉で、記念館・観光坑道の中には別子銅山の採掘の様子や鉱石などが展示されている。















別子銅山端出場を業遺産ほか

2005.11.9.

上段 左 鉱山鉄道 軌道と鉄橋 中 観光坑道 右 発電所

下段 左・中 第四通洞 右 国領川

3.5. 新居浜 山根の和銅記念館

端出場はちょうど別子山から山を下って国領川の川筋の谷への出口で、そこからさらに谷筋を 4km ほど下った新居浜の市街地への出口が山根である。この山根には湿式製錬所が 1888 年に建設された場所で、国領川左手の生子山山の頂上にはレンガ造りの煙突がみえる。

この山の山麓に大山積神社・別子銅山記念館がある。ぜひとも立寄りたかった記念館である。



新居浜市山根周辺 写真左 大山積神社・別子銅山記念館のある生子山 写真右国領川





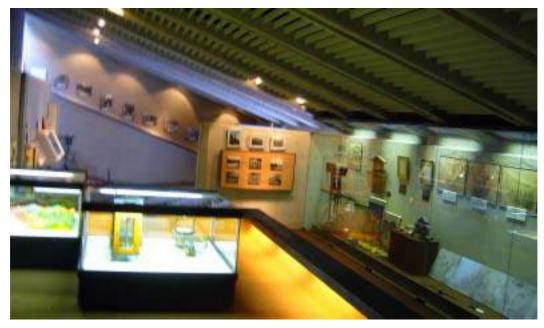


2005.11.9.



別子銅山記念館 大山積神社境内の山腹にあり、外観がみえないよう工夫されている

別子銅山は1691(元禄4)年の開坑から昭和48年の閉山まで一貫して住友が経営した世界でも例のない銅山。 別子銅山記念館はその波瀾に満ちた銅山経営の史料を保存展示するために、昭和50年(1975年)に開館。 住友連係21社で運営されている。その貴重な史料も散逸することなく継承され、記念館に収蔵展示されている。



館内は5つのコーナーにわかれており、住友とその前身である泉屋の歴史を紹介する「泉屋歴史コーナー」 銅山の開坑から最近の事業までを紹介する「歴史コーナー」、鉱石などを解説する「地質鉱床コーナー」、労 働者の生活を展示した「生活風俗コーナー」、西洋の技術が導入されて以降の機材が並ぶ「技術コーナー」に 分かれて展示されている。また屋外には、1892(明治25)年にドイツから輸入され鉱石運搬などに活躍した 蒸気機関車なども展示されている。

大山積神社の境内にあるため、神殿より目立たないように半地下の構造にし屋上には「さつき」を1万本ほど植えています。それ故、ユニークなデザインが評価され、昭和51年(1976年)建築業協会賞を受賞。

http://www.sumitomo.gr.jp/related/index02.html より

別子銅山山内の作業を描いた別子銅山絵図や山内所施設を描いた別子御銅山絵図 別子銅山図(版画)などの絵図や銅の露頭 大山積神社に古式に則って奉納された鉱石などたたら製鉄のイメージと比較しながら

興味深く見ました。

落ち着いた雰囲気の中で 別子銅山の歴史を知ることが出来、。展示図録とその解説 ならびに別子銅山の歩みを記録した資料などをもらって帰ってきました。

展示の内容は下記 別子銅山記念館ホームページに詳細掲載されています。

http://www.sumitomo.gr.jp/related/index02.html







大山積神社 境内

2005.11.9.

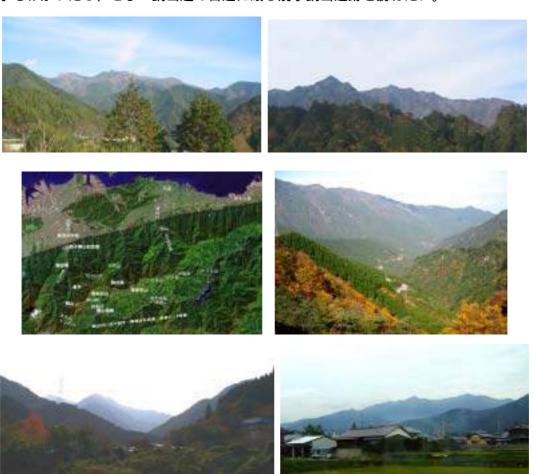
衛星写真で見える四国ををまっすぐ東西に走る大断層帯中央構造線 そして その上に壁のように立ちはだ かる険しい赤石山系。かつて世界一を誇った別子銅山がこの山中に眠る。

この山の向こうはかつては銅山の銅を運んだ道が狭い ∨ 字の谷 銅山川に沿って続く別子山村。 本当に興味深々で想像を膨らましていた場所。

タクシーによる駆け足のドライブでしたが、銅露頭の岩峰 赤茶けた荒々しい岩峰を連ねる赤石山と紅葉に 埋もれた谷 好奇心を満たしてくれる素晴らしいドライブでした。

まつたく 予備知識なく好奇心のみの風来坊 失敗しましたが、それはそれでいい旅になりました。 また、周囲から隔絶されたこの別子山村に最短距離の新居浜からのバスが来年には通うという。 過疎のすごさが頭の片隅にあつたが、本当に良かった。

次回は 様子もわかったし、ぜひ 銅山越の古道に眠る別子銅山遺跡を訪ねたい。



晩秋から初冬に移り行く函館散策 写真アルバム

函館の街 夜景と美い教会群を訪ねて

hako00.htm 2005.11.13. & 14. by mutsu Nakanishi

- 1. 函館の港 & 朝市 で
- 2. 函館元町界隈の美しい教会群
- 3. 五稜郭公園
- 4. 函館山からの夜景
- 5. トラビスチヌ修道院



11 月半ば 神戸ではまだ紅葉がはやいのに北海道ではもう紅葉も終り、初冬の装い。 久しぶりに娘家族を訪ねて孫たちの顔を見て、晩秋から初冬へ移り変わる北海道を楽しんできました。 家内が函館の夜景を見たことがなく、また 函館元町の教会群も見た記憶がないという。 気になっている渡島半島先端の活火山「恵山」とその麓の海岸「日本最初の溶鉱炉建設の地で砂鉄の砂浜が広がっているという古武井」へも行きたいし、ついでに湯の川温泉に泊まって温泉に入って。。。。。

「風来坊でどこに行くか判らん旅だと行かない」という家内に、久しぶりに札幌駅の旅行センターへ行って函

館までの切符と宿の手配をする。 ついでながら 2人だとJRの切符 と宿・そしてレンタカーとパック 手配するともうほとんど宿・夕食 代ただに近い金額になるのを初め て知りました。食事も悪くない。 こだわらなければパック旅行が隆 盛なわけである。

11.





快晴の 11 月 13 日早朝 娘から「函館にいったら朝市に行って、それから 有名な「チーズケーキ」 を買ってきて」と送り出されて札幌を出発。

7 時札幌発の特急に乗って車窓から次々と変化してゆく山の景色を楽しみながら函館へ。

雪を戴いた樽前山・有珠山を過ぎて噴火湾の向こうの駒ケ岳がぐんぐん近づいて、裾野の広い雄大な姿を見せる駒ケ岳の山裾を走り抜けるとまもなく函館。

何度通っても素晴らしい景色を見ながらの函館まで約3時間 車窓の旅。

家内は学生時代以来の函館 私も函館の街をゆっくり歩いたのは 10 年以上も前。



午前 10 時過ぎに函館着。函館の駅前はきれいに整備され、もう青函連絡船時代の面影はない。

今回はゆっくり函館の街 とりわけ函館山の麓の高台に広がる元町の教会群を歩いて 夜景を見て どうも 印象がはっきりせぬトラビストと トラビスチヌ修道院も訪問したい。思いは次々 もう二人とも学生時代 の気分である。

函館は北海道の入口でいつも駆け足でしたが、久しぶりに一つ一つ元町の教会を訪ねたり、学生時代に帰って函館の散策を楽しみました。、

また、前日 霧と凍結でストップしていた函館山からの夜景も この冬一番の見晴らしで楽しむことが出来ました。

トラビスチヌ修道院や地図に五角形の形が現れる五稜郭にも行けました。

そんな晩秋から初冬の函館の街 散策のアルバムです。



函館の街の衛星写真海に突き出した半島が函館の街 左下が函館山 右上星型に見えるのが五稜郭



五稜郭タワーからの函館 左奥が函館山



函館の街 元町の坂で

1.函館の港 & 朝市 で





函館の朝市の通りで 時間が遅くてもう人影もまばら 2005.11.13.

函館駅前広場の直ぐ南側に新しく観光客相手の店が 立ち並ぶ。その後ろ側に朝市が立つ通りと市場があ る。

時間がもうおそくほぼ終わりかけで、通りは閑散と しているが、ひっきりなしに 声がかかって威勢が いい。

今の時期 やっぱり出始めたかにが主役である。 朝市の市場の建物にはいると、近郷のばあさんたち が、野菜・乾物など所狭しと広げている。

ここの朝市では屋根があっていい。

アンデスのインカ原種のジャガイモを広げている ばあさん。北海道の通信販売で北海道のものと一緒に



函館の朝市で 2005.11.13.

ほんの数個添えられていてたもの。 やっぱりここでも貴重品扱いでしたが、日本には なんでもあるな あ・・・と。

また この朝市を抜けて、港に沿って少し歩いた港の所に森叢孤軍が若者向きの観光スポツトになっていて、 サンタクロースが倉庫の壁をよじ登っていました。



函館の港 赤レンガ倉庫群

2005.11.13.

2. 函館元町界隈の美しい教会群



左から ロシア正教正ハリスト教会 カソリック函館元町教会 聖公会聖ヨハネ教会 函館元町の丘に立ち並ぶ教会群 2005.11.13.

函館山山麓に 美しい教会群がある。 函館の港から電車道に沿って南の函館山に向かって20分ほど歩いてゆくと函館で一番先に街が出来た元町界隈。函館山山麓へ坂を登ってゆくと 函館の港と街が見下ろせる高台に特徴ある3つの教会の建物が立ち並び、その横の方には函館公会堂の美しい洋館がある。





函館の有名な観光名所である。もう10年ほど前になるが、雪が積もる朝 十字架の形をした聖ヨハネ教会で外人の牧師夫妻と朝の祈りをささげたことがある。丘に登ってゆくのはそれ以来。

街はよく整備されて様子がずいぶん変わっているが、比較的暖かい函館では紅葉が残り美しい。 電車道から少し登ったところで、ひょいと西洋料理の五島軒の通りに出て、すぐ横の方に 真赤な蔦が絡まった美しい洋館 ソーセージの「カールレイモン」。 歩き出したとこであるが、この洋館に入ってお茶。 古い元町の歴史をカールレイモンの店で楽しむ。















函館山山麓 元町界隈 上:カソリック元町教会 & 五島軒 下:カールレイモン

そして、紅葉 した並木が美しい坂道をあがるとそれぞれ特徴ある教会の尖塔が見え、その背後には 真っ青な空に函館の港や町並みが見えていてる。絵葉書で見る風景です が、素晴らしい景色。ちょっと風が冷たく

寒いが、平日のこともあって数組のひとたちが散策しているだけで、「晩秋の函館を楽しんでいる」という気分に満足。









ロシア正教正ハリスト教会

カソリック元町教会

日本聖公会聖ヨハネ教会







函館元町の教会群

2005.11.13.









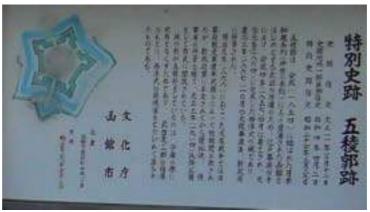
函館元町 旧区公会堂

2005.11.13.

ゆっくりと元町の丘を下りて海岸に戻り、港の森倉庫群の新しい観光スポットを通って、駅まで戻ったのは もう3時過ぎになっていました。

3. 五稜郭公園





函館本線で、駒ケ岳を越えて、ぱっと広がる函館の平野部 一番奥に海に浮かぶ島のように見える函館山に向かって特急電車が下ってゆく。 そして 函館の街の北側で最初に止まるのが、五稜郭駅。衛星写真でくっきりと五角形が見える。

幕末 外国へ開港された函館など北辺の守りとして作られた西洋式の城郭で明治維新 戊辰戦争で榎本武揚がこもった城である。函館五稜郭の名は知っているが、いつ来てもパス。

函館山とは街を挟んで北側 もう 北国の夕方は早く、日が傾きかけている。

頭の中では 五稜郭は街中で、その五角の形は空からしか見られない。

どないしてみようか・・・・高い丘でもあるのだろうか・・・・

今日は是非とも 五稜郭の五角形見ておきたいとバスに乗って五稜郭公園へ。

バスをおりるとすぐ傍に大きなタワー立っていて、そこから五稜郭を見学するという。

タワーに上って 上から五稜郭の五角形を見る。

全景が視野に入らないが、北側の駒ケ岳連山を背景に五角形の形が見えました。納得です。

直ぐ隣に現在のタワーよりさらに高いタワーが建設中で 完成すると五角形の形の全景が見られるようになると聞きました。



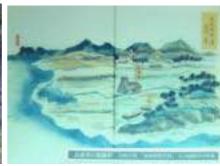
五稜郭タワーからの五稜郭跡 2005.11.13.

タワーを降りて 五稜郭のお堀端に行くと迫に五稜郭の沿革が記されており、この城を作ったのが、「武田斐三朗」と記されている。 この名前は明日訪れる「日本最初の洋式高炉建設の地 古武井」の古武威の溶鉱炉を建設した人。びっくりしました。

古武井の溶鉱炉の事など全く知られておらず、それを建設した武田斐三郎など地方の人かと思っていたのですが、五稜郭の建設者となると 古武井の溶鉱炉も「幕府挙げての一大事業だったのか。。。」と改めてビツク







五稜郭の正面 と 五稜郭を作った武田斐三郎が恵山の海岸に作った日本最初の洋式高炉の絵図

「五稜星の夢」





飛行機からの「五稜星の夢」ライトアップ 右の写真中央上の光が函館山

開催日:2006年1月15日~2月28日 点灯時間 17:00~22:00 五稜郭の1.8kmの堀の周囲に、約2000個のイルミネーションが施され五 稜の星形が白い大地に浮かび上がるイベントが函館の市民の手によつて 行われている。

もっとも この星型を完全な形で見得るのは 上空の飛行機からでない とだめで、「五稜星の夢」と名づけられている。



五稜郭タワーからの「五稜星の夢」

4. 函館山からの夜景







函館山からの夜景 2005.11.13.夜

13 日夕方 湯の川温泉にチェツクインして聞くと今日は函館山への夜景観光バスが動くという。

函館山からの夜景から帰って食事をすることにして、午後5時発のバスに乗る。

湯の川温泉から闇の中 函館山の狭いドライブウェイを走る。

函館山へはこのドライブウェイしかなく、頂上の展望台での夜景見物時間は30分に制限されている。観光 バスが次々連なって走る。真っ暗闇の林の中を10分ほど走ると、眼下にぱっと函館の素晴らしい夜景が広 がり、程なく到着。

風が冷たく、時折 みぞれも舞うが、素晴らしい夜景が広がる。

両側から真っ暗な海が弧を描いて光の帯に迫り、鼓型に光の帯が広がる様は黒の額縁にちゃんと収まっている絵のようである。

すぐ下にライトアップされた教会群がはっきり見え、その向こう左側 函館の港の明るい光が美しい。 左手一番奥にうっすら光の帯が見え、点滅する灯台の光が見える。下北半島大間の灯台だという。

ずっと奥に五稜郭こうえんがあるはずであるが、ライトアップされていないので見えず。

五稜郭の堀の周りをライトアップすれば、函館の夜景にさらにアクセントがつくと思うのですが・・・ 前回来た時は霧で、夜景が見られず、写真などで見たことはありましたが、霧一つなく 真っ暗な夜空に広 がる函館の夜景を見るのは初めて。

神戸だと 光の帯が東西 横の方にどこまでも広がっているのに大使、函館では縦。 実に収まりがよい。 本当に素晴らしい夜景でした。





元町の丘から見た昼間の函館湾・函館の街

2005.11.13.



函館山からの夜景

2005.11.13.







函館山からの夜景

2005.11.13.





元町の丘から見た昼間の函館湾・函館の街

2005.11.13.



函館山からの夜景

参考 「五稜星の夢」 インターネットでみつけた上空からの「五稜星の夢」ライトアップ写真





飛行機からの「五稜星の夢」ライトアップ 右の写真中央上の光が函館山

開催日:2006年1月15日~2月28日 点灯時間 17:00~22:00 五稜郭の1.8km の堀の周囲に、約2000個のイルミネーションが施され五稜の星形が白い大地に浮かび上がります。

「五稜郭の五角形の星」全景を自分の目でしっかり見たいとの思いは僕だけでなく、函館市民ではなおさら。 五稜郭の星型を見るのに お堀にそって、ライトアップすれば、函館山から見えてきれいなのに・・・・と

書いたのですが、今日 TV を見ていたら、もう 10 年も前から市民の寄付などによって、五稜に沿って電球がめぐらされ、ライトアップされるイベント「五稜星の夢」が続けられているという。

五稜のきっちりした形が見えるのは飛行機など上空でないとダメのようですが、市民はライトアップされた稜を見て五角形をイメージするそうで、「五稜星の夢」と名づけられ、毎年1月15日から2月28日までライトアップ。電球1個分500円募金がづっとつづけられているという。

本当に函館市民の夢のある思いの強さにビツクリ。私の勉 強不足でした。



五稜郭タワーからの「五稜星の夢」

5. 湯の川 トラビスチヌ修道院

函館の修道院 函館の西側にある男子のトラピスト修道院と東側湯の川にある女子のトラビスチヌ修道院。 函館のバター飴の記憶と共に修道院の記憶があるのですが、どっちへ行ったのか 記憶がない。 家内も同じことを言う。

夜景を見た翌朝 湯の川から渡島半島にある恵山への途中であるトラピスチヌ修道院にゆくことにしてレンタカーで出発。湯の川の温泉街を抜けて、10分ほど東へ 海岸沿いを離れて 鉄山への小さな丘が続く静かな丘の上にトラピスチヌ修道院がありました。

遠く函館の海が見渡せる紅葉が素晴らしい丘の上に紅葉した木々に囲まれて、落ち着いたチョコレート色の シンプルな修道院が建ち、数組の人たちが散策を楽しんでいました。

真っ青な空 色づいた紅葉の木々 修道院の建物をバツクに立つ「慈しみの聖母マリア」像が本当に印象的で した。











湯の川 トラピスチヌ修道院 2005.11.14.朝

この素晴らしい雰囲気 訪れていたら覚えているはず。

以前訪れたのはトラピスト修道院だったような気がしますが、このトラビスチヌ修道院の雰囲気も本当に好きです。



晩秋から初冬に移り行く函館散策 写真アルバム 函館の街 夜景と美しい教会群を訪ねて 【完】















動物の行動展示 旭川 旭山動物園 2005.11.12.

実に面白くて こどもより大人が断然多い動物園



北海道 駒ケ岳 森町付近より 2005.11.15.



北海道 函館 函館山からの夜景 2005.11.15.



北海道 和鉄の郷 砂鉄の函館市古武井海岸と恵山 2005.11.16.



北海道 今も蒸気を吹き上げる活火山「恵山」 2005.11.16.



北海道の晩秋 冬を迎える「恵山」の紅葉 2005.11.16.



北海道 波島半島の活火山「恵山」 2005.11.16.



函館山の麓 元町の丘に立ち並ぶ8つの美しい教会群 2005,11,16. 左:カトリック元町教会 中央:ロシア正教正ハリスト教会 右:聖公会聖ヨハネ教会



函館 トラピスチヌ修道院

2005.11.16.

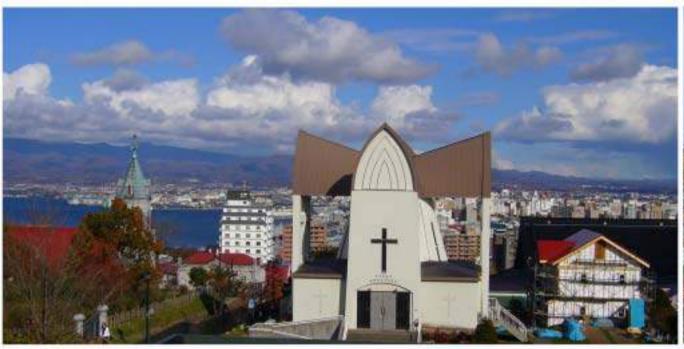


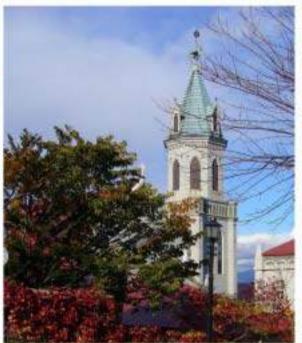
トラピスチヌ修道院

2005.11.16.



2005.11 トラピスチタ修道院で









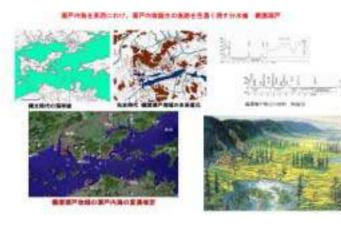
函館 元町界隈 聖ヨハネ教会・カトリック元町教会・正ハリスト教会 2005.11.15.



12.

瀬戸内海誕生の歴史を語る岡山県牛窓海岸の黄島・黒島 2005.11.28.

瀬戸内海の成り立ちを示す岡山県牛窓海岸 縄文の黄島貝塚遺跡。 北海道にでかけたので、仲間に同行できませんでしたが、本当に面白い場所だったと写真とメールもらって、「やっぱり行ってこ」と一人で出掛けました。 縄文の貝塚のある黄島 黒島には入れませんでしたが、牛窓海岸や直ぐその前にある前島から眺めてきました。 夕日に輝く備讃瀬戸の島々が印象的でした。





瀬戸内海の誕生を色濃く残す分水嶺 備讃瀬戸

前島より 牛窓海岸遠望



牛窓天神山古墳から見る黒島



前島から見る貴島 バックに小豆島がかすむ

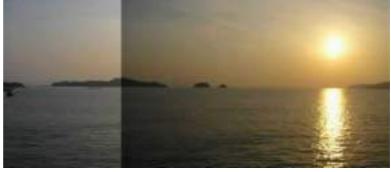


邑久町 門田貝塚



貝塚のクロス写真





牛窓港から見る夕日の備讃瀬戸方面 2005.11.28.

参考 瀬戸内海の誕生と牛窓の縄文草創期の黄島貝塚

近藤義郎編「岡山県の考古学」より整理

2005.9.14. by Mutsu Nakanishi

- 1. 瀬戸内海の誕生を示す縄文のモニュメント 牛窓 黄島・黒島貝塚
- 2: 瀬戸内海誕生の歴史と黄島・黒島貝塚

縄文の海進が始まる以前 瀬戸内海は四国と本州側の山々の間に広がる大平原だった

- 3. 杉山一雄氏「環境の変化と縄文人」グラフおかやま 1997 年 6 月号より転載 http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/sagu3.htm
- 4. 牛窓湾を囲む五つの巨大古墳の謎?

弥生時代から古墳時代へ 土器製塩と古墳群が語る牛窓



黄島貝塚・黒島貝塚がある牛窓海岸

氷河期が終了して、縄文の海進・温暖化が進む縄文の草創期 牛窓海岸の縄文草創期の遺跡「黄島貝塚」が 「瀬戸内海の誕生」を示す貴重な遺跡である事を知りましたが、詳細良く判らず。

瀬戸内海が誕生する前 現在の瀬戸内海の中はどんな風だったのか???

瀬戸内海が誕生して この瀬戸内海東部 岡山周辺の海岸はどんな風にかわったのか????

そんな事を知りたくて、岡山県立記録資料館に照会のメールを出しました。

そして、岡山県立記録資料館の杉山一雄氏より牛窓海岸の黄島貝塚について丁寧なご返事をいただいたくと共に岡山県の遺跡について時代別に整理して記録した近藤義郎編「岡山県の考古学」をご紹介いただいた。 早速 明石の兵庫県立図書館でこの資料「岡山県の考古学」をみつけました。

遺跡発掘を通じて浮かび上がる先史から縄文・弥生 そして 古代・中世・近世にいたる岡山県・吉備国の 状況が本当に良く整理された貴重な名著である。

わからなかった牛窓海岸の縄文時代の様子ならびに瀬戸内海誕生前後のこの地方の地形変化などを知ることが出来ましたので、この資料から読み取った縄文草創期黄島貝塚など牛窓周辺の様子を取りまとめました。 また、吉備国の製鉄遺跡や製塩業についても良く整理されていて、古代の吉備国を理解する貴重な資料でもありました。

また、杉山一雄氏「環境変化と縄文人」には縄文海進と呼ばれる激烈な環境変化の中で生きる黄島貝塚を中心としたこの周辺の縄文人の生活の様子が生き生きと記述されているのをインターネットで見つけたので黄島貝塚を中心とした縄文人の生活変化を示す資料としてあわせ整理した。

1. 瀬戸内海の誕生を示す縄文のモニュメント 牛窓 黄島・黒島貝塚

牛窓海岸の小島 黄島・黒島の貝塚は縄文草創期 瀬戸内海誕生を示す貴重な遺跡

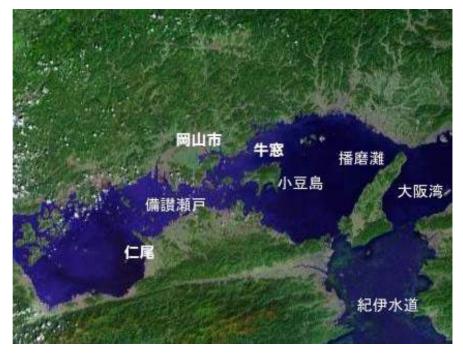




約一万年前に氷河期が終わり沖積 世になると、地球は温暖化し氷河 の大部分が溶けて海水面が上昇し た。

これによって大陸と陸続きであった日本は次第に孤島化し、それまで陸地であった瀬戸内海にも海水が流入し始めた。瀬戸内海の沿岸部や島々には旧石器時代の遺跡が点在し、海底からは旧石器人達が狩りの対象としたナウマンゾウやニホンムカシジカなどの動物化石が引きあげられている。

海水が流入する以前の瀬戸内を想像すれば、中・四国山地から河川



が流れ込んで湖沼ができ、水辺には動物が集まり、人々は狩りに適した 丘の上で生活をしていたと思われる。 この海水の流入状況をよく示す遺跡として、岡山県牛窓沖の黄島貝塚と黒島貝塚がある。

これらの貝塚では、食べた貝の種類が半淡水産から海水産へと変化しており、約8000年前の縄文時代早期に 海水が流入していた様子がわかる。

海面の上昇は約6000年前の縄文時代前期ごろまで続き、現在のような瀬戸内海ができたものと考えられる。

瀬戸内海をはさんで対岸の四国側仁尾町の海岸の小さな島にある小蔦島貝塚は8000年~4000年前頃の押型文土器を出土する香川県最古の遺跡で、瀬戸内の縄文式土器のサンプルケースとして岡山県牛窓町沖にある黄島貝塚と共に学術的にも重要な遺跡である。

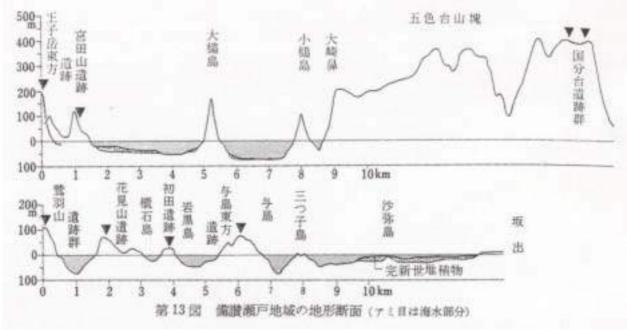
ここでは、最深部に汽水域に生息する大和蜆の貝殻が採集されるが8割は海水に生息する蛤が主体、黄島貝塚や隣りの黒島貝塚とは全く逆である。

現在は仁尾町沖800mの海上に大蔦島と並んで浮かんでいるが8000年前までは燧灘を背にした荘内連峰の山頂部で、海水が浸入するとともに汽水域から内海へと姿を変えていった。

2. 瀬戸内海誕生の歴史と黄島・黒島貝塚

縄文の海進が始まる以前 瀬戸内海は四国と本州側の山々の間に広がる大平原だった

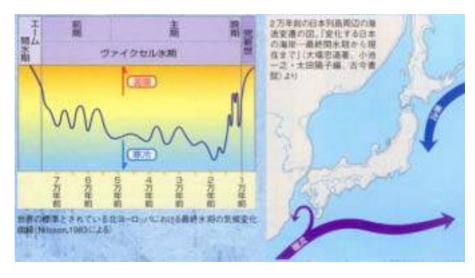


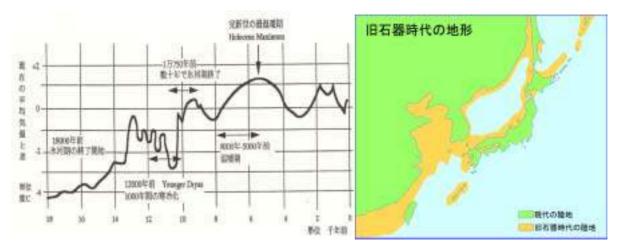


今から約 20000 年~12000 年前にかけての先史の時代に地球は長い氷河期が終了し、温暖化が始まる。 この頃 海水面は現在より、約 100m ほど低く、日本は大陸と地続きで、この比較的温暖の地日本に多くの人

や動物がわたってきた。 (但 し、対馬海峡と津軽海峡はつながっていなかったと云われている。)

大阪湾や瀬戸内海は陸地化しており、紀伊半島から四国に連なる海岸線が形成され、温暖化の方向に向くとはいうものの気温は現在よりも約6 ほど低く、現在の北海道 十勝平野あたりに近い気候だったと考えられている。





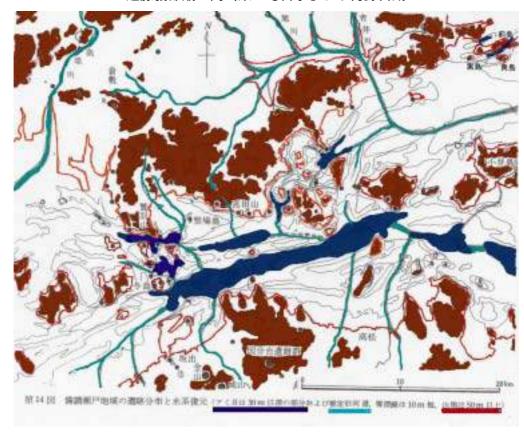
氷河期終了と年平均気温の変化

備讃瀬戸から東の瀬戸内海に目を転じて、 この頃の地形を現在の地形図から推定してみると、瀬戸内海は完全に陸地化し、本州側の鷲羽山や児島半島の山々と四国の山々の間に挟まれ、現在は島となっている丘や幾つかの湖が点在するた広い平原が広がっていたと考えられる。現在の瀬戸内海は備讃瀬戸の山々が分水嶺となって 東西に分けられ、備讃瀬戸の山々や、本州側・四国側からこの平原へ向って幾つもの川が流れ込み、本流となって、東へ流れ下り、紀伊水道で太平洋に注いでいた。そして、温暖化の進行と共に降雨量も多くなり、山から運ばれた土砂が流れ下る川の流域に堆積して、潟湖や平野部が次第に出現して行く。また、温暖化が進むにつれ、瀬戸内海の東西の入り口紀伊水道・豊後水道から海水がこの平原の中に流れ込み、縄文早期には 播磨灘や西の燧灘が汽水湖となり、さらに急速に海進が進んで行く。

この瀬戸内東部では大阪湾・そして 播磨灘・児島半島など幾つかの半島も海に浮かぶ島となり、この平原 全体が海となり、備讃瀬戸の分水嶺もつながって、現在にほぼ近い瀬戸内縄文時代の海岸線が完成して行く。

【新石器時代から縄文草創期 約2万年前~12千年前の瀬戸内東部イメージ】

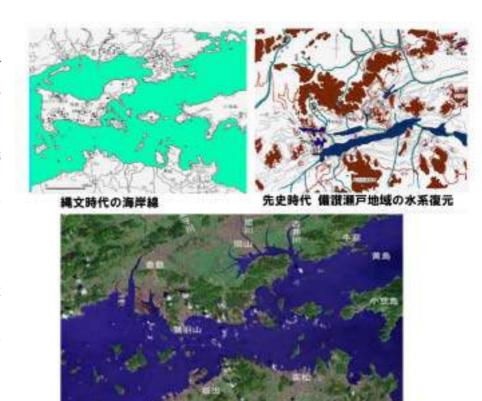
近藤義郎編「岡山県の考古学」より再録合成



ここに住む人たちはこの平原を 狩猟の場として生活していたと 考えられ、先史の時代につなが る縄文草創期にはこの平原を見 下ろす台地の上やその周辺に貝 塚などの痕跡が見られる。

そんな縄文草創期の生活の痕跡が牛窓海岸の黄島貝塚や黒島貝塚 また 備讃瀬戸の分水嶺の西側四国側から北に延びる半島の山裾に仁尾町の小蔦島・蔦島貝塚などである。

牛窓の黄島貝塚や黒島貝塚では ほぼ8割が淡水系残りが汽水・ 海水系の貝殻が堆積し、その底 部層から上層部へヤマトシジミ など淡水系から汽水・海水系貝 殻への遷移が見られ、そして 海水がさらに上昇する縄文中期 には放棄されるという。

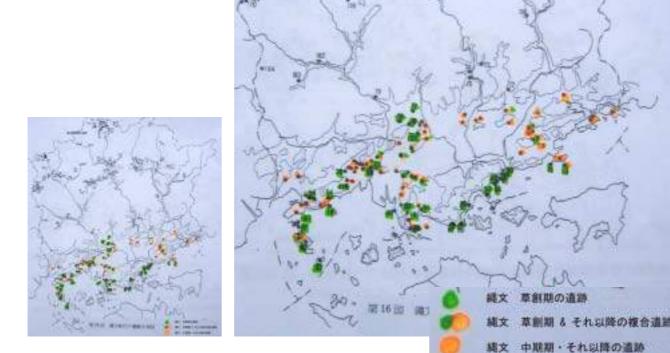


備讃瀬戸地域の瀬戸内海の変遷推定

一方 同時期にある仁尾町小蔦島貝塚では約8割がハマグリなど海水系の貝殻で同じように底から上層へ淡水系から海水系貝殻への遷移か見られるという。

この平原の中にも数多くの生活痕跡があったと考えられるが、現在はよくわからない。

これらの事から 瀬戸内に海水が流入し、次第に水位が高くなって行く縄文草創期・前期の様子が明らかになり、海水の流入と共に生活の場が瀬戸内から背後の山へと生活の場を移して行く様子が読み取れる。



縄文早期 海岸部から内陸への遺跡移行 活動の場

活動の場が瀬戸内平原から内陸部へ

3. 環境の変化と縄文人 (グラフおかやま 1997 年 6 月号より転載)

古代吉備を探る 大地からのメッセージ(3)

文/岡山県古代吉備文化財センター 杉山一雄

http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/sagu3.htm

長く寒かった氷河期も、今から一万二千年前には地球規模での温暖化とともに終わりを告げた。それに伴って、旧石器時代以来人々の生活を支えていた環境も大きく変わっていった。

陸上では、針葉樹に代わって落葉広葉樹がその範囲を拡大し、果実や木 の実を枝に実らせた。

それは人間だけでなく動物たちにとって安定した食料源となった。

また、それまで川や湖沼のあった瀬戸内海は、紀伊水道と豊後水道から 徐々に海水が入ってきて、その中に豊富な魚介類を育んだ。

こういった環境が、これから約九千年間続く縄文時代の狩猟・漁労・採集生活を支えていく。

岡山県で縄文土器を伴った縄文人の生活がうかがい知れるのは、約九千年程前になってからだ。

現在瀬戸内海に浮かぶ牛窓町黄島の標高約三十メートルの台地上には、このころの貝塚が残っている。

小高い丘の上で周囲が見渡せる立地は、そのふもとを歩く動物たちを一望でき、すぐさま弓矢や槍を手にとって狩りに飛び出していける。近くを流れる小川ではシジミなどの貝が取れ、それらを土器で煮て食べていたのだろう。そんな生活も海水面の上昇によって大きな転機をむかえる。

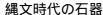
今までふもとの草原に生い茂っていた草木は枯れ、それをえさにしていた小・中型動物たちはえさを求めて 内陸部へ移動してしまった。当然、その動物をえさ にしていた大型動物も次第にその姿を消していった。 それでも、黄島の人々は海水に棲むハイガイ・ハマグリといった貝や魚を取って生活を続け、何とか新しい 環境での生活を模索していた。しかし、次第に広がっていく海に対してますます減っていく動物のために、住み慣れた土地を捨て生活の場を内陸部に移していった。

このころ中国山地の山間部ではどういった生活をしていたのだろう。

蒜山高原にある川上村中山西遺跡や城山東遺跡などでは竪穴(たてあな)住居とそれから離れた丘陵の縁辺部に百基近い落とし穴が確認された。

このことから、ここで暮らしていた縄文人は一人で動物を追いかけて狩りをするだけでなく、動物を集団で落とし穴に追い込んだりしていたようだ。







矢部貝塚の貝層

また、津山盆地にある津山市大田西奥田遺跡や鏡野町竹田遺跡でも竪穴住居が見つかっている。 これらは、居住地の規模の大小はあるものの、周囲に豊富に存在する山の幸と河川の資源を活用して、定住 生活を営んでいたことを物語っている。





大田西奥田遺跡と同時代の土器

大田西奥田遺跡の竪穴住居

しかし、安定していると思われた山間部も、やはり気候の変化や動物のとりすぎなどの理由で六千年前ごろには居住地を移したようだ。

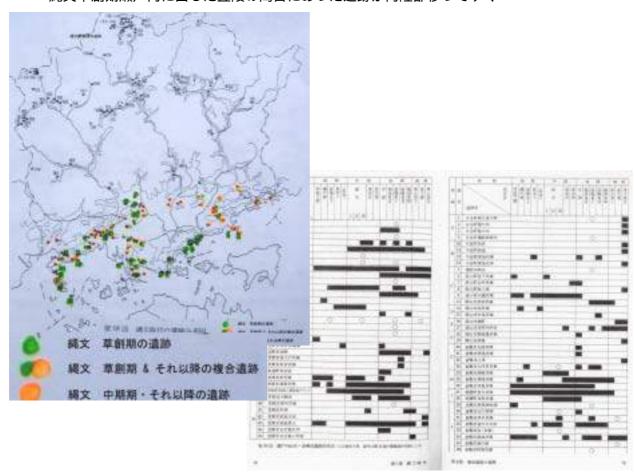
これ以降には、次第に平地に居を構える人々が増えている。山間部の様子はまだよく分からないが、沿岸部では倉敷市羽島貝塚・福田貝塚といった大規模な貝塚が多く残されている。

県南部の足守川下流で、約四千年前に営まれた倉敷市矢部貝塚からは約八十箱の貝や動物・魚の骨が出土しているので、この中を見てみることにする。

シジミを主体とした貝類に混じって、哺乳類のイノシシ・シカ、魚類のスズキ・クロダイ、爬虫類のヘビ・スッポンなど多くの種類の動物が見られる。

九千年前には環境の変化に戸惑っていた縄文人も、周囲の環境に慣れて、食卓がにぎやかになったようだ。

近藤義郎編「岡山県の考古学」より 岡山県 瀬戸内沿岸部と山間部の縄文遺跡 縄文草創期瀬戸内に面した丘陵の高台にあった遺跡が内陸部移ってゆく



4. 牛窓湾を囲む五つの巨大古墳の謎?

弥生時代から古墳時代へ 土器製塩と古墳群が語る牛窓

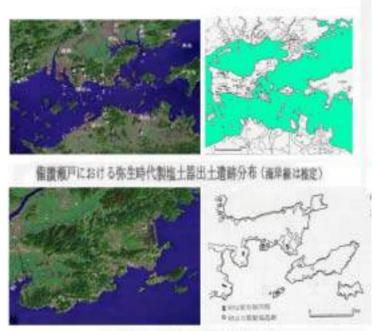
「 岡山県の考古学 土器製塩 」 より

牛窓には、黄島と黒島に縄文時代早期の 貝塚が残され、牛窓湾を取り囲むように、 5つの巨大な前方後円墳がある。



天神山、黒島、波歌山(墓山) 鹿歩山、 二塚山のことで、いずれも、4世紀後半 ~6世紀にかけてのものである。

5、6世紀には瀬戸内を通って、大和へいたる内海航路の大きな港がここにあった。



生窓町の前方後円墳の分布 牛窓町の土器製塩遺跡と前方後円墳の分布

牛窓の地には、早くより人々の生活が始まり、ここを拠点とする大きな勢力があったと考えられている。 弥生時代中期後半西日本の他の地域に先んじて、土器製塩が児島で成立し、この地域に広がって行く。

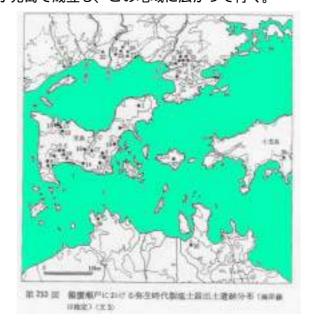
炉跡や作業場などの遺構はまだ見つかっていないが、焙煎 用の土器が知られている。

そして、弥生時代後期になると児島よりむしろ本土沿岸部の農耕集落の一部で盛んに製塩が行われるようになる。そして 集団間の交易に使われ、備中北部や美作に運ばれたと考えられる。

それが、古墳時代になると日生鹿久居島や牛窓半島とその 周辺など農耕のできないような海辺の谷間や島々の小さな 浜での土器製塩が行われるようになり、農耕集落から離れ た専業化の第一歩と見られる。

そして、古墳時代後期にはこの地域(岡山・香川にまたがる 備讃瀬戸地域)での製塩は益々生産地を拡大しつつ、7世紀 まで続く。

生産された塩は地域ごとに首長の下に集められ、畿内や他の集団に運ばれたに違いない。

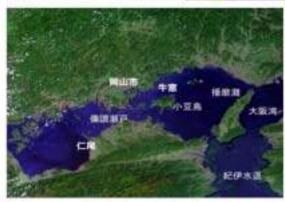


牛窓では農耕に不適なこの土地で、古墳時代前期以来畿内中枢政権との結びつきのシンボルである前方後円 墳が築かれており、かつ海辺には数多くの土器製塩遺跡含む遺跡がみられることから、この地の首長が漁民 と塩民の集団を基盤として権勢を誇っていた事がうかがえる。

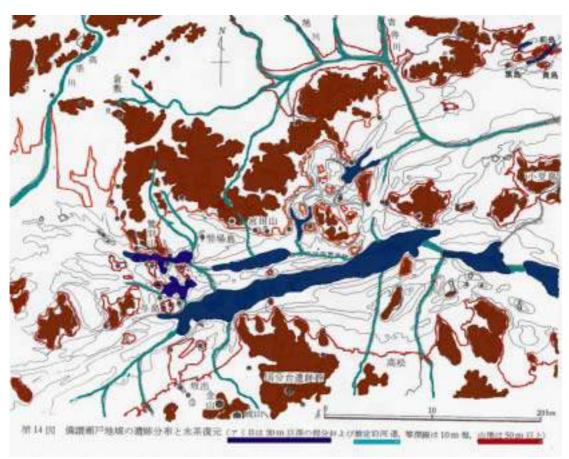
7世紀になると他の地域などで塩田や煎塩鉄釜が出始め、この地域での土器製塩は衰退してゆく。

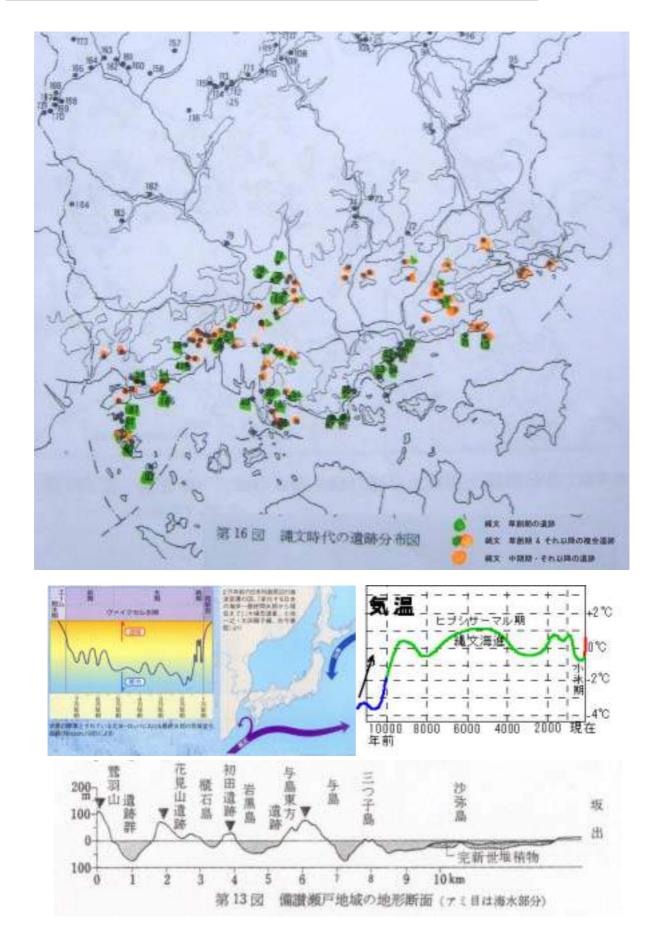
縄文草創期の備讃瀬戸地域 瀬戸内海の誕生と牛窓 黄島貝塚

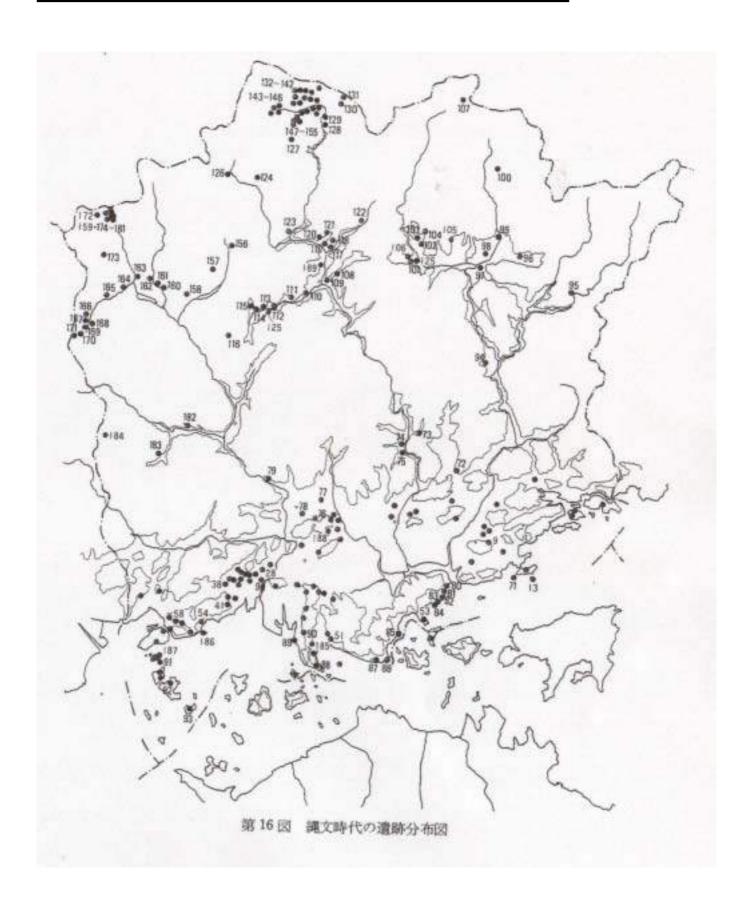


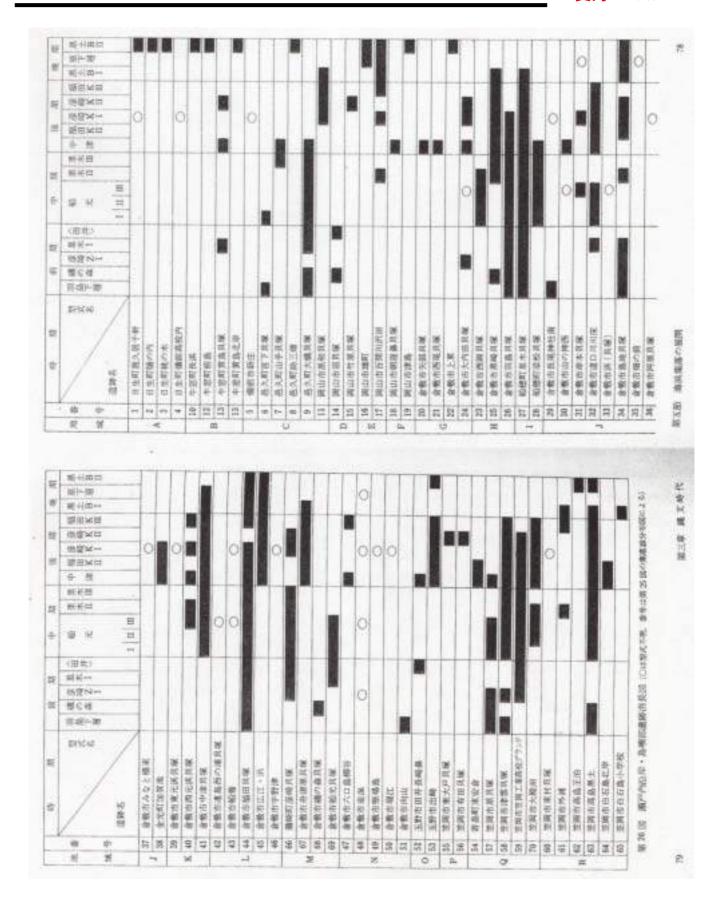


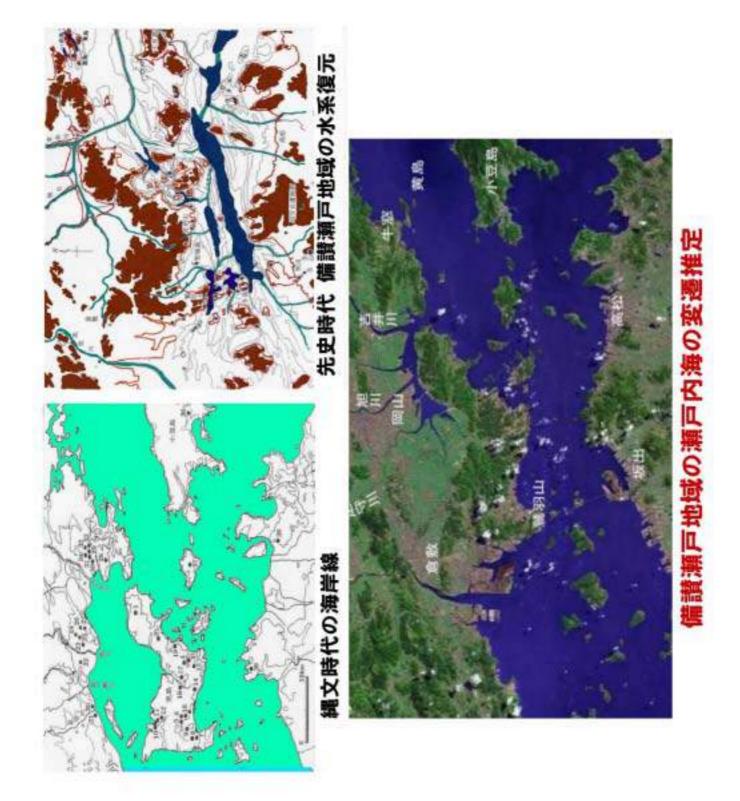


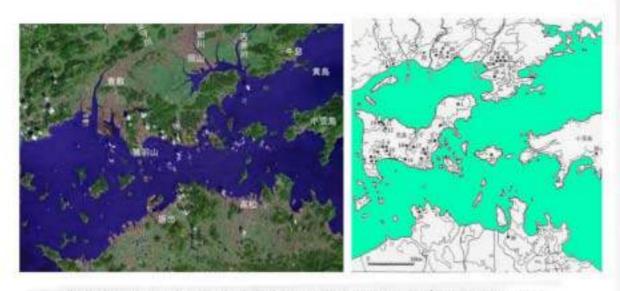












偏讚瀬戸における弥生時代製塩土器出土遺跡分布(海岸線は推定)



牛窓町の前方後円墳の分布 牛窓町の土器製塩遺跡と前方後円墳の分布

9 15		4				
101						
5161717171717			13			
					0000	
6.5						
-						
515171						
4 1						
-						
2 3 13					等代製塩土:	B出土遺跡分布()
212		10-	John .	18/1	3	52. The
80		S. S. S.	· Cirk			
			11 1 17	1	(i) .	The second
.0		520	1		1	
4	4	0	2 N 3		25	500
103				· Asset		Care
	51515151714 1 1 2 3 1212 8 6 4	12 ⁷ 151515151714 1 1 2 3 1212 8 6 4	12 ⁷ 151515151714 1 1 2 3 1212 8 6 4	127 151515151714 1 1 2 3 1212 8 6 4 4 6 6 4 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	8 21212 2 11 1 7 2 3 12 1	# 9

瀬戸内海の誕生と縄文の海進【1】神戸大学 内海域環境教育研究センター「内海域を学ぶ」資料ほかより整理



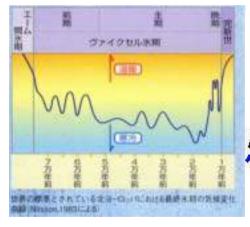
約2万年前 長い最終氷期極大期海面は今より-120~-130mの高さにあった。氷河期が終わり、間氷期の温暖化が始まると、氷床として蓄えられていた真水は

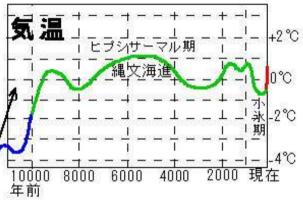
一気に融けて海に戻るため、海水面は 100m 以上も上昇する。

その上昇速度は「地球温暖化」の予測値よりずっと早く、その上昇速度は 3m/100y になる時期もあるといわれる。

この海面上昇過程で 日本海に海流が流れ込むようになり、また、瀬戸内海が形成され、また、もっとも海面が高くなるのが、約 5000 年前頃の縄文時代(前期の終わり頃)であり、この縄文時代の海面上昇を「縄文の海進」と呼ぶ。

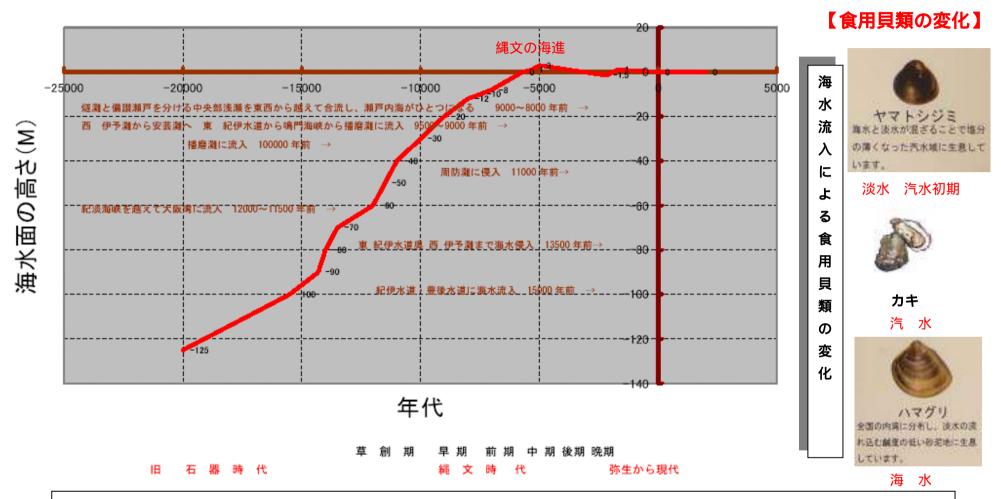






瀬戸内海の誕生 約 15000 年前に紀伊水道と豊後水道に太平洋から海が侵入し始め、13500 年前には紀伊水道の奥、伊予灘にまで到達。海は 12000 年前~11500 年前の間に友が島水道を抜けて大阪湾に入り、10000 年前~9500 年前の間には明石海峡を通って、播磨灘に抜ける。鳴門海峡のバイパスは 9500 年前~9000 年前の間に成立する。そして 9000 年前~8000 年前の間に東西の瀬戸内海が一つに合体。5700 年前には今とほぼ同じ姿の瀬戸内海が成立する。

瀬戸内海の誕生と縄文の海進【2】神戸大学 内海域環境教育研究センター「内海域を学ぶ」資料ほかより整理



瀬戸内海の誕生 約 15000 年前に紀伊水道と豊後水道に太平洋から海が侵入し始め、13500 年前には紀伊水道の奥、伊予灘にまで到達。海は 12000 年前 ~ 11500 年前の間に友が島水道を抜けて大阪湾に入り、

瀬戸内海の誕生と縄文の海進【3】 神戸大学 内海域環境教育研究センター「内海域を学ぶ」資料ほかより整理

縄文の改進による海面の上昇は 5000 年 ~5300 年前にピークとなり、その頃には 現在の海面より 1~3m高くなる。その後 いったん海面は現在より約 1m 低い位置 まで下がるが、その後再び上昇して、1700 年前に 1m高とあがり、また 下がって現在に至る。

このもっとも海水面が上がった時の海岸 線はどんなふうであったのか・・・・・ 正確ではないが、現在の地図の等高線か らほぼ推測される。

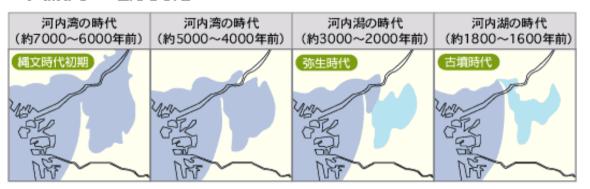
右の地図の黄色い部分が水面下にあった と考えられている。



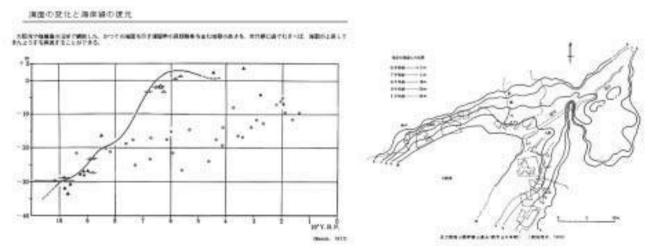
- 1. 大阪では現淀川の奥 生駒山の麓まで湾が広がっていた。そして、この湾にはクジラが回遊していたという。(弥生時代にはこの湾は淀川・大和川など河川の 流入により汽水湖の河内湖となる。)
 - 大阪の西 尼崎周辺では 現在の阪急線あたりが、猪名川の河口であった。そして、阪神間では現在の国道 2 号線のあたり、御影あたりでは国道 43 号線のあたり、神戸の市街地中心部ではぐっと内陸部に入り込み須磨海岸で現在の海岸線に近づく。
- 2. 吉備の児島半島・島根半島は島で本州から分離しており、その後の河川流入による度主の堆積と海の後退により地続きになるのはづっと後である。



●大阪湾の地形変化







神戸の自然シリ・ズ 「六甲の森と大阪湾の誕生」ほかより

【 参考 琵琶湖の成立ち】

海域

淡水域

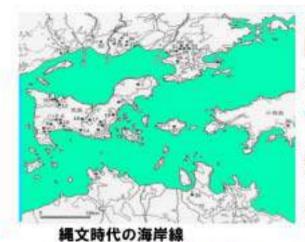
琵琶湖は、カスピ海やバイカル湖などとともに、「古代湖」として自然史上とっても貴重な湖の一つです。「古代湖」とは、数十万年以前に誕生した寿命の長い湖のことで、世界にわずか 10 カ所ほどしか確認されていません。最初の古琵琶湖は、現在の上野盆地(三重県)あたりに誕生したことがわかっています。古琵琶湖は、その後 400 万年かけて、大きくなったり消滅したりしながら北へ移動し、現在の位置にたどりつきました。

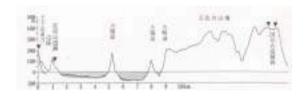
およそ 100 万年前、現在の堅田丘陵付近に小さな湖(堅田湖)ができました。約 40 万年前、堅田地域と琵琶湖の間にある断層の活動で、堅田丘陵は隆起し、断層の東側が落ち込むことで琵琶湖が姿を現しました。現在の琵琶湖の誕生です。琵琶湖の湖底はどんどん沈降し、やがて現在のような深くて広い琵琶湖が形成されました。したがって、最終氷河期以降の海進による列等形成と琵琶期の成り

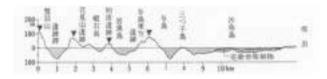
立ちとは直接の関係は見られない。

瀬戸内海の誕生と縄文の海進【4】

瀬戸内海を東西にわけ、瀬戸内海誕生の痕跡を色濃く残す分水嶺 備讃瀬戸







先史時代 備讃瀬戸地域の水系復元

備讃瀬戸周辺の地形 断面図









2005年 風来坊 Country Walk

山 歩き

風来坊 Country Walk ・ 山歩き

- 1. 山岳 宗教の歴史を秘めた九州の霊峰「英彦山」
- 2. 写真アルバム 若狭・北近江国境の赤坂山・三国山 Walk 日本海側から琵琶湖・近江へと続く古代和鉄の道・Iron Road
- 3. 写真アルバム 「薩摩富士 開聞岳」

By Mutsuo Nakanishi

┃ 山岳宗教の歴史を秘めた九州の霊峰 英彦山







英彦山と書いて「ひこさん」と読む。

1.

九州北部 福岡県と大分県の県境に聳える高さ 1200 メートルとさほど高くはないが、険しい修験道の山。

北岳・中岳・南岳の3つの峯を持ち、急峻な峯の周囲には原生林が広がる。中岳の頂上に英彦山神宮の社殿があり、北麓の添田町の登り口には大きな銅鳥居があり、ここから延々と中岳社殿まで参道が続いている。

また、東側の北岳から中岳・南岳を経て鬼杉に下り、ベース の銅鳥居のところに戻る縦走路が整備されている。英彦山の 名前と歴史にあこがれ、是非とも登りたい山のひとつでした。



英彦山中岳頂上 英彦山神宮上宮

6月19日 朝早く山口美祢の家をでて、家内と二人登ってきました。

「高さ 1200 メートルでたいしたことなし」と思っていましたが、そこは修験の山 登山口の英彦山神社の銅の鳥居から一気に頂上まで標高差 700 メートルを階段状でほぼまっすぐ延々と続く直登り、下りは南岳から一気に鎖場が続く急峻路。一気に 700 メートルの登り下り ヒザが弱い中年には堪えました。でも さすが霊場 素晴らしい巨大木の杉・ぶな林 あんな大きくて高い杉見たのは記憶になし。また、南岳の上からは南に展開する九州の主だった山々を見ることが出来て満足でした。



原生林



鎖場が続く南岳からの下り



巨大な鬼杉

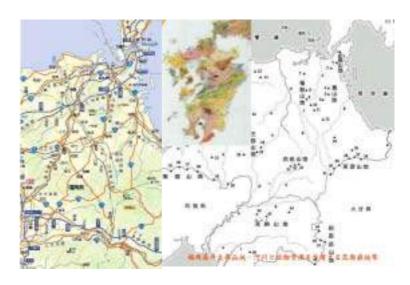
英彦山の縦走路で 2005.6.19.

「修験道」とは ものの本によると「厳しい 自然の中で心身を鍛練して 超自然的な「験」 の能力で人間の悩みを解決する」といい、 素 朴な山岳信仰に陰陽道 仏教 神道がくわわ り、日本独特の宗教になった。

修験道の山は日本各地にあるが、英彦山は「出羽の羽黒山」「大和の大峰山」と合わせ、「三大修験道の山」と称される。また、「彦」の名を持つ霊山のうち、越後の弥彦山 播磨の雪彦山とともに「三彦山」とも呼ばれる。

これらの山は古代にすでに開山された歴史を 持ち、修験の人たちが古来 鉱物探査などの 役割を担ったともいわれ、修験の山の近傍か らは鉱物資源が採取された歴史を持つ。

この英彦山を盟主とする福岡県と大分県の県 境を東西に広がる山群は多くの鉱物資源を埋 蔵する日本有数の花崗岩地帯であり、弥彦山



福岡県の主要山地・河川に鉱物資源を含む九州の花崗岩地帯を重ねて 【参 考 和鉄の道】

3. 鉄の6世紀 北九州の装飾古墳に和鉄の道を重ねて

http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/sosyoku00.htm

の北側の登り口 添田町には今も「採銅所」の地名が残り、また、3世紀日本最古の金属工房(庄原遺跡)も出土している。 これらの山群から流れ下る川の流域は弥生・古墳時代 朝鮮半島と一体となった日本文化の先進地であり、「鉄」についてもこの地のどこかで、いち早く製鉄が試みられたのではないかと思っている。そんなこともあって、是非とも登ってみたい山の一つであった。

山口を朝早く出発して 関門海峡を渡って 小倉南 IC をでて、田川・香春へ向かって、九州のカルスト台地 平尾台を眺めながら南下。山間を抜け街中に大きなセメント工場が見えてくると香春町。さらに南下すると まもなく遠賀川の上流彦山川の土手にでるともう英彦山の麓添田町。左手に田川市からの日田彦山線も酔ってきて、山間に入って行くと程なく JR 彦山駅。ここから左に折れて道路標識に従って、山を登って行くとほどなく、英彦山の神宮下。 大きな銅鳥居の前に出る。関門海峡を渡って約2時間弱のドライブである。

1. 英彦山神宮 銅鳥居登山口から参道を中岳頂上へ



今日はガイドブックお勧めの銅鳥居のところから、英彦山神宮の参道をまっすぐ中岳へ直登して南岳から鬼杉へ下るコースをたどる約 8Km のコース。

この英彦山の参道登山路は古代から延々と続く英彦山詣の参道で、高低差約700メートルを長い階段状の参道と階段状の山道が頂上まで延々と続く。

下りは中岳から南岳にでて、そこから一気に鎖場の続く山道を 400 メートル下って巨大杉のある鬼杉へ下る。 変化に富んだこれぞ修験の山と感じるお勧めのコースという。

10 時少し前 銅鳥居の前から 登りだす。見上げる銅鳥居は重要文化財。

「英彦山」の金文字が輝いて、この山の周辺が銅の産地であったことを示している。

そういえば 吉野山金峯山寺にも銅の大鳥居があった。 鳥居から英彦山神宮の下宮・奉幣殿まで、約1Km 山に向かって、まっすぐに石畳の参道が登っている。

参詣道の両側は緑に包まれ、ちょうどアジサイが咲いて美 しい。春には桜が参道を彩るという。

「神宮下」の大きな鳥居からは参道は石段にかわり、一層傾斜がきつくなる。両側には次々と宿坊跡があり、杉木立に次第に変わる。日曜日の朝であるが、ほとんど人影なく静かな参道に日が差して一層緑が美しい。

歩幅と石段があわないので、 だんだんきつくなっていやに なってくるが、石段は延々と 上へ続き、30分程で赤い奉幣 殿の社殿が見える。昨年の台 風と地震の被害の修復作業中 で、社殿には行けない。社殿 の直ぐ上の崖が崩れていた。







英彦山神宮 奉幣殿へと延々続く参道 2005.6.19.



振り返ると登り口ははるか下。高度差約 200 メートル一気の参詣道。往時 は宿坊が立ち並び、多くの人が行き交ったのだろう。

ここが英彦山神宮の下宮であるが、緑の杉木立に囲まれ、英彦山の山頂は 見えない。

ここで、やっと石畳の階段道が終わるが、急な上り坂の山道が杉木立に包 まれた尾根筋をほぼまっすぐ頂上に続いている。

やつと山道になって 階段から開放されると思いましたが、やっぱり 道は急な階段状の山道が素晴らしい杉木立の中を登って行く。

神域で昔から保護されてきたのであろう本当に背の高い杉の巨木があちこちに立ち並び、視界は開けないが、素晴らしい緑の中の山道で疲れを感じない。















英彦山 中岳上宮へ続く階段状の参道と次々現われる杉の大木 2005.6.19.

参道脇のあちこちで杉の巨木が折れたり、倒れ掛かったりしているのが目に付く。昨年の台風のすさまじさか。。。。。 でも、折れてコケがついているのもある。

時折、ペンガラ色に染まった登山道が現われる。 おそらく 鉄分の多い場所でしょうが、三輪山のように 砂鉄がないか 目を凝らすのですが、砂鉄はなし。

また これだけ良く整備された延々と続く階段状の参道。何百年に渡って整備されたのでしょうが、何処からこの大量のしかも形の整った石を運んだのか・・・と。この疑問は南岳からの下りで随所で見た「材木石」と呼ばれる「柱状節理」の岩の露頭ですぐ溶けました。この英彦山は昔 マグマが噴出しゆっくり固まった溶岩台地 柱状節理の岩の山。形が整った石は山のいたるところにあり、急峻な岩山 そして豊富な鉱物資源が埋もれる山であるのもこれがルーツか。

そういえば 参道脇の岩も小ぶりの形の整った岩が多い。



ベンガラ色した土がみえる参道 2005.6.19.





南岳から鬼杉への下りで見た安山岩柱状節理の岩の露頭「材木岩」 2005.6.19.

奉幣殿から約1時間ほどで、杉木立の中を抜け、稜線部にでると空の見える傾斜のゆるい道となり、ほっとする。中岳への参詣道の中間点 中津宮。 英彦山の頂上部や風倒木の多い原生林を楽しみながら進むと「下乗」の碑。



昔 ここで入山の銭を取った関所跡でここから先はみんな歩いたという。ここからまた階段が続く登りとなり、水場と産霊神社が祭られている広場をすぎるとまもなく突然に上宮社殿の前に出る。 社殿のみが乗る小さな頂 中岳頂上である。



原生林越しに中岳の稜線が見える 2005.6.19.





中岳頂上周辺

昨年の台風・地震の影響か 社殿の石組など損傷が激しい。頂は神域 社殿が乗るのみで空は開けているが、展望が利かない。

社殿の裏 直ぐ東側に下りた小さな広場に中岳山頂のモニュメントがあり、 数組のグループが昼食を取っている。ここも木々に邪魔され、余り展望が利 かない。簡単に握り飯をほうばって南岳へ

上宮の社殿から吊尾根を一端鞍部に下って ちょっと登り返すと南岳頂上。 スタートから 2 時間半ほど 英彦山の最高峰 1200 メートルで展望台があり、 九州一円の山々が広がる大パノラマがみられる。



中岳 頂上







中岳・中岳と南岳の鞍部

南岳

2.南岳 頂上からの展望と鬼杉へ

鶴見 由布岳

久住山 阿蘇山 岳滅鬼山



南岳 展望台から 九州の山々の展望 2005.6.19.

英彦山の東南面を中心に 日向灘から日田盆地とその背後の九州脊梁の山々 がかすんでいる。 鶴見 由布岳 久住 阿蘇山など 展望台の展望表示と見比べて 山の特定を楽しむが、自信なし。 また、手前左にはきれいな三角形をした山がみえるが、苅又山か。。。

良く整備された参詣道を登ってきたので、急坂 階段状の山道を登ってきたので、修験道の厳しい山を登ってきたとの印象は薄いが、展望台に登って周囲を見渡すと、頂上や稜線の狭さなど、山の急峻さがわかる。

九州の山の展望を楽しんだ後、鬼杉に向かって いよいよ下山にかかる南岳の頂上からの下りもい きなり鎖場。地図ではたいした下りにみえないの ですが、山道というより、崖の岩の間を下ってい る感じである。

南岳の頂上から 400 メートルを一気に降りる。 一気に修験の山を実感する。鎖としっかりした道 がついているので、心配はないが、あちこちの岩 や鎖を持ちながらの下降で、緊張する。









南岳から鬼杉へ 急峻な下り・鎖場で

2005.6.19





英彦山の南岳周辺の岩峯が林立する谷と鬼杉への下り縦走路

南岳からの急峻な崖の下降の向こうには深い谷が広がり、所々に急峻な岩峯が見え隠れして素晴らしい。参詣道とは異なる修験道の山の形相である。

急な下降をしながら道はまた深い森の中に入り込み、30分ほどで安山岩柱状節理の露出した「材木岩」の 横を下る。







安山岩の柱状節理がろしゅつした「材木岩」



いったん斜面に出ると右へ英彦山の中腹を巻きながら奉幣殿へ戻ってゆく道と鬼杉へさらに下る道の分岐。鬼杉への道を選択して、さらに急峻な下降道を進む。



奉幣殿への分岐周辺

大南神社

崖の岩やの中にある大南神社の横を下るとほどなく巨大な天をつく杉が立つ山の斜面に囲まれた窪地に出る。 もう 杉の大きさに唖然とする。 南岳の頂上から約1時間ほどで天然記念物鬼杉。

3. 天然記念物 「鬼杉」







天然記念物「鬼杉」 樹齢 1200 年 樹高 38m 幹周り 12.4m 根まわり 14m 途中で折れるまでは高さ 7.0 m だったという







売 形 この杉は、県下で最も大きな巨木です。木の周囲は、12.4M、高さは 上半 分が倒れた現在の状態で38Mあり、 樹令はおよそ1.200年と推定され、 今では国の天然記念物に指定された古 い英彦山の、生きた記録の一つです。 福 間 県 太さにもびっくりするが、見上げる高さにはただただ唖然とする のみ。何とか全体を写真に収めようとするが無理。

「昔 鬼がこの山を退散する時に、

持っていた杖を土に突き刺し、それが芽をだしたもの」 との伝説がある。

ほかにも背の高い杉の巨木がこの英彦山には林立しているが、 圧倒的に大きい。幹の太い巨樹は多いが、こんなに高い巨樹を意 識したのはこの英彦山が始めて。これだけ大きければ、縄文の森 も納得できる。

4. 鬼杉から巨大な杉林の中を玉屋神社を通って奉幣殿へ

この鬼杉のところからさらに下へ林道を通って JR 彦山へ行く道があるが、西の尾根に取り付いて、小さな尾根筋を越えて英彦山の山腹をまきながら奉幣殿に戻る道を選択。

今までの急峻な下りから、多少の上り下りの尾根越えはあるものの素晴らしい杉林の中の緩やかな山道を 歩く。

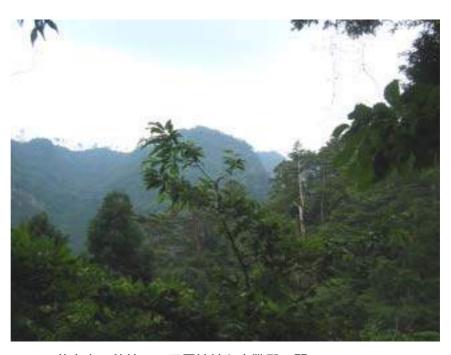




鬼杉から奉幣殿へ

玉屋神社と周辺の素晴らしい杉林

急峻な上り下りでは緊張していて さほど気にならなかった膝が緩や かな山道になって堪えてくる。



英彦山の稜線 玉屋神社と奉幣殿の間で

鬼杉から1時間30分程で赤い奉幣殿の社殿が見え、奉幣殿の横で中岳への参道と合流する。これで、終わりだといいのですが、ここからまた、延々と続く下り階段の参道道。もう 膝が動かない。 奉幣殿参拝の数組の観光客が同じように下っめているが、みんな立ち止まったり、ふうふう言っている。 小さな子供が「もう 歩けない」と泣いている。こっちも同じである。 みんな 石鳥居のある神宮下の駐車場の方に曲がってゆくのが恨めしい。 膝がくがくの中 やっと銅の鳥居のところに来て、一日の登山が終わった。

5. 英彦山で見かけた初夏の山の草花







初夏 山道に赤い花を敷き詰める「ベニドウダン」







白いドウダン

???????

フタリシズカ

6. 一度の彫りたかった修験の山 英彦山に登って

低山でたいしたことないと思っていましたが、高低差 700mの急峻な上り下り さすが修験の山。 緑の原生林の森に勇に高さ 30 メートルをも超えてまっすぐ林立する杉の巨樹の群れ、中でも巨樹「鬼杉」に もビックリ。

縄文の巨樹が作った「森の文化」に使われた巨大木 「本当にそんな高い巨樹があるのか・・・・・」と疑っていましたが、「鬼杉」をはじめ、この英彦山の原生林に林立する巨樹群を見て納得です。 修験の山であるがゆえに守られてきた森 今後も開発の手が伸びずに守られることを願う。

また、修験の山と鉱物資源 きっても切れない関係に「鉄のルーツ」の夢を重ねて歩きましたが、思いもかけずさまざまな自然にあえて、一層の夢を書き立てられています。

急峻な岩峯に見る溶岩台地の痕跡とこの山に「鬼」がいた「鬼杉」の存在。

マグマが造った柱状節理の露頭が見せる「材木岩」

その岩を敷きつめて延々と中岳へ続く階段道の参道

登山道のあちこちに見るベンガラ色の土。

さらには麓にある青銅の銅鳥居と「採銅所」の地名等々。

そんなことを考えながら、遠賀川の上流 彦山川沿いを添田の街へ 長い修験の歴史が随所にみられた静かな山歩きにきつかったですが、満足の一日でした。

2005.6.19. Mutsu Nakanishi

写真アルバム 若狭・北近江国境の赤坂山・三国山

湖北 古代鉄の郷 マキノの北の壁にそびえる赤坂山・三国山の連山 2005.8.29.

朝鮮半島・日本海側から琵琶湖・近江へと続く古代和鉄の道・Iron Road











福井県若狭嶺南地方と湖北とを分ける連山である。

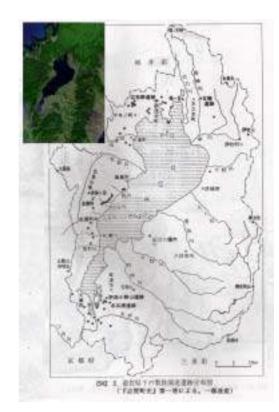
若狭の海岸からこの山塊を越えて琵琶湖・近江を経て、大和・京都に出る大動脈で、古代の北陸道は琵琶湖からマキノの里を北に分け入り、この山塊の東を越えて敦賀から北陸へ抜けていた。

古代 朝鮮半島を船出して、若狭海岸からこの山を越えて琵琶湖から大和へ多くの渡来人や文化が伝来した道でもある。また、近世まで この山塊の東西の肩を越えて若狭につながる古道が通る生活道路でもあった。

今はこの山塊のもっと東側で敦賀へ抜ける西近江街道や塩津から 越える国道8号線が大動脈となって、この山塊周辺は琵琶湖に面 した静かな山郷となっている。

高くはないが、雪の深い湖北にあって、雪解けには花が咲き誇る花の名山としてよく知られた山である。麓には 関西では良く知られたスキー場のあるマキノ高原が広がり、湖岸は桜の名所海津大崎である。

今年の早春 雪が見たくて 古代 鉄の郷 北マキノを訪れた時 この山郷の北の壁となって、べっとりと雪をつけていた山である。 この山塊の琵琶湖側周辺からは 古代 鉄鉱石が産出され、朝鮮 から海を渡ってきた渡来人たちが中心となって、製鉄を一番先に初



滋賀県 琵琶湖周辺の製鉄遺跡群

めた場所のひとつと考えられており、今も古代製鉄遺跡群が残り、また、数々の渡来人の即席が残っている。 初期大和王権の中で、継体天皇が北陸からこの地にかけての鉄を背景にした豪族の出であったのも上記した 理由による。 また、朝鮮半島から海を渡ってきた渡来人たちはこの山塊を越え、近江には数々の渡来人の 里が出現し、大和王権の成立に数々の役割を演じた。 そんな 思い入れもあって 是非とも登ってみたい山でした。

2005.8.29.まだ暑い夏の終わりの早朝に出て、湖北マキノに出かけました。

前回 マキノを一面雪の原でしたが、田圃には稲穂が揺れ、 緑に包まれた高原。シンボルのメタセコアの並木道も緑に 包まれていました。



マキノ メタセコイアの街道

行程はガイドブックにあるとおり、マキノ白谷の奥黒河越から尾根に取り付いて、三国山から稜線を明王の禿から赤坂山を越えて栗柄越からマキノ高原へ下る約12KMのコース。

このマキノ一帯の谷筋には 製鉄遺跡群が散在する古代 の製鉄地帯。

三国山・赤坂山の肩にある

| 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000 | 1000

三国山・赤坂山 walk コースマップ ガイドブックより

黒河越・粟柄越は日本海側から近江・大和への古道。大陸から数多くの渡来人が数々文化を運んだ文化伝来の道で、鉄の技術もこの道を通って伝来したに違いない。この峠に上がることも今回の目的のひとつ。

JR マキノ駅からタクシーで在原集落への分岐まで行く。敦 賀へつながる黒河越の県道 533 号線であるが、ここから先は 道が荒れていてタクシーも登ってくれない。

周りの山を眺めながら 人っ子一人いない広いゴロゴロの登り道を黒河越の峠まで登ってゆく。



白谷から黒河越登山口へのゴロゴロ道

黒河越周辺で







県道 533 号線 敦賀へ通じる黒河越県道 533 号線と三国山・赤坂山登山口への分岐

約40分ほど車道とはなばかりのまったく通行のない県道を登った峠が、三国山・赤坂山 黒河越の登山口。 左の尾根によく整備された登山道がつき、案内板・トイレが整備されている。

この周辺の地質は古生層にその後貫入した花崗岩との接触帯が広く分布し、これらの接触帯には鉄鉱床の存在が知られており、この地周辺の鉄鉱石が日本最初の製鉄に使われた可能性があると見られている。

当時、製鉄技術の習得と鉄の自給が最大課題であった大和連合王権を支える豪族たちは 大陸・朝鮮半島から大和への主要交通路であったこの周辺で 多くの渡来人と一緒になって、製鉄原料となる鉄鉱床を必死になって探したに違いない。そして、この地を含む湖北の地で鉄鉱石を発見するや、 渡来の製鉄技術者を集め、製鉄すなわち鉄素材の製造をこの地で始めたと考えられる。マキノはじめ、周辺地域には古代の製鉄遺跡が散在し、製鉄技術を持つ朝鮮半島特に新羅と関係深い渡来人の根拠地であった。また、この地の鉄鉱石は湖北から近江・大和へも運ばれ、大和王権の鉄支配・日本鉄自給の始まりを迎える。

三国山と赤坂山の間にあって、麓からみると 荒々しい岩肌をさらしている明王ノ禿もそんな 花崗岩の路頭部である。

しばし、登山口の端に座って、そんなイメージを黒河越の道に膨らませるが、今はまったくそんな気配もなく、忘れ去られた道筋 静かなものである。



牧野からの明王ノ禿(中央)と赤坂山(左)三国山(右)



マキノ・西浅井製鉄遺跡群と花崗岩地帯

三国山から明王ノ禿へ

黒河越の登山口より、尾根筋の南側に沿ってつけられた林の中の道を登ってゆく。南側に幾重にも重なった山々が時折、遠望できる。







黒河越登山口から見え隠れする琵琶湖側 南東部に広がる山々

40 分ほどで、南側に突き出た枝尾根の先端部に出て、南や東側の展望の利く。 周囲の山々が深い谷越しに見えるが、三国山や赤坂山は尾根筋に隠れて見えないが、風が吹き抜けて気持ちがいい。 この先端部を回り込んで、また、林の中に下ってゆく。



東側 福井県境の山々

見通しのきかぬ湿地帯を下ってゆく。キンコウカの保護地の札が掲げられていてきつと花の季節には素晴らしいのだろうが、今は一番花のない季節である。一番降りたところを一筋の水が流れていて、ベンチが置かれて縦走路の休憩場となっている。 ベンチに一組中年のハイカーが座っていて、今日はじめて見る人である。

ここから、三国山の三体への登り返して 10 分ほ

ちょうど三国山・赤坂山の主尾根へのトラバースでこのあたりはちょうど尾根に囲まれた湿地帯になっていて、板敷きの道が続く。正面にはどっかりと三国山の尾根がどっかり座り、後ろには遠く 湖北・美濃の山が浮かんでいる。









三国山の尾根下の沢に広がる湿原

どで、三国山との分岐に出る。分岐を 15 分ほど登れば三国山の頂上であるが、あまり展望が開けないと聞いて、 そのまま縦走路を明王ノ禿へと登ってゆく。視界は開けないが、潅木の緑が変化に富んで素晴らしい。





三国山の尾根に広がる緑豊かな樹林

30 分ほどで林の上に空が見えだし、荒々しい直立の岩肌が連なる明王ノ禿が見え出す。

潅木帯を抜け、その稜線に取り付くと、眼下にはマキノから琵琶湖遠望の眺望が開ける。

左右均整のとれた緑の山体の赤坂山が明王ノ禿の岩肌の 向こうに見えている。

東側に切れ落ちた明王の禿の山肌を見ながら、ガレ場の ざらざら道を登りきる明王ノ禿の頂上部。

南北に約300メートルに渡って、東側は垂直に切れ落ち、西側も急傾斜のやせ細った稜線が続くが、崖には鎖の柵が取り付けられ、よく整備された縦走路で心配はない。



明王ノ禿の岩峰とその背後の赤坂山

麓から見ると頂上部は馬の背状の平坦に見えるが、幾つもの岩山の重なりで起伏がある。まさに花崗岩帯 鉄山である。そして、縦走路からはさえぎるものもなく、360 度の展望が楽しめる。









明王ノ禿より マキノ・琵琶湖



北側の三国山を望む



明王ノ禿の縦走路

風が心地良い。



明王ノ禿の岩山の間

南へ岩山越しに赤坂山の縦走路が伸び、東側眼下にマキノ・そして琵琶湖がかすんでいる。 マキノのメタセコイアの並木道がよく見える。 北側から西にかけては若狭側には幾重にも重なった山々そして ずどんと大きい三国山の山体が横たわっている。日本海は見えないが、このやせ尾根を日本海から琵琶湖へ渡る

明王ノ禿から赤坂山へ





明王ノ禿から赤坂山への縦走路 明王ノ禿から赤坂山へは一旦下って暗部に下りて、そこから真っ直ぐ頂上へ登っていく。





熊笹で覆われた赤坂山への登り ススキの穂が揺れていた

明王ノ禿の端から急なガレ場をくだるとまた、林の中に入り、一気に鞍部まで20分足らずで下る。 そこからは、一面熊笹で覆われた赤坂山の頂上を見上げながらまつすぐ上ってゆく。

なだらかな山ではあるが、やっぱり苦しい。頂上はみえているのですが、あえぎあえぎ 約40分ほどで頂上に立 つ。ここは文字通り何もさえぎる間のなく、360度の展望が開ける。



赤坂山頂上からの眺望 (北・東・南方面)

2005.8.29.





北側明王ノ禿への縦走路(左)とマキノ・琵琶湖(右) 赤坂山頂上からの眺望



赤坂山頂上からの眺望 赤坂山から南側 マキノ・粟柄越 2005.8.29.



メタセコイアの並木と山を越える送電線

赤坂山の眼下には湖岸から細長く南北に伸びるマキノが 遠望され、メタセコイアの並木道が田園地帯の中にはっ きり見える。そして、その背後には幾重にも重なる山々 が遠望され、それらは西浅井の古代製鉄地帯である。 赤坂山の南側だだっ広い山体の鞍部には琵琶湖側から山 越で日本海側へ渡る送電線。美浜の原子力発電所から近 畿へ電力を運ぶ大動脈がみえ、そこが粟柄越。

古代から数々の文化を運んだ大動脈・鉄の道が今 電力 の大動脈として蘇っている。

誰一人いない山頂に座って、粟柄越の峠をしばし眺めて、 山腹に揺れるススキの穂、山を越えて行く心地良い風を 感じながら、峠を越え行く古代の人の群れをイメージしていました。

粟柄越の峠から古道をマキノ高原へ下る

赤坂山の頂上から、ススキの揺れる中を送電鉄塔を目印に鞍部まで、10分ほどで下る。振り返ると円弧を描 いた山の輪郭にちょこんと頂上の標識のシルエツト。 背の高い草やササの中に大きな岩が見えてくると もう鞍部。鞍部は 琵琶湖側のマキノから粟柄越 福井県美浜町への古道とさらに南の大谷山へと続く縦走 路の十字路。そして 先ほどの大岩にはお地蔵さんが彫られていて、粟柄越の古道を見下ろしていて、この 道がかつての生活道路であったことを忍ばせる。







ススキがゆれる笹原を粟柄越の鞍部へ











赤坂山の南側の鞍部 粟柄越の峠 周辺

縦走路から東にブッシュの中を粟柄越の古道に入り、古道をマキノ高原へ下る。 道は程なく、すっぽりと自然林の中に包まれ、下ってゆく。







粟柄越 マキノ高原へ下山 よく整備された道の両側に山野草がびっしりの自然林

視界はまったく利かなくなったが、林の緑が美しい。また道の両側には苔むす岩や山野草の緑がびっしり。 花の季節ではなくて残念だが、この山道 花の季節には本当に山野草の花の回廊になるのだろう。

鞍部から、約40分ほど山肌を下って、沢筋に入ったところに石畳の道が少しの区間ではあるが現れ、古道の 痕跡を残している。1時間ほど下るとマキノ高原のスロープの向こうにメタセコイアの街道筋が大きく見え るようになって、ひとくだりで マキノ高原のスロープに出る。

振り返ると今下ってきた織る筋の背後に隠れてちょこんと赤坂山が顔を出している。







古道に残る石畳

マキノ高原近く

マキノ高原

マキノ高原の広いスロープを突ききるとマキノ高原のバス停にでる。バスが出たところで、1 時間以上待たねばならず、また 前回着た時と同様 北牧野からメタセコイアの街道を抜けて、JR マキノ駅まで、約1時間30分 Walk。

おかげで、暮れてゆく赤坂山のシルエツトを眺めながらのメタセコイアの街道を独り占め。 すばらしい山里の夕景に出会えました。

この山里の周囲の谷では、古代 たたら製鉄が営まれ、今歩いているこの街道筋を日本海側から三国・赤坂の山を越えて渡来人を含め、多くの人が往来し、人・物・文化伝播交流の道であった。

その中心は「鉄」 日本最初の製鉄 鉄素材の製造もこの道を通って 始まったのではないか・・・・ そんな「和鉄の道・Iron Road」のロマンをさらに掻き立てる Walk でした。







北牧野からマキノ駅へ 夕闇の赤坂山を眺めながら walk

2005.8.29. 鉄の里 マキノの夕景の中で Mutsu Nakanishi

赤坂山・湖北マキノ写真集 2005.8.29.

























写真アルバム 「薩摩富士 開聞岳八イク」 鹿児島県 開聞町

2005.10.13. kaimon00.htm by Mutsu Nakanishi















山川町より

西大山で

JR 西大山駅より

開聞町川尻浜より

どこから見てもその均整の取れた三角の姿を見せる開聞岳

2005.10.13.

11月13日 薩摩半島南端の「薩摩富士 開聞岳」に登ってきました。

高さは 924m と低いのですが、薩摩半島の先端にあって、海から真っ直ぐに立ち上がり、どこから見ても左右 均整の取れた秀麗な姿を示す円錐形の山。

「高さこそ劣れ、これほど完璧な円錐形もなければ

全身を海中に乗り出した、卓越な構造もあるまい。

名山としてあげるのに私は躊躇しない」

と「日本百名山」の深田久弥が驚嘆した山で 一度は登りたかった山憧れの山でした。 今春 菜の花が咲く頃が一番美しいと言われ、今年の春も計画したのですが、宿が取れず断念。 今の時期10月はシーズンオフで登山客も少なく 静かな山を楽しめました。

前日泊まった山裾の開聞町 川尻浜からは開聞岳の素晴らしい夕焼けが見られ、翌日登った頂上からは 360 度の素晴らしい展望が楽しめました。かえって シーズンオフでよかったと思いました。

頂上で出会った「100名山」踏破を目指す人も言っていたのですが、高さ 924m 大した事ないと思っていたので

すが、海抜 32m の麓から樹林帯の中、正味の山登り。 シーズンで人の多い季節だったら堪えると思います。

山麓の開聞ふれあい公園の草スキー場を抜けたところ が登山口。

開聞岳は姿が示すとおり、太古より噴火を繰り返した 火山で、溶岩と火山礫 火山灰が積み重なった成層火 山とその上 頂上に溶岩ドームを戴く二重式の火山で 昔は噴煙をあげ 噴火を繰り返したが、今は火口がな く静かな山である。

登山口のある開聞ふれあい公園から見上げると樹木 に覆われた均整の取れた山体の上にポツコリ傾斜が急 になつた岩が頂上部を形成しているのが見える。



開聞岳登山口 ふれあい公園より 2005.10.13.

昨日も頂上に雲が巻きついていましたが、快晴の空に時折湧き上った雲が風に吹き飛ばされている。相当風が強いのがわかる。ここから 開聞岳山腹の樹林帯の中を渦巻く状にグルリと一周巻いて登りきると頂上。

3.5km 約2.5 時間のひたすらの登りである。

しかし、上り下りがなく、 よく整備された樹林帯の 道が上へ上へとついてい て足への負担はさほど感 じない。



聞岳登山口 2合目



開聞岳 登山 map









開聞岳登山道 灰分や石ころに混じっての細かい礫・赤土がこの山が火山であることを示してくれる

火山灰地に小さな石ころが混じる道から大きな石がゴロゴロの道に変わり、心地良い風が吹いてくると7合目。樹林帯の中を抜け 木々の間から長崎鼻から山川町から海を越えて大隈半島の山々まで 薩摩半島南東部の海岸がちらちら見える。眼下には東シナ海がそのまま光っており、この山が東シナ海から 立ち上がっているのが良くわかる。また 樹林帯の中に入ると 風がなくなる。登山道が山を巻いていることが良くわかる。このあたりには ツワブキが登山道の脇に咲いて素晴らしい。







7合目周辺登山道 ツワブキの花が咲き 眼下に長崎鼻海岸が見える 2005.10.13. 少し行くと大きな岩が積み重なった仙人洞。溶岩ドームの下部あたりか、岩が大きくなって 岩の間に足を突っ込まないよう 大きな岩を伝ってゆくようになる。どうやら 溶岩ドームの下の当たりに差し掛かったようだ。

不意に薩摩半島の北西部 枕崎へのまっすぐな海岸や半島中央部 池田湖がパツチワークのような田園地帯と共に眼に飛び込んでくる。 上り始めた山麓ふれあい公園も真下である。クルツと一周である。 常に右手が山腹で上り下りの起伏もなくひたすら登って・・・・・。

衛星写真や地図で見た円錐の開聞岳を実感。 また 初めて眼下の町々が見えて 山の高も実感される。 岩肌にススキの穂が揺れ、眼下に薩摩半島のダイパノラマである。

潅木の中急なゴロゴロ岩の登りなのでゆっくり休んでいるわけに行かない。





薩摩半島西部から中央部 池田湖にかけて

2005.10.13.







開聞岳 8合目周辺 岩の頂上部ドームへの登り

2005.10.13.

綱が張られた垂直な岩に梯子がかかっている。この梯子を登って 潅木の中 さらにゴロゴロ岩を伝ってゆくと空も見えるようになり、潅木の間から見上げるような大きな岩になり、それらの横を登りきると不意にごつごつ岩の塊である頂上。約2.5時間の心地良い登山。 今までの無風がうそのように風が強い。

風に飛ばされぬよう岩にへばりつきながら一番高い岩の上にへばりつく。素晴らしい 360 度の景色 眼下に薩摩半島が広がっていた。 頂上には私たち含めて 3 組のみ 360 度のパノラマ楽しむ。



開聞岳頂上 2005.10.13.



隣にいた山慣れた風貌の人に「もう百のうち幾つになりましたか。。。。」と声をかけると「あと7つ 明日から屋久島 宮之浦岳に行く」と名古屋の人。昨日泊まった開聞荘でも「次はそのまま屋久島へ行く」と聞きましたが、本当に百名山踏破を試みている人が多い。

30 分ほど頂上にいて、もと来た道を引き返す。 下りのヒザが心配でしたがトラブルなし。ヒザに巻 いたサポータの有効性またまた 実感です。



頂上より南西側は山体で海が見えず

靴を脱いで 大の字に山麓ふれあい公園の草地に寝転んで 雲の巻きだした頂上を眺める。 登山道は山腹の森の中で全く見えないのですが、山腹を斜めにループしてドームの下に出るルートを描いて ました。

公園の管理棟へソフトクリーム買いに立ち寄ると「開聞岳登山証明書」のカードを作ってくれました。





ふれあい公園周辺から 開聞岳頂上を見る

2005.1013.

海から立ち上がる開聞岳・開聞岳の夕日も見たし、山頂へも登ったし あとはガイドブックでよく見る「JR 枕崎線 西大山駅からの開聞岳」。

これも帰る道に立ち寄って、色々な姿の開聞岳を見ることが出来ました。

開聞岳のあの均整の取れたどこから見ても三角の秀麗な山 多くの人たちが言うように「登るだけの山ではおしい山」 富士山がそうであるように眺める素晴らしい山でもありました。

僕にとっては 前日 薩摩半島の中ほどにある知覧町 に残る薩摩独特の石組み製鉄遺跡を見てきたのですが、 開聞岳はそんな薩摩を「鉄の国」にした「鉄山」でもありました。

夕日に染まってゆく開聞岳を眺めながら 温泉に入って 焼酎飲んで そして 開聞岳に登って

家内と二人 ゴクラク ゴクラク 南薩摩の旅でした



2005.10.13. 真っ暗になった九州自動車道を北に走りながら Mutsu Nakanishi

写真アルバム 「薩摩富士 開聞岳ハイク」

2005.10.13. 鹿児島県 開聞町























2005年 風来坊 Country Walk

山口・美祢・美祢の四季

風来坊 Country Walk ・山口・美祢・美祢の四季

- 1. 田中講平さんの「萩」と山口市吉敷の四季とのコラボレーション 田中講平さんの素晴らしい作品展示館 「GALLERY HAZUKI」を訪れて オールカラー鋼板の斬新な建物に感激
- 2. 久しぶりの下関で おもしろい下関唐戸市場

By Mutsuo Nakanishi

田中講平さんの「萩」と山口市吉敷の四季とのコラボレーション

田中公講平さんの素晴らしい作品展示館 「GALLERY HAZUKI」

吉敷の自然に溶け込んだオールカラー鋼板の斬新な建物に感激

gallery01.htm 2005.10.25.











山口で懇意にしている萩焼の陶芸家 田中講平さんから 陶房内に自分で設計した作品展示館「GALLERY HAZUKI」が完成したとの連絡をもらって、10月14日工房へお祝いかねて参上。

入り口の竹林を抜けて坂を抜けると、工房 の横 樹木の緑の中に 赤と黒の縦の線が 2 本入ったシルバーの素晴らしい建物が建って いた。

外装は屋根を含め、オールカラー鋼板に覆われ、 内部に入ると木の香りの中 展示され



た萩焼作品のバックに大きな窓から 緑に包まれた山裾に広がる吉敷の郷(山口市湯田)が眼に飛び込んでくる。

周囲の緑によく調和しつつも個性的な落ち着いた空間が広がって、まるで演出された舞台にみまごう素晴ら しさ。

中に入ると窓辺に沿った展示棚に田中講平作品が配置され、作品のバックにいやおうな しに吉敷の四季が飛び込んでくる。

1.

また、壁のスペースに配置された作品の上には丸や四角の飾り窓。そこから差し込む自然がバック。和風建

築を思わせる太い梁と落ち着いた 壁 そして大きな窓 3つのスペ ースが 1 つのオープンな 空間と して広がっている。

外の斬新な建物とはまた新しい空間に入り込んだような落ち着いた展示スペースに息を飲む。

窓辺の展示棚の一角にはさりげなく赤と黒の椅子が置かれている。腰をかけて 景色を眺めながら作品を味わえるのもうれしい。また、中央部には、山口・秋吉カルストの自然大理石がそのままテーブルとして置かれ、親しく談笑・休憩しながら作品を見られる。



『伝統の萩「和」に加えて 新しい洋物の萩

和と洋 両方の作品にゆっくり触れてもらえる空間をを作りたい。 シルバー・赤・黒 そして 内部のオープンな窓と木の香りが見事に答えてくれた 」と。

萩の展示館というと和が中心で 外と遮断した建物というのが普通。 大胆にも大きな窓をとり、外の景色を取り込み 作品と調和させる先進性。 田中さんの「萩」と「吉敷の四季」とのコラボレーシュンが素晴らしい斬新な建物。 萩焼 陶芸家 田中講平さんの作品群の一つである。

鉄屋である私にとっても 感慨深い「カラー鋼板」 うれしい「鉄のモニュメント」である。 ちなみにこの田中さんのギャラリーを飾るのは 某社の AI Zn の合金めっきガルバニュウム鋼板製。 住宅用のカラー鋼板は自動車用鋼板の華々しさに隠れてはいるが、薄鋼板の上に幾重にも金属・セラミック・樹脂が重ねられ、耐久性・耐腐食性・加工性・意匠性など他の建材と比しても高級感ただよう建材。 私は直接かかわったことありませんが、仲間が住宅建材の開発に苦労した材料。

「鉄板 鉄板」とジュツパヒトカラゲで言われ、主用途が工場か倉庫の外装であったカラー鋼板がその弱点を 克服して いまやモニュメントを飾ることができるようになった。 誇らしい限りです。

家内が通った陶芸教室の先生ですが、ご夫妻の人柄に触れ、たたらの精錬や鋼の熱処理など鉄の分野と合い通じるところがあって、ホームページニ参画、させてもらったり、山口に行くとお邪魔して話し込む。 うれしくなって、この夜 山口湯田の街を眺めながら 遅くまで祝杯をあげました。

常に先端を追求しながらも 落ち着いた 萩の和・洋を演出する陶芸家 田中講平の作品 こんな自然とのコラボレーションの中で どんな作品が生み出されてゆくのか・・・・ みんなの目に触れるのが また 次の楽しみである。

山口市の街中から10分ちょっと 山口の温泉「湯田」カラ 車で5分もう 遠望する山口の山々も紅葉で 素晴らしい季節になっている頃山口へ出かけたら是非 出かけてみて下さい。

2005.10.25. By Mutsu Nakanishi

久しぶりの下関 唐戸の市場で 2005.10.16.

面白い市場 下関唐戸市場 【1】

日曜日 下関「唐戸市場」は「うまいもの市・お祭り広場」







山口県 下関市 海峡に面した日曜日の唐戸市場は「うまいもの市・お祭り広場」 2005.10.16.

下関の町の中心部唐戸に魚の卸売市場の唐戸市場がある。

下関海峡に面していてすぐ東に関門橋 海峡をはさんで向いが門 司の町である。

鉄道・船の交通事情が変わり、港も寂れる一方だった下関の町で したが、海峡に面した港が公園化されるのに合わせ、唐戸市場も 新しく建て替えられ、明るい卸売市場になった。

夜明けから市が立ち フグをはじめ、一般の人も買える市場で下 関の顔でもあった。

しかし、早朝から市が立ち、午前中で終わってしまうので、午後にはゴーストタウン ましてや日曜日は市もなく真っ暗な場所で活気のある朝を知らない旅行者やよそ者にとっては寂れ行く象徴



市場の中に開かれた屋台のすし屋

みたいな感じもしていました。

空き地が整理され、海岸沿いのきれいな遊歩道公園として整備され、道をはさんで反対側にあった市場が海峡側に移転され、整備されると俄然唐戸市場にも活気と人出が出るようになってきましたが、 日曜日 ひと気のない卸売市場の広い空間が居座り、遊歩道にも 人影がまばらでした。

ところが 久しぶりに日曜日の唐戸市場に行って びっくり。

唐戸市場の中も外の遊歩道の公園にも観光客はじめ多くの人があふれ、観光バスから次々と人が降りてくる。 本当に様変わりの場所になっていました。

兆候はこの数年前からあったのですが・・・・・・・



日曜日 唐戸卸売市場の中に出る多数の屋台のうまいものや

ここが卸売り市場とは・・・・

理由は日曜日 市が立たず閉められた卸の店を借りて市場の中が一大屋台のすし屋街になっていて、すしを中心としたテーマパーク状になっていて 人があふれていました。

ふぐのすしはじめ数々の「すし」「ふぐ」の剥き身にから揚げ ふぐサシ 「くじら」「めんたいこ」 などなど下関の売り物が見せいっぱいに広げられ、すぐそこで食べられるデパ地下の感覚のフードパークである。

みんな とりどりのすしをパックに詰めてもらって 市場の通路に並べられたいすや市場の外の海岸ぞいに 座ってほおばっている。

お店の中に人を囲い込むのでなく、屋台のお祭り広場の観がみそ。

市場に入ってきた客が店に座ることなく好き勝手に外へ持って出て食べている。これは効率がいい。店も屋台。 したがつて 「安い 早い 新鮮 そして 下関の名物」が売り物

市場が出来た当初 2 階に新鮮な魚をそのままにぎるすし屋として TV 雑誌に取り上げられ、行列で数時間並ばないと食べられないなど話題になりました。

でも それよりも この休日活用の市場の集客力 すごいものである。

海外旅行で屋台街に行くのと同じ感覚で 人が人を呼ぶと言うのか 大変な人出になっていました。 確か 数年前は休みの市場の中に数軒すし屋が店を出しているだけでしたが、びっくり。

駐車場もある 広い場所もある 平日とはまっ たく違う顔が唐戸市場にありました。

レストランや店とはちょっと違った非日常的な スタイルが 「うまいもの市」と「お祭り」大 好きな日本人好みにも合って 自然発生的にど んどん大きくなって ひとがあふれていました。 スペースはまだある。 口コミでどんどん大き くなっている感じ。

都市の真ん中にあって 日曜日にはしっかり閉 ざされた空間が多いが、こんな使い方があるの か・・・と。



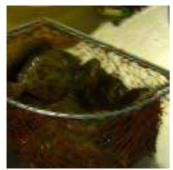
私も家内と二人 フグほかのすしやフグのから揚げをパックに入れてもらって 片手にビール缶を握って 源平の海峡見ながら 野外の草の上で気楽に広げました

ほんと 安くてうまい 観光客にこれは受ける うまい商売 下関も考えたえた・・・・と。

下関の唐戸市場でもうひとつ

面白い市場 下関唐戸市場 【2】

「はげ」と「かわはぎ」は同じ魚 皮の剥ぎ取りの早業にびっくり







唐戸の市場で 生きた「かわはぎ」と皮を剥ぎ取られた「かわはぎ」 この魚「はげ」ともいう

下関の唐戸市場の一角で地の魚を売っている店 水槽に小さな 「かわはぎ」を泳がせて売っている。

「ふぐとおんなじぐらい刺身もうまいし 煮付けも鍋も ま た肝がうまい・・・」という。

水槽の前に白い「はげ」が並んでいる。

泳いでいる黒っぽい「かわはぎ」をはいだやつが前にならべた やつだという。

「かわはぎ」の皮を剥いだから「ハゲ」というのかどうか知りま せんが、「かわはぎ」と「はげ」は同じだという。



唐戸市場で「かわはき」を買う

「まるはげ」と呼ぶところもある。

網ですくい上げて 尻尾に包丁入れて 手で「ベキッ」と皮をめくってしまう。この間数秒の早業。

まったく 残酷というまもない 早業。今まで跳ねていたやつが丸 裸でおとなしくなってしまう。 小物ばかりだが、網一杯 10 数 匹で 1000 円

皮を剥くのが面白くて 「刺身 そして 煮付けときも」 の食べ 方など教わって買いました。 さしみはふぐととおなじ味 うまい魚です。 下関の魚屋が言 うから間違いなし。



「かわはぎ」の皮を数秒ではぎとる早業 唐戸市場で

ちり鍋に入った「はげ」は食べたことありましたが、「はげ」と「かわはぎ」が一緒とは知らず。また 皮を「ベキッ」と一瞬で剥いて調理する早業での「はげ」への変身にはたまげました。 あとで調べると 昔はこのカワハギの皮をサンドペーパーに。 また 肝をふぐの肝と偽って出すこともあると。 もっとも カワハギもふぐ科の魚なので いっしょ これからが ふぐ カワハギ の季節です

2005.10.16. 下関 唐戸市場で By Mutsu Nakanishi

